豊後大野市
20年のあゆみ

大分県豊後大野市

表紙題字　井上　朋香

ごあいさつ



豊後大野市は、平成17（2005）年3月31日に「豊かな自然と文化を未来につなぐやすらぎ交流都市」を都市像に掲げて、旧大野郡の三重町、清川村、緒方町、朝地町、大野町、千歳村及び犬飼町の5町2村の合併により誕生し、この度20周年という節目を迎えることができました。これまでの市政運営に対する市民の皆さまの御支援と深い郷土愛に、心より感謝申し上げます。

さて、本市は、豊かな自然と雄大で美しい大地、そして、先人たちの英知とたゆまぬ努力により、脈々と受け継がれてきた歴史・文化・伝統があるまちです。

一方、人口減少や少子高齢化が進む中、この豊後大野市を未来に向かってつないでいくためには、地域で育った若者が地域に残っていけるようなまちづくりを進めていくことが必要と考え、それぞれの地域が持つ魅力や個性、特徴を最大限に生かしながら、「持続可能な豊後大野市づくり」の実現に向け、各種施策に取り組んでまいりました。

市制施行20周年において掲げた「つながる、つなげる 豊かなまち」は、私たちがこれまで歩んできた道のりを象徴しています。5町2村がひとつになり、自然や伝統、文化をつなぎ、国内外の交流都市と協定等を結んだ20年。その成果を未来へつなげていく期待を込めて、「豊後大野市20年のあゆみ」を刊行いたしました。

私たちが築いてきたこの豊かなまちを次世代へと引き継ぎ、未来に向けて新たな挑戦を続けてまいりますので、今後とも、皆さま方のより一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、市民の皆さまの御健勝、御活躍を祈念申し上げ、刊行に当たってのごあいさつといたします。

豊後大野市長　川野　文敏

目次
CONTENTS

第１章　市民憲章・市の概要・・・

第1章
市民憲章・市の概要

●豊後大野市市民憲章

＜前文＞

わたしたち豊後大野市民は、恵まれた自然と母なる大野川のもとで多くの歴史的・文化的資源を受け継いできました。このまちの市民であることに大きな誇りと責任を持ち、自然と文化を未来へつなぎ、活力とやすらぎのあるまちづくりのため市民憲章を定めます。

＜本文＞

一、豊かな自然を守り、美しいまちをつくります。
一、健やかな心とからだを育て、明るいまちをつくります。
一、芸術を愛し教養を高め、文化の香るまちをつくります。
一、働くことに喜びを持ち、活力のあるまちをつくります。
一、思いやりの心を大切に、温かいまちをつくります。

（平成18（2006）年4月1日制定）

●市の概要

豊後大野市は、平成17（2005）年3月31日に三重町、清川村、緒方町、朝地町、大野町、千歳村及び犬飼町の5町2村が合併して誕生しました。

本市は、大分県の南部、大野川の中・上流域に位置し、東西約22キロメートル、南北約31キロメートル、総面積は、603.14平方キロメートルであり、県土の9.5%を占めています。

東部は大峠山（おおとうげやま）、佩楯山（はいだてさん）、西部は阿蘇外輪山のすそ野、北部は神角寺（じんかくじ）・鎧ヶ岳（よろいがたけ）、南部は祖母（そぼ）・傾山（かたむきやま）、三国峠（みくにとうげ）により囲まれ、盆地状をなしています。地形的、地理的には必ずしも恵まれてはいませんが、起伏に富み、かつ複雑な地形を活かすとともに、大小の河川を集めて別府湾に注ぐ大野川の豊かな水利があり、県内屈指の畑作地帯を形成しています。また、神角寺・芹川県立自然公園、祖母・傾県立自然公園、祖母・傾国定公園によって囲まれており、有形、無形の地域資源に恵まれた名水・田園・観光のふるさとでもあります。

気候は南海型気候に属し、平地気候と山地気候のほぼ中間にあり、四季を通じておおむね温暖で、一部の山岳地帯を除いては、平坦地の平均気温は15～16℃と極めて農耕に適しており、古くから農業を基幹産業として発展してきました。

人口　30,504人（令和7（2025）年国勢調査速報値）
面積 603.14㎢

最東端	北緯	33°	5′	13″	東経	131°	40′ 44″
最西端	北緯	32°	49′	41″	東経	131°	20′ 49″
最南端	北緯	32°	48′	12″	東経	131°	21′ 54″
最北端	北緯	33°	7′	14″	東経	131°	33′ 18″

●市章（平成17（2005）年8月3日制定）

豊後大野市の豊後と大野の頭文字（英字）の「B と O」を組み合せ、豊かな自然と文化を未来へと継承し、発展するまちの姿を表現しています。赤い中央の太陽は、健康で文化の香るまちの輝く希望を、青の大野川の流れは、人々の協働・共創の和を象徴しています。

※デザインは彦根　正さん（東京都）



●市花「ボタンザクラ」（平成18（2006）年4月1日制定）

バラ科サクラ属サトザクラグループ

ボタンザクラは、ソメイヨシノの花が終わった後、４月下旬頃から開花し始め、2.5 センチ程の薄紅色の八重の花が咲きます。古くから豊後大野市大野町の烏帽子岳浄水寺の庭に咲いていて、花々が重なり合い、一つになって優雅な美しさを放つその姿は、市民に広く親しまれています。



●市木「クヌギ」（平成18（2006）年4月1日制定）

ブナ科コナラ属

クヌギは、豊後大野市において広く分布し、一面の春の新緑・夏の深緑・秋の黄葉と、地域特有の他に誇れる景観を作り出す樹木です。

産業面では、薪炭材としての活用の歴史や、量的・質的に全国有数の椎茸生産地であることからも、その原木として非常に重要な役割を果たしています。

市内全域に分布し、四季を彩るこの樹木は、本市にとって欠かせない存在です。

●市イメージキャラクター

「ヘプタゴン」



- 9 歳の女の子
- 弟である「なばっピー」のことが心配でいつも気にかけているお姉ちゃん
- 「なばっピー」と一緒にいることが多く、1 人では何もできない恥ずかしがり屋さんな一面もある
- 常にかわいい仕草を研究していて、実はアイドルになりたいという夢をひそかに持っている
- 生まれ育った豊後大野の自然や食べ物が大好きで、特に最近は豊後大野市産のピーマンを使った料理にハマっている

「なばっピー」



- 5 歳の男の子
- とにかく元気で、ほっといたらどこにでも飛んでいきそうなため、「ヘプタゴン」に心配ばかりかけている
- 本人はお姉ちゃんを連れて歩いていると思っているが、実は「ヘプタゴン」がいないと元気も半減する
- 家の中にいるよりも外で遊ぶことの方が大好きで、いつも土まみれになっているため、洗濯物が増えて困っている
- 豊後大野市産の椎茸が大好きで目がない

第２章
合併後のあゆみ

平成17(2005)年

３月31日　５町２村が合併して豊後大野市が誕生

４月８日　豊後大野市立大野小学校開校式
（中部小、東部小、西部小、南部小、北部小が統合）

４月24日　豊後大野市初代市長に芦刈幸雄氏が就任


芦刈市長就任

５月17日　合併して最初となる第１回豊後大野市議会臨時会を開会。議長に若松成次議員、副議長に小野泰秀議員が就任


第1回市議会

５月20日　第１回豊後大野市農業委員会臨時総会を開催。会長に羽田野秀信委員、副会長に内田俊和委員が就任

５月31日　豊後大野市教育長に首藤正史氏が就任

７月22日　豊後大野市助役に喜田正憲氏、収入役に安東忠司氏が就任

８月14日　豊後大野市第１回成人式がエイトピアおおのにて開催（新成人529人）

８月22日　大韓民国益山市と友好交流協定調印

８月23日　豊後大野市発足記念式典開催



市発足記念式典

９月５～６日　台風14号襲来により各地で道路の崩壊、土砂災害が発生

10月～11月　第１回豊後大野市ふるさと振興祭が各町で開催

10月28日～　豊後大野市市政座談会開催（８会場で参加者765人）

平成18(2006)年

３月２日　国立大学大分大学と相互協力協定調印

３月27日　犬飼中学校校舎落成式典

３月　キラキラこどもプラン（次世代育成支援地域行動計画）策定

４月　市民憲章・市花（ボタンザクラ）・市木（クヌギ）制定

４月　「豊後大野市行政改革大綱」・「豊後大野市行政改革集中改革プラン」を策定

４月12日　大分県立三重総合高等学校開校式・入学式生徒数279人
（三重本校240人・久住分校39人）

６月１日　人・もの・情報で結ぶまちの拠点づくり「まちの駅」がスタート

６月26日・27日
全国椎茸品評会で大分県が８年連続優勝

7月1日　広く市民の皆さんから意見を聞く「声のひろば」開始

9月1日　社団法人豊後大野市農林業振興公社開所（清川、緒方、大野にあった農業公社を一つに）

11月14日　豊後大野市観光協会設立



豊後大野市観光協会設立総会

12月14日　大野川中流地区広域営農団地農道開通式（奥豊後グリーンロード）

12月25日　豊後大野市戸籍総合システム稼動式（戸籍の電算化スタート）



戸籍総合システム稼働式

平成19（2007）年

1月8日　2回目から成人式が1月の開催へ

2月　温見地域畜産振興会（朝地町）が畜産大賞で優秀賞受賞

2月6日　三重東小学校新校舎落成式

3月7日　御嶽神楽が国の重要文化財に指定



重要無形民俗文化財指定書交付式

3月18日　地域高規格道路「中九州横断道路」犬飼千歳道路（4.3km）が開通

3月　第1次豊後大野市総合計画策定

4月　投票区の見直しにより、50か所の投票区を40か所に統廃合

4月1日　大野地方振興局が竹田市に新たに設置される豊肥振興局に移管

4月1日　一市一消防本部に再編し、緒方町、大野町、犬飼町に分署を設置

5月1日　副市長に衛藤孝典氏が就任

5月11日　第2回豊後大野市議会臨時会が開会、副議長に生野照雄議員が就任

7月7日・8日　本市で全国乾椎茸品評会が開催、大分県が団体で9年連続優勝



全国乾しいたけ振興大会

8月21日　第1回豊後大野っ子市議会開催

10月1日　電子入札システムの本格運用開始

10月20日　友好都市である東京都台東区と「災害時相互応援協定」を締結

11月18日　産廃処分場建設反対総決起大会開催（建設予定地大野町小倉木地区）

12月　三重中継局地上デジタル放送開始

12月2日　平成19年冬巡業大相撲豊後大野場所が開催される（大盛況）

平成20（2008）年

1月　大分県知事より公立病院統合の話を受ける

3月22日　中九州横断道路「千歳大野道路」8.7km開通

３月31日　市内高等学校３校が閉校（大分県立三重高等学校・大分県立三重農業高等学校・大分県立緒方工業高等学校）

３月31日～４月４日
犬飼町で「デトロイト・メタル・シティ」の映画ロケ（松山ケンイチさん・ 宮崎美子さん出演）

５月15日　第１回豊後大野市農業委員会臨時総会を開催。会長に羽田野秀信委員、副会長に後藤敏生委員が就任

６月17日　公立病院のあり方に関する提言書提出

７月　豊後大野市の市庁舎計画に係る説明会開催（各町）

７月８日　神楽会館新築工事に伴う安全祈願祭

７月15日　公立おがた総合病院を核に県立三重病院は診療所等に決定

８月７日　株式会社サルティが大野町進出を表明（本社　神奈川県平塚市）

９月１日　学校法人後藤学園と旧三重高校跡地の貸付に関する契約締結

９月16日　オリエンタル・サービスが大野町に進出を表明（本社　東京都港区）

９月27日　チャレンジ！おおいた国体開幕


馬術競技

10月25日　雪舟ゆかりの自治体が集う、第12回雪舟サミット開催

12月７日　第21回大分県郡市対抗女子駅伝競走大会で優勝

12月18日　公立病院の統合に関する基本協定締結


公立病院統合基本協定締結

平成21（2009）年

２月２日　エイトピアおおの10周年記念「神楽オペラ　ＳＨＩＮＷＡ」上演

３月２日　県立三重総合高等学校第１期生217名が卒業

３月７日　犬飼小学校通山分校休校式

４月１日　豊後大野市消防団発足

４月１日　豊後大野市高齢者憲章を制定

４月１日　簡易水道料金の統一

４月８日　藤華リハビリ学館開校及び助産学科開設

４月16日　安井プラスチック株式会社が操業開始を表明（本社　宮崎県門川町）

４月24日　豊後大野市長に橋本祐輔氏就任


橋本市長就任

４月24日　第２期目となる豊後大野市議会の始まり（議員定数は31人から24人に改正）

５月１日　第１回豊後大野市議会臨時会が開会
議長に生野照雄議員、副議長に首藤正光議員が就任

５月31日　久保田正治氏教育長に就任

６月20日　神楽会館落成式

8月1日　副市長に田代勝義氏就任
9月6日　女性消防団 虹色スマイリーが発足
10月1日　児童医療費助成事業が始まる
（小学校1年生から中学3年生までの児童の医療費（保険診療の自己負担分）を助成）
11月15日　統合病院新病棟の建設工事着工

平成22（2010）年

2月14日　犬飼小学校通山分校閉校記念式典
2月21日　長谷小学校閉校記念式典
4月1日　上緒方小・小富士小・緒方小・長谷小・犬飼小通山分校閉校
5月18日　豊後大野市男女共同参画都市宣言制定
10月1日　子ども医療費助成事業がスタート
10月1日　豊後大野市民病院開院


市民病院開院式

10月～　地域担当職員制度がスタート

平成23（2011）年

3月1日　百枝小・三重第一小に新体育館が完成
3月11日　東日本大震災発生
3月14日　緊急消防援助隊が出発（佐藤武文消防本部警防課長をはじめとする隊員7名が、被災地に向け出発）


緊急消防援助隊出発式

4月17日～5月17日
人的支援を開始（保健師8名、事務職員5名の計13名を宮城県石巻市へ派遣）
5月11日　第2回豊後大野市議会臨時会が開会
議長に小野栄利議員、副議長に伊藤憲義議員が就任
5月16日　第1回豊後大野市農業委員会臨時総会を開催。会長に後藤敏生委員、副会長に合澤伸彦委員が就任
6月1日　ぶんごおおのケーブルテレビ開局
6月13日　ケーブルテレビによる豊後大野市議会定例会の放送を開始（定例会一般質問の実況中継と録画放送を開始）
9月中旬から　マイエンザ実証実験開始
10月1日　豊後大野市消費生活センターを開設
11月13日　第1回豊後大野市ふるさとまつり開催



第1回市ふるさとまつり

11月15日　県中学校駅伝競走大会男女ともに優勝（三重中学校）
12月1日　豊後大野市雇用創造協議会発足

平成24（2012）年

1月4日　コミュニティバス、あいのりタクシー運行開始
1月11日　インキュベーションファーム第1期生開講式
1月20日　三重野津原線矢田工区開通
2月17日　三重中学校西館校舎落成式
3月から　定住促進事業「空き家バンク登録制度」開始
3月9日　福祉避難所を指定（市内の19施設）
3月22日　㈱山忠と立地協定書を締結

３月 31 日　市内４つのへき地保育園（へき地上緒方・へき地南部・へき地小富士保育園、へき地清川保育所）閉園
４月　市行政組織・機構再編（部制から課制へ移行）
４月から　ジオパーク認定にむけての取組開始
４月 27 日　消防本部・消防署庁舎移転



消防本部新庁舎開庁式

５月 30 日　第１回　豊後大野市チャレンジデー 2012 開催
７月７日・８日
2012 年全国乾しいたけ振興大会開催（全国乾椎茸品評会では、大分県が団体で 14 年連続、46 回目の優勝。個人では、三重町の首藤岩光さんが農林水産大臣賞）



全国乾し椎茸振興大会

７月８日　しいたけフェスティバル（清川町の鈴らんの「しいたけカツ丼」がグランプリに輝く）
７月 12 日　九州北部豪雨発生（県内では北部と西部、竹田市、そして豊後大野市において甚大な被害発生）
７月 30 日　林道基幹道三国灰立線開通式（ふるさと林道 4,312 m　林道基幹道 12,162 m）
９月 20 日　豊後大野市農業振興協議会発足
10 月１日　豊後大野市まちづくり基本条例施行
10 月１日　豊後大野市議会基本条例施行
11 月 18 日　豊後大野市青年演劇祭開催（塩屋俊監督プロデュース）
11 月 25 日　関西豊後大野市会発足
12 月 14 日　清川中学校校舎が完成

平成25（2013）年

１月 15 日　インキュベーションファーム第２期生開講式
２月８日　本庁旧庁舎業務終了
２月９日～ 11 日
本庁新庁舎への引越作業
２月 12 日　本庁新庁舎での業務開始
２月 16 日　本庁新庁舎開庁式



本庁新庁舎開庁式

２月 27 日　緒方小学校新築工事完了
３月 28 日　清川中学校校舎・屋内運動場が完成
４月１日　豊後大野市体育施設予約システム稼働
４月１日　市民病院院長に木下忠彦氏が着任
４月１日　市民病院で助産外来がスタート
４月～　市税等コンビニ納付がスタート
４月 14 日　豊後大野市 市長・市議会議員選挙投票日
４月 24 日　橋本市政２期目がスタート
４月 24 日　第３期目となる豊後大野市議会の始まり（議員定数は 24 人から 22 人に改正）
５月１日　第１回豊後大野市議会臨時会が開会。議長に小野泰秀議員、副議長に小野順一議員が就任
５月１日　豊後大野畜産センター開所式
５月 13 日　日本ジオパーク認定に向け広瀬知事へプレゼンテーション

5月20日　日本ジオパーク加盟に向け日本地球惑星科学連合大会でジオプレゼンテーション（千葉県幕張メッセ）
7月　市報ぶんごおおの100号達成
姫島小との夏休みジオ交流事業が始まる
7月31日　田代勝義副市長退任
8月4日　ＪＲ豊肥線全線復旧及び開通記念行事（竹田駅）
8月23日　県道三重新殿線バイパス「内田赤嶺工区」開通式（延長740ｍ　全幅11.25ｍ）
8月26日～28日
日本ジオパーク委員会現地審査
9月24日　おおいた豊後大野ジオパークに認定


ジオパーク認定報告

10月14日　平成25年度 特別巡回ラジオ体操・みんなの体操会（三重総合グラウンド陸上競技場）
10月15日　ジオパーク認定書交付（隠岐大会にて）
10月20日　ものがたり観光行動学会「広域シンポジウム」開催（神楽会館）
12月10日　豊後大野市三重葬斎場建設工事着工
12月15日　おおいた豊後大野ジオパーク認定記念シンポジウム開催

平成26(2014)年

2月28日　豊後大野市議会定例会のケーブルテレビ放送を拡大（平成26年第1回定例会より議会本会議の開会日と閉会日の実況中継を開始）
3月19日　地域づくり事業協働協定書調印式
3月26日　豊後大野市清掃センターの延命化工事に着手（総事業費1,582百万円 工事期間平成28年3月15日まで）
3月26日　豊後大野市大野葬斎場建設工事着工
3月28日　豊後大野市太陽光発電所完成
4月1日　副市長に赤嶺謙二氏就任
4月10日　太陽光発電所発電開始式(第3発電所)


発電開始式

5月19日　第1回豊後大野市農業委員会臨時総会を開催。会長に後藤敏生委員、副会長に 曲修委員が就任
5月28日　チャレンジデー（対戦相手 秋田県潟上市）
6月15日　神楽会館5周年記念公演
7月2日　豊後大野市地域公共交通活性化協議会が国土交通大臣表彰受賞
8月29日　大分県市長会秋季定例会（神楽会館）
9月15日　大分第2木質バイオマス発電所新設工事起工式
12月16日　市制施行10周年キャッチフレーズ・ロゴマーク審査会



10周年記念ロゴとキャッチフレーズ

12月24日　県道「緒方大野線」津留橋の開通式

平成27(2015)年

1月27日　豊後大野市葬斎場火入れ式
2月9日　豊後大野市定住促進ローンに関する協定書調印式
2月15日　中九州横断道路 大野竹田道路（大野～朝地間）開通式

２月16日　別府大学との包括協定に係る調印式
３月17日　菅尾小学校屋内運動場耐震補強改修工事完成…本工事の完成により平成21年度から着手した「市学校施設耐震化計画」による事業を完了
３月27日　豊後大野市三重葬斎場・大野葬斎場竣工式
３月31日　豊後大野市立菅尾幼稚園・百枝幼稚園・長谷幼稚園廃園
３月31日　合併10周年記念日
３月　第３期豊後大野市行政改革集中改革プラン、豊後大野市公共施設等総合管理計画策定
６月21日　豊後大野市市制施行10周年記念特別講演会　地方創生担当大臣　石破茂氏
市制施行10周年記念チャレンジデー2015、４度目の挑戦で初勝利
９月13日　市制施行10周年記念NHKのど自慢
11月３日　市制施行10周年記念式典



10周年記念式典

11月４日　三重ふれあい児童館が移転
11月14日　“大地”と“生きもの”シンポジウム
新三重浄水場運転開始
11月28日　情報発信拠点施設「ぶんご大野bureau（ビューロ）」大分市竹町商店街にオープン
12月９日　株式会社豊和銀行と「地方創生に係る包括的連携協力に関する協定書」調印式
12月21日　大分県石油商業組合豊肥支部豊後大野部会と「災害時における石油類燃料の供給等の協力に関する協定」締結

平成28（2016）年

１月26日　市内郵便局と「災害発生時における市と関係郵便局の協力に関する協定書」調印式
２月15日　市役所大野支所、旧大野保健センターへ移転
４月14日　熊本地震発生
５月14日・15日
俳優　斎藤工さん発案のcinema bird in OITA、明尊寺（大野町）で開催
９月４日　大分豊肥地区総合防災訓練
９月29日　木質バイオマス発電所「エフオン豊後大野発電所」竣工式
10月４日　福岡県みやま市と「地域再生可能エネルギー活用に向けた連携協定書」調印式



みやま市との協定書調印式

10月８日　阿蘇山爆発的噴火、市内にも降灰
11月２日　株式会社システムサポート（三重町秋葉）と「災害時等におけるマルチコプターの支援に関する協定書」締結

平成29（2017）年

２月28日　県道三重新殿線バイパス（赤嶺牟礼工区）開通
４月16日　豊後大野市 市長･市議会議員選挙投票日
４月24日　豊後大野市長に川野文敏氏就任


川野市長就任

5月1日　第4期目となる臨時議会開催。議長に佐藤辰己氏、副議長に衞藤竜哉氏選任

5月16日　朝地町綿田地区地すべり発生


綿田地区地すべり

5月16日　「西日本クロノス株式会社と豊後大野市との連携と協力に関する協定」締結式

6月13日　教育長に下田博氏就任

6月15日　祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク登録記念セレモニー

6月27日　里の旅ものがたり館「あっそうか!」オープン

7月1日　副市長に石掛忠男氏就任

7月8日・9日　2017年全国乾しいたけ振興大会開催（エイトピアおおの）

9月24日　祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク登録決定記念イベント「田中陽希氏講演会」（神楽会館）

11月1日　生活協同組合コープおおいたとの包括的連携協定調印式

11月12日　東京都台東区との友好都市提携30周年記念セレモニー

12月15日　県道三重新殿線バイパス「内田工区・赤嶺牟礼工区」開通式

12月22日　おおいた豊後大野ジオパーク再認定

平成30（2018）年

2月1日　株式会社ぶんごおおのエナジー開所式

4月28日　サイクリングハブ施設（大野町）オープン


サイクリングハブ施設オープニングイベント

7月4日　大分森林管理署と「地域の安全確保に向けた森林情報の共有及び長期的な森林の育成に関する協定」調印式

10月6日～11月25日　第33回国民文化祭・おおいた2018
第18回全国障害者芸術・文化祭
豊後大野市主催事業：第14回大分アジア彫刻展・特別企画「巨大寝ころび招き猫」（9/1おひろめ会）


巨大寝ころび招き猫 おひろめ会

10月9日　旧大野高校跡地宅地分譲受付開始

11月25日　大分県・豊肥地区総合防災訓練

12月26日　朝地町綿田地区地すべりによる避難勧告の発令と警戒区域の設定を解除

平成31（2019）年（令和元年）

1月26日　豊後大野市×JR九州2019年新春企画「おおいた和牛新春列車」運行

１月 28 日　大分県土地改良事業団体連合会と「災害支援等に関する協定」締結式
２月 19 日　コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社と「災害対応型自動販売機設置協定書」調印式
４月　市子育て世代包括支援センターきらきら開設
４月　市役所別館開設
５月 21 日　議会臨時会開催、議長に衞藤竜哉氏、副議長に宮成昭義氏就任
５月 22 日　副市長に石井聖治氏就任
９月３日　ネパール　ムシコット市訪問団表敬訪問
９月 27 日　交通死亡事故ゼロ 700 日達成記念式典（エイトピアおおの）



死亡事故ゼロ700日達成記念式典

11 月３日・４日
第 10 回日本ジオパーク全国大会 2019 おおいた大会（エイトピアおおの）


ジオパーク全国大会（市役所前特設会場）

令和２（2020）年

２月 10 日　新朝地支所開所
２月 17 日　新清川支所開所
４月　新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言発令
５月 11 日　新犬飼支所開所
６月６日　リバーパーク犬飼リニューアルオープン
６月 13 日　下田博教育長、２期目の就任
７月　ふるさと大使委嘱状交付（３人、2026 年７月末現在 10 人）
８月８日　豊肥本線全線復旧、平成 28 年熊本地震に伴う肥後大津～阿蘇間の不通区間解消
８月 24 日　コバシ株式会社大分工場と「災害発生時における段ボール製品の調達に関する協定書」調印式



コバシ株式会社との協定書調印式

９月７日　千歳支所・千歳公民館開所（改修）
10 月 19 日　新緒方支所・公民館開所
11 月 25 日　天皇・皇后両陛下「はつらつ清川」をオンライン視察

令和３（2021）年

２月１日　カヌースラローム日本代表チーム、リバーパーク犬飼で強化合宿（約１か月間）
２月２日　豊後大野市図書館開館
３月１日　新大野公民館開館
３月 21 日　新図書館開館記念「石田衣良氏講演会」開催
４月１日　朝地町の小学校と中学校が小中一貫教育校として開校
４月１日　市成年後見支援センター開設（市社会福祉協議会内）
４月 18 日　豊後大野市 市長・市議会議員選挙投票日
４月 21 日　新犬飼公民館開館

4月24日　東京2020オリンピック聖火リレー(緒方町)



聖火リレー（緒方町）

4月24日　川野市政２期目がスタート

5月6日　市議会臨時会開催、議長に衞藤竜哉氏、副議長に田嶋栄一氏が就任

5月7日　副市長に清水豊氏就任

6月18日　株式会社東洋食品と「非常災害時における食事の提供に関する協定」調印式

7月17日　新豊後大野市資料館開館

7月18日　「サウナのまち」宣言



「サウナのまち」宣言

8月16日　東京2020パラリンピック採火式(市役所)

11月13日　第21回豊かな国の森づくり大会（第45回全国育樹祭プレイベント（県民の森平成森林公園））

令和4(2022)年

1月28日　おおいた豊後大野ジオパーク再認定審査をクリアし、２度目の再認定

1月31日　市ブランド認証商品認定（14商品）

3月25日　防災行政無線開局式

4月5日　大原総合公園大型複合遊具オープン



オープニングセレモニー

6月20日　国登録有形文化財「旧緒方村役場」復元工事完成

9月9日　ネパール連邦民主共和国駐日特命全権大使が表敬訪問

10月31日　市関係人口交流拠点施設「cocomio（ココミオ）」開館式

11月12日　第45回全国育樹祭お手入れ行事開催、秋篠宮ご夫妻が県民の森平成森林公園訪問



第45回全国育樹祭お手入れ行事

令和5(2023)年

1月14日　祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク登録５周年シンポジウム開催（エイトピアおおの）

3月15日　大韓民国益山（イクサン）市議会訪問団表敬訪問

3月20日　「緒方川と緒方盆地の農村景観文化的景観」が国重要文化的景観に選定

4月1日　新隣保館開館

4月30日　三重全天候型運動場オープン



全天候型運動場オープン

５月15日　議会臨時会開催、議長に田嶋栄一氏、副議長に沓掛義範氏就任
５月16日　副市長に藤田敬氏就任
６月２日　三重町駅前広場供用開始
６月13日　下田博教育長、３期目の就任
７月５日　消防署南分署開庁式
７月20日　緒方川の多連アーチ石橋群が、公益社団法人土木学会が選ぶ令和３年度選奨土木遺産に認定。コロナ禍で延期されていた贈呈式を開催



緒方川石橋群選奨土木遺産認定書贈呈式

８月１日　プロサイクルチーム「スパークルおおいた」を運営する3SEEDS株式会社と連携協定書締結
10月　市総合スポーツ施設、ネーミングライツによる施設愛称利用開始
11月15日～19日　ネパール国ムシコット市を訪問

令和6(2024)年

３月27日　千歳小中学校落成式・開校式
5月21日　別府短編映画「豊後大野市編」制作記者発表



別府短編映画「豊後大野市編」制作記者発表

６月９日　エイトピアおおの大ホール改修工事完了こけら落とし公演「ぶんごおおのMUSICFESTA2024」開催
６月29日　豊後大野市ジュニア消防クラブ結団式
７月１日　恵藤建設ドーム投球練習場オープン
７月８日　「スパークルおおいた」市サイクルアンバサダー就任式
９月29日　大分県・豊肥地区総合防災訓練



大分県・豊肥地区総合防災訓練（千歳会場）

10月８日　大韓民国釜山広域市機張郡友好交流意向書締結式
10月25日　大分トリニータを運営する株式会社大分フットボールクラブと連携協力協定を締結

令和7(2025)年

２月26日　J:COM大分ケーブルテレコム株式会社と「災害時における地域支援のための協力に関する協定」及び「地域安全に関する協定」を締結
３月９日　別府短編映画豊後大野市編「Good Luck」プレミアム上映会



足立紳監督(左から2番目)、主演の佐野弘樹さん、天野はなさん

3月29日　九州旅客鉄道株式会社と包括連携協定を締結
3月31日　合併20周年記念日
4月1日　全市立小中学校で小中一貫教育校スタート
4月24日　川野市政3期目がスタート
5月7日　市議会臨時会開催、議長に沓掛義範氏、副議長に後藤雅克氏が就任
5月8日　副市長に白井将明氏就任
5月24日　ネパール連邦民主共和国ムシコット市友好交流協定書締結式
5月25日　市制施行20周年記念式典・記念文化公演開催



20周年記念式典

つながる、つなげる 豊かなまち
豊後大野 20th
豊後大野市制施行20周年
20周年記念ロゴ

7月15日　株式会社デンケンと連携協力協定締結
7月15日　株式会社ゼンリンと「災害時における地図製品等の供給等に関する協定」締結
9月7日　平川雄一朗監督×豊後大野劇団「三重志」創作演劇「ないろ」公演
9月28日　市制施行20周年記念NHKのど自慢開催
11月2日・3日　ぶんごおおのフェスタ2025開催
12月20日　多機能型武道場開所式



多機能型武道場開所式

第３章
主な施設

（1）庁舎等

◇本庁舎

昭和49(1974)年3月

三重町役場新庁舎完成



豊後大野市役所庁舎（旧三重町役場）

平成25(2013)年2月

豊後大野市役所新庁舎開庁



豊後大野市役所新庁舎

平成31(2019)年4月

豊後大野市役所別館開設



豊後大野市役所別館

◇清川支所

昭和43(1968)年

清川村役場庁舎建設

平成5(1993)年11月

役場庁舎増改築工事完了



清川支所（旧清川村役場）

令和2(2020)年2月

清川支所開所式



清川支所新庁舎

◇緒方支所

昭和33(1958)年12月

緒方町役場新庁舎落成

平成7(1995)年5月

緒方町役場庁舎増改築工事完了



緒方支所（旧緒方町役場）

令和2(2020)年10月

緒方支所・公民館開所式



緒方支所・公民館新庁舎

◇朝地支所

昭和31(1956)年5月

朝地町役場庁舎新築落成

昭和39(1964)年9月

旧庁舎を移転改築



朝地支所(旧朝地町役場)

令和2(2020)年2月

朝地支所開所式



朝地支所新庁舎

◇大野支所

昭和41(1966)年

大野町役場庁舎完成



大野支所(旧大野町役場)

平成28(2016)年2月

大野支所が旧大野保健センターへ移転



大野支所(旧大野保健センター)

◇千歳支所

昭和43(1968)年12月

千歳村役場庁舎完成



旧千歳村役場

平成9(1997)年10月

千歳村役場完成



千歳村役場新庁舎

令和2(2020)年9月

千歳支所・千歳公民館が装い新たに開所

◇犬飼支所

昭和34(1959)年11月

犬飼町役場を旧犬飼高校跡に移転

昭和47(1972)年11月

犬飼町役場庁舎落成式



犬飼支所（旧犬飼町役場）

令和2(2020)年5月

新犬飼支所が開所



犬飼支所新庁舎

◇ケーブルテレビセンター

平成15(2003)年

大野町ケーブルテレビ開局（旧大野高校内）

平成23(2011)年

ぶんごおおのケーブルテレビ開局



ケーブルテレビセンター

◇消防署（消防本部）

平成17(2005)年1月

大野郡東部消防組合から町村合併により野津町脱退

平成17(2005)年3月

豊後大野市が誕生、豊後大野市消防本部と改称



豊後大野市消防本部

平成17(2005)年4月

旧緒方町、旧朝地町について、当分の間竹田市消防本部に事務委託

平成19(2007)年4月

一市一消防本部に再編し、緒方町、大野町、犬飼町に分署を設置

平成24(2012)年3月

消防本部・消防署新庁舎完成

平成24(2012)年4月

消防本部・消防署庁舎移転


豊後大野市消防本部新庁舎


豊後大野市消防本部新庁舎（車庫側）

◇消防署東分署（犬飼）

平成19（2007）年4月

一市一消防本部に再編し、犬飼町に分署を設置


消防署東分署

平成27（2015）年3月

消防署東分署新庁舎完成・運用開始



消防署東分署新庁舎

◇消防署西分署（大野）

昭和48（1973）年

大野郡東部消防本部大野分署が開設


消防署西分署

平成19（2007）年4月

一市一消防本部に再編し、大野町に分署を設置


消防署西分署新庁舎

◇消防署南分署（緒方）

平成19（2007）年4月

一市一消防本部に再編し、緒方町に分署を設置


消防署南分署

令和5（2023）年7月

消防署南分署開庁式



消防署南分署新庁舎

◇防災備蓄倉庫

令和3（2021）年10月

防災備蓄倉庫完成



防災備蓄倉庫

（2）保健・福祉

◇地域包括ケア拠点施設ひなたぼっこ

平成15（2003）年4月

三重町介護予防拠点施設「ひなたぼっこ」完成

平成27（2015）年9月

「三重町介護予防拠点施設ひなたぼっこ」が隣接地の新施設へ移転することに伴い、施設の名称を「地域包括ケア拠点施設ひなたぼっこ」に改称



ひなたぼっこ外観

◇隣保館

昭和58（1983）年

大野町解放会館（隣保館・コミュニティセンター）完成



旧大野町解放会館(隣保館・コミュニティセンター)

令和5（2023）年4月

新豊後大野市隣保館 開館



豊後大野隣保館新庁舎

◇三重ふれあい児童館

平成15（2003）年4月

三重町介護予防拠点施設「ひなたぼっこ」完成

平成27（2015）年11月

旧三重町介護予防拠点施設「ひなたぼっこ」を改装し、三重ふれあい児童館として開館



三重ふれあい児童館外観

◇大野児童館

昭和61（1986）年

大野町児童館完成



大野児童館

◇おがたこども園

平成27（2015）年4月1日

認定こども園緒方保育園認可

令和7（2025）年4月

豊後大野市おがたこども園新園舎　落成式



おがたこども園新園舎

◇豊後大野市民病院

昭和35（1960）年11月

緒方町立病院改築

平成16（2004）年4月

公立おがた総合病院新築移転オープン

平成22（2010）年10月

公立おがた総合病院と大分県立三重病院が統合して、

豊後大野市民病院が開院



豊後大野市民病院

（3）環境・衛生

◇三重葬斎場

昭和52（1977）年8月

三重町外4ヵ町村葬祭場完成



旧三重葬祭場

平成27（2015）年3月

三重葬斎場完成



新三重葬祭場

◇大野葬斎場

昭和40（1965）年

町営火葬場を設置



旧大野葬祭場

平成27（2015）年3月

大野葬斎場完成



新大野葬祭場

◇清掃センター

昭和51（1976）年6月

大野郡東部清掃センター操業開始

平成9（1997）年3月

大野広域連合清掃センター完成

平成26（2014）年3月

市清掃センターの延命化工事着工



清掃センター

◇白鹿浄化センター

平成15（2003）年

大野広域連合白鹿浄化センター竣工



白鹿浄化センター

◇豊後大野市太陽光発電所

平成26（2014）年3月

豊後大野市太陽光発電所完成

平成26（2014）年4月

太陽光発電所発電開始式

・太陽光第1発電所　清川町六種



・太陽光第2発電所　緒方町小宛



・太陽光第3発電所　緒方町徳田



・太陽光第4発電所　緒方町夏足



・太陽光第5発電所　大野町田中



（4）産業・文化・観光

◇総合文化センター

平成10（1998）年9月

エイトピアおおの（大野広域総合文化センター）開館

令和6（2024）年7月

舞台照明・音響設備等改修工事完了



総合文化センター　エイトピアおおの

◇愛の園生朝倉文夫記念公園

平成3（1991）年3月

愛の園生朝倉文夫記念公園オープン

平成5（1993）年4月

朝倉文夫記念文化ホール落成式

平成5（1993）年10月

第1回大分アジア彫刻展開催



朝倉文夫記念公園



朝倉文夫記念館

◇神楽会館

平成21（2009）年6月

神楽会館落成



神楽会館(右)と清川支所(左)

◇神楽の里ふれあいセンター



神楽の里ふれあいセンター

◇サイクリングハブ施設

平成30（2018）年4月

豊後大野市サイクリングハブ施設オープン



サイクリングハブ施設「サイクルパークおおの」

◇奥嶽川自然公園井崎河川公園キャンプ場



通称「ロッジきよかわ」(令和8(2026)年時点)

◇祖母山麓尾平青少年旅行村

昭和50(1975)年7月

尾平青少年旅行村開村式

昭和56(1981)年6月

祖母山麓青少年旅行村開村式

平成8(1996)年4月

祖母山麓青少年旅行村改装し営業開始



通称「LAMP豊後大野」(令和8 (2026) 年時点)

◇リバーパーク犬飼

平成9(1997)年3月

リバーパーク犬飼開園

令和2(2020)年6月

リバーパーク犬飼リニューアルオープン



リバーパーク犬飼のログハウス

◇関係人口交流拠点施設

昭和59(1984)年3月

緒方町歴史民俗資料館開館式

令和4(2022)年10月

豊後大野市関係人口交流拠点施設へ改修開館式



関係人口交流拠点施設「cocomio」(令和8(2026)年時点)

◇道の駅みえ

平成16(2004)年10月

道の駅「みえ」オープン



道の駅みえ

◇道の駅きよかわ

平成2(1990)年5月

清川村物産センターが清川駅に開所

平成13(2001)年4月

物産センターが「夢市場」として「道の駅きよかわ」に移転オープン



道の駅きよかわ

◇道の駅原尻の滝

昭和62(1987)年4月

原尻の滝ふれあい広場完成

平成3(1991)年4月

「滝の館」開館式(旧ヘルトハウス:解体済)

平成3(1991)年9月

原尻の滝周辺整備事業完成

平成4(1992)年5月

原尻の滝吊り橋「滝見橋」開通

平成5(1993)年4月

第1回チューリップフェスティバル開催

平成6(1994)年8月

原尻の滝県下初の「道の駅」に認定

平成10(1998)年3月

道の駅ビジターセンター滝の館オープン



道の駅原尻の滝

◇道の駅あさじ

平成11(1999)年4月

道の駅あさじオープン



道の駅あさじ

◇道の駅おおの

平成11(1999)年

大野町特産物販売所「大地」がオープン

平成12(2000)年

大野町特産物販売所「大地」が里の駅に認定



道の駅おおの

◇里の駅やすらぎ交差点

平成15(2003)年6月

里の駅「やすらぎ交差点」オープン



里の駅「やすらぎ交差点」

◇三重農村環境改善センター

昭和56(1981)年8月

農村環境改善センター完成



農村環境改善センター

◇千歳特産物直売所

平成6(1994)年3月

千歳特産物直売所完成

平成8(1996)年10月

廃止



千歳農産物直売所

◇内山観音周辺観光施設

平成3(1991)年

4月 般若姫像完成


桜の時期の内山公園

◇新規就農者技術習得研修施設研修生宿泊施設

平成24(2012)年1月

「新規就農者技術習得研修施設(インキュベーションファーム)」研修生の生活施設完成


研修生宿泊施設

◇旧緒方村役場

昭和7(1932)年8月

新築竣工

平成9(1997)年5月

国の登録文化財に登録

令和4(2022)年6月

「旧緒方村役場」復元工事完成


復元後の旧緒方村役場

◇観光交流センター

令和7(2025)年2月

観光交流センターとしてオープン

豊後大野市観光協会の事務所も観光交流センターに移転

令和7(2025)年3月

JR九州との包括連携協定締結


観光交流センター

（5）スポーツ・生涯学習

◇中央公民館

昭和50(1975)年5月

三重町中央公民館落成



旧三重町中央公民館

平成25(2013)年2月

豊後大野市役所新庁舎開庁式(中央公民館は本庁舎2階に整備)



中央公民館は豊後大野市役所新庁舎2階に整備

◇清川公民館

昭和48(1973)年3月

清川村中央公民館落成



旧清川村中央公民館

平成21(2009)年6月

神楽会館落成(館内に清川公民館併設)



清川公民館は神楽会館内に併設

◇緒方公民館

昭和46(1971)年4月

緒方町中央公民館落成



旧緒方町中央公民館

令和2(2020)年10月

緒方支所･公民館開所式



緒方支所・緒方公民館新庁舎

◇朝地公民館

昭和36(1961)年5月

朝地町公民館落成

昭和58(1983)年10月

朝地町公民館新築完成

令和2(2020)年6月

朝地公民館大規模改修完成



朝地公民館

◇大野公民館

昭和46(1971)年

大野町中央公民館完成



大野町中央公民館

昭和48(1973)年

中央公民館町民グラウンド完成

昭和54(1979)年

中央公民館町民グラウンドに夜間照明施設が完成する

平成16(2004)年

旧大野高校に移転



平成16年頃の大野公民館

令和3(2021)年3月

大野公民館開館



新大野公民館

◇千歳公民館

昭和51(1976)年4月

千歳村中央公民館新築



千歳村中央公民館

令和2(2020)年9月

千歳支所・千歳公民館が装い新たに開所



千歳支所・千歳公民館

◇犬飼公民館

昭和54(1979)年11月

犬飼町中央公民館落成



旧犬飼町中央公民館

令和3(2021)年4月

犬飼公民館開館



新犬飼公民館

◇大原総合体育館

平成8(1996)年4月

フレッシュランドみえ(大原総合体育館)オープン

平成31(2019)年2月

大規模改修



フレッシュランドみえ(大原総合体育館)

◇大原総合公園（大型複合遊具）

令和4(2022)年4月

大型複合遊具を一般開放



大型複合遊具

◇サンスポーツランドみえ

平成4(1992)年6月

サンスポーツランドみえ完成



テニスコート



サッカー場

◇三重全天候型運動場

【多目的運動場】

令和5(2023)年4月

三重全天候型運動場 開所



三重全天候型運動場

【投球練習場】

令和6(2024)年7月

供用開始



投球練習場

◇多機能型武道場

令和8(2026)年1月

供用開始



多機能型武道場

◇三重総合グラウンド

昭和32(1957)年4月

陸上競技場完成

昭和33(1958)年7月

野球場完成

昭和43(1968)年5月

大原グラウンドに馬術場完成

昭和52(1977)年4月

大原にナイター設備完成



三重総合グラウンドの陸上競技場

◇三重柔道場

平成元(1989)年

旧三重町柔道場完成

令和8(2026)年3月

機能移転により廃止



三重柔道場

◇三重体育館

昭和55(1980)年3月

旧勤労者体育館完成

令和8(2026)年

機能移転により廃止、市資料館収蔵庫へ改修



三重体育館

◇清川総合グラウンド

昭和53(1978)年9月

総合グラウンドにナイター設置



清川総合グラウンド

◇緒方総合運動公園

平成4(1992)年4月

多目的グラウンド完成

テニスコート完成

ゲートボール場完成



多目的グラウンド



テニスコート

平成6(1994)年6月

野球場(旧やまびこスタジアム)完成



野球場

平成7(1995)年4月

緒方町総合運動公園竣工

◇緒方松山グラウンド

昭和48(1973)年

旧町営町民運動場完成



緒方松山グラウンド

◇緒方南部グラウンド

昭和60(1985)年

旧緒方南部ふれあい広場完成



緒方南部グラウンド

◇緒方米山グラウンド

(旧米山中学校グラウンド)

昭和43(1968)年

旧米山グラウンド完成



緒方米山グラウンド

◇朝地グラウンド

昭和59年(1984)10月

旧町民グラウンド完成



朝地グラウンド

◇朝地体育館

昭和46(1971)年

旧朝地中学校体育館完成



朝地体育館

◇大野総合運動公園

平成5(1993)年

総合運動公園完成



多目的グラウンド



テニスコート



野球場

◇大野体育館

昭和47(1972)年3月

旧大野高校体育館完成



大野体育館

◇大野武道場



大野武道場

◇千歳総合運動公園

平成4(1992)年4月

総合運動公園完成



野球場



多目的グラウンド

◇千歳ゲートボール場

平成7(1995)年10月

旧千歳村ゲートボール場新設



千歳ゲートボール場

◇犬飼総合グラウンド

昭和50（1975）年

犬飼町総合グラウンド完成

昭和56（1981）年6月

犬飼町総合グラウンドナイター施設完成



犬飼総合グラウンド

◇犬飼体育館

昭和55（1980）年3月

旧勤労者福祉センター完成

令和7（2025）年1月

犬飼体育館耐震･大規模改修



犬飼体育館

◇図書館・資料館

昭和59（1984）年3月

緒方町歴史民俗資料館開館

昭和61（1986）年7月

旧三重町立図書館開館



旧図書館

平成17（2005）年4月

豊後大野市図書館、豊後大野市歴史民俗資料館と改称

令和3（2021）年2月

ふれあい.学びの杜豊後大野市図書館開館

令和3（2021）年7月

豊後大野市資料館ジオパークミュージアム開館



ふれあい.学びの杜豊後大野市図書館・資料館

第４章
インフラ整備

◇道路施設

平成18(2006)年12月14日

広域営農団地農道

「奥豊後グリーンロード」開通

平成19(2007)年 3月18日

中九州横断道路　犬飼千歳道路　開通

平成20(2008)年 2月29日

県道三重新殿バイパス　赤嶺工区　開通



県道三重新殿バイパス赤嶺工区開通式

平成20(2008)年 3月22日

中九州横断道路　千歳大野道路　開通

平成22(2010)年11月25日

県道宇目清川線　新柳橋　開通

平成23(2011)年3月25日

広域農道大野南部地区

三重町赤嶺～小坂区間　開通

平成23(2011)年3月29日

県道三重弥生線　松尾金吾工区　開通



県道三重弥生線松尾金吾工区開通式

平成24(2012)年 1月20日

県道三重野津原線　矢田工区　開通

平成24(2012)年 1月20日

森林基幹道路　三国灰立線　開通



森林基幹道路三国灰立線開通式

平成25(2013)年 8月23日

県道三重新殿バイパス　内田赤嶺工区　開通

平成27(2015)年 2月15日

中九州横断道路　大野竹田道路 (大野～朝地間) 開通



中九州横断道路大野竹田道路(大野IC～朝地IC)開通式

平成27(2015)年 3月26日

広域農道大分中部

２期工区 (大野町～庄内町)　開通

平成29(2017)年 2月28日

県道三重新殿バイパス　牟礼赤嶺工区　開通

平成29(2017)年12月15日

県道三重新殿バイパス　内田工区　開通

県道三重新殿バイパス (三重町秋葉～千歳町新殿) の愛称が「豊後花咲ロード」に決定



県道三重新殿線バイパス内田工区・赤嶺牟礼工区開通式

平成30(2018)年3月31日

県道三重新殿線一部が県道指定解除により市道「新殿大木線」に移管

平成31(2019)年 1月19日

中九州横断道路　大野竹田道路(朝地～竹田間)開通

令和4(2022)年 1月

県道三重新殿バイパス　秋葉内田工区　開通

◇上下水道施設

平成21(2009)年 4月1日

旧町村の水道料金統一

平成27(2015)年11月1日

新三重浄水場　開設


三重浄水場

平成29(2017)年 4月1日

千歳簡易水道事業三重上水道事業へ経営統合

平成30(2018)年 4月1日

簡易水道事業、上水道事業へ経営統合

令和7(2025)年4月1日　水道料金改定

◇三重町駅前広場

令和5(2023)年 6月

三重町駅前広場供用開始


三重町駅前広場

◇土木学会選奨土木遺産

令和3(2021)年9月

緒方川の多連アーチ石橋群

公益社団法人土木学会選奨土木遺産に選出

緒方橋:明治44(1911)年　竣工

鳴滝橋:大正11(1922)年　竣工

長瀬橋:大正12(1923)年　竣工

原尻橋:大正12(1923)年　竣工

柚木寺原橋:昭和3(1928)年　竣工


長瀬橋

令和7(2025)年9月

轟橋、出会橋

公益社団法人土木学会選奨土木遺産に選出

轟　橋：昭和 9（1934）年　竣工

出会橋：大正 14（1925）年　竣工


出会橋(手前)と轟橋(奥)

第５章
おおいた豊後大野ジオパーク

おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark

おおいた豊後大野ジオパークロゴマーク

1. 背景と着想：「豊後大野の資源をどう捉え、地域発信につなげるか」

平成 17（2005）年３月 31 日、旧大野郡５町２村の合併により豊後大野市が誕生しました。新市の一体感醸成と独自の地域ブランド構築が求められる中、本市が誇る豊かな自然・歴史・文化資産の再評価および次世代への継承が重要な政策課題となりました。

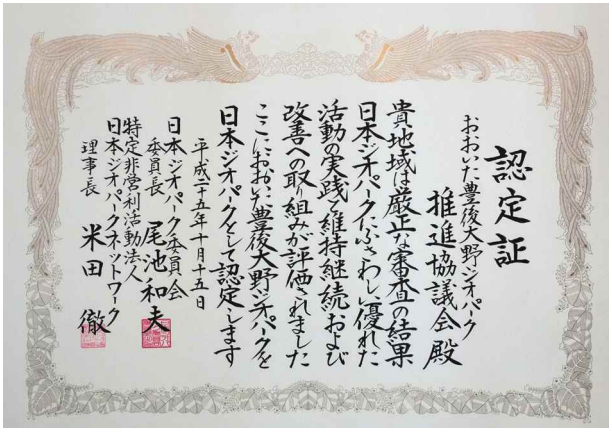
そこで着目したのが、地域を根底で支える「大地（地質・地形）」です。本市には、約９万年前の阿蘇火山による巨大火砕流がもたらした広大な溶結凝灰岩の大地や、原尻の滝、沈堕の滝をはじめとする稀有な自然造形が点在しています。

これらの地形基盤（ジオ）の上で人々が農業を営み、歴史的文化・風土（エコ・カルチャー）を育んできた構造を「地域独自の資源」として一体的に捉え直し、地学教育や地域振興、観光政策を結びつけた「ジオパーク」による持続可能なまちづくりへの取り組みが始動しました。

2. 認定までの歩みと成果：日本ジオパーク加盟と持続的な推進体制

学術的価値の体系化と地質調査を進める傍ら、市民への啓発活動やジオパークガイドの育成、地域資源の掘り起こしを展開しました。

その結果、平成 25（2013）年９月、日本ジオパーク委員会より「おおいた豊後大野ジオパーク」として認定を受けました。



認定証

認定を契機に、ジオパークガイドによる質の高いツアー展開、小・中学校でのふるさと学習（保全・防災・地学教育）の導入、専門家との連携による調査研究など、事業を本格化しました。４年ごとの再認定審査を経ながら、市民が「自らの地域価値」を深く理解し、保全・発信する体制を確立してきました。

現在では「ジオ・ジュニアユースクラブ」を通じた次世代育成にも注力し、地域の魅力を主体的に語れる未来の人材を育んでいるほか、これまで異なる分野で活動していた地域の人々や団体が「ジオ」という共通概念のもとにゆるやかにつながり、連携の輪が広がったことが成果として挙げられます。

3. みどころの再定義：大地の物語を紐解く「地球と人々のストーリー」の体感へ

おおいた豊後大野ジオパークの真価は、個々の景勝地を巡る点的な観光に留まらず、広域的な「大地の成り立ち」と「人々の暮らし」を結びつけて捉える点にあります。

例えば「東洋のナイアガラ」と称される緒方町の原尻の滝は、約９万年前の阿蘇火山の４回目の巨大噴

火による火砕流が冷え固まって生じた柱状節理と川の水流による浸食運動が組み合わさって誕生した、自然の造形美です。



原尻の滝

また、三重町の菅尾磨崖仏は、溶結凝灰岩の巨大な岩壁に刻まれた、平安時代後期に作られた精緻な作りの５体の磨崖仏です。加工しやすい性質を持った大地の恵みと、人々の深い信仰心が融合した歴史的遺産で、国の重要文化財に指定されています。



菅尾磨崖仏

そのほか、清川町の出会橋・轟橋は、溶結凝灰岩を巧みに加工して造られたアーチ型の石橋群で、近接して架かる両橋は日本一と第二位の径間を誇り、近代の物流や暮らしを支えた石工技術の高さと、地域特有の石材利活用文化を力強く物語っています。



下流側から見た出会橋（手前）と轟橋（奥）

ジオパークガイドの案内や解説板の整備を通じて「なぜこの場所にこの景観が存在するのか」というストーリーを可視化することで、見慣れた日常風景に新たな付加価値を創出しています。

４．これからの展望：ジオパークを通じた持続可能な地域社会の実現

大地を知るプロセスは、本市の歴史や産業、暮らしのルーツを再発見する取り組みそのものです。恵まれた地質構造と水資源があったからこそ、全国有数の農業地帯としての発展や石造文化（磨崖仏や石橋等）の醸成が実現しました。

市制施行から20年の節目を迎え、豊後大野市ば「足元の大地」の価値を再認識・再定義しています。

今後は、環境保全と地域経済（観光・農林業）の好循環を確実なものとし、市民の愛郷心の醸成とともに、ジオパークを活用した関係人口の創出・拡大、持続可能な未来に向けた地域創生を推進していきます。

第６章

祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークロゴマーク



祖母山

第１節 ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパークは、人と自然が共生するモデル地域を、国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が認定する制度です。この制度は、自然環境を厳格に保全するだけでなく、自然と人の暮らしの双方を尊重していることが特徴です。

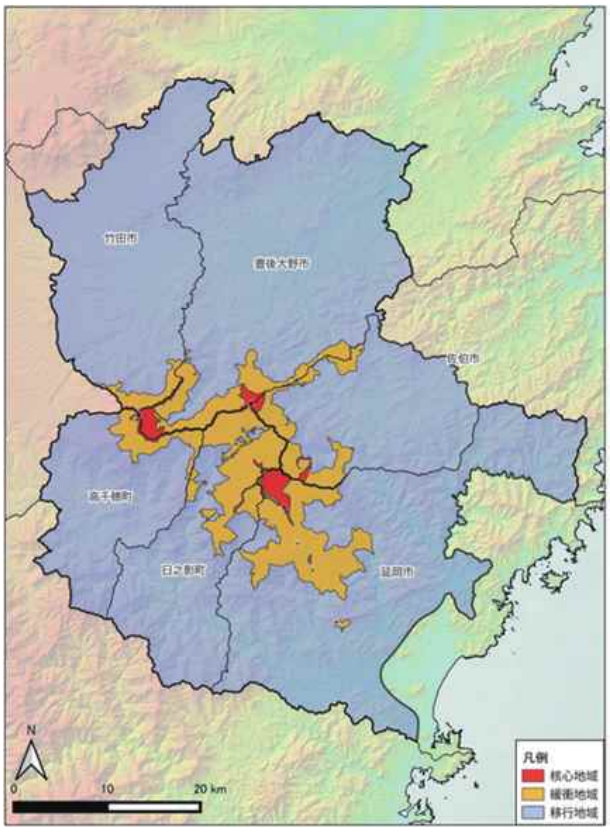
国際的な正式名称は「生物圏保存地域（Biosphere Reserve）」といい、日本では「ユネスコエコパーク」という名称で広く親しまれています。

ユネスコエコパークには、生物多様性の保全、学術的研究支援、経済と社会の発展という３つの機能が求められ、その実現のため、自然を厳格に保護する核心地域、人間の活動から核心地域を守る緩衝地域、人が自然と調和しながら暮らす移行地域の３つのエリアが設定されています。

本市では、市域の全域が祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの登録エリアに含まれており、市民の日々の暮らしそのものがエコパークの取り組みと深く結びついています。



ユネスコエコパークのゾーニング



祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク ゾーニング図

第 2 節 登録への歩み

本市では、合併して市制を施行して以来、豊かな自然環境の保全と活用をまちづくりの柱の一つに位置づけてきました。その集大成といえるのが、ユネスコエコパークへの登録です。

本市の登録への歩みは、平成 26（2014）年 2 月、大分県と佐伯市・竹田市・豊後大野市により設置された「大分県祖母傾ユネスコエコパーク推進協議会」に始まります。その後、宮崎県側（特に大崩山）も含めた地域として拡大し、平成 27(2015) 年 6 月には「祖母傾ユネスコエコパーク大分・宮崎推進協議会」が発足、両県が一体となって取り組みを進めました。

申請に向けた作業を進め、平成 28（2016）年 9 月にはユネスコ本部へ申請書の提出がなされました。そして、平成 29（2017）年 6 月に「人間と生物圏（MAB）計画国際調整理事会」において審議され、6 月 14 日、本市を含む祖母･傾･大崩山系地域は「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」として正式に登録されました。

こうして、本市はユネスコエコパーク登録という大きな節目を迎えました。

第 3 節 祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの特徴

祖母・傾・大崩ユネスコエコパークは、大分県の佐伯市・竹田市・豊後大野市と、宮崎県の延岡市・高千穂町・日之影町の 2 県 6 市町にまたがる広大な地域です。

この地域は、九州最高峰級の山々である祖母山（標高 1,756m）・傾山・大崩山を中心に、急峻な山岳地形と美しい渓谷を有し、多種多様な動植物が生息・生育する貴重な地域です。なかでも、国指定特別天然記念物のニホンカモシカは、この地域の希少な動植物を象徴する存在として知られています。



傾山



川上渓谷

また、この地域では、古くから祖母山信仰が根付き、神楽に代表される多彩な民俗芸能が各地で受け継がれてきました。山の恵みを生かした林業も営まれ、地域の人々は自然への畏敬の念を持ちながら、その恵みとともに暮らしてきました。こうした自然と人の営みが一体となった地域であることが、ユネスコエコパークへの登録につながりました。

本市では、この豊かな自然と文化を次世代へ引き継ぐため、祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会の活動理念「尖峰と渓谷が育む森と水、いのちの営みを次世代へ～自然への畏敬をこめて～」のもと、関係市町や大分県・宮崎県と連携しながら、ユネスコエコパークの取り組みを進めています。

第 4 節 取り組み

登録後、本市では、この豊かな自然と文化を守り、次世代へつないでいくため、関係市町や大分県・宮崎県と連携しながら、様々な取り組みを進めてきました。

(1) 自然環境の保全と調査・研究

本市では、ユネスコエコパークの登録を見据え、平成 28（2016）年度から祖母傾山系の生物多様性調査を実施し、継続的な調査により地域の変化や現状に関するデータを蓄積してきました。令和4(2022)年度には、その結果を取りまとめました。

また、国際的に推進されているネイチャーポジティブの取組「30by30」に関連し、本市は環境省が認定する「自然共生サイト」の推進にも取り組んでいます。令和 7（2025）年 12 月に「又井区の里地里山」が認定されました。同区域は、米作りを通じて維持されてきた二次的自然環境により、希少種の生息環境

や在来種を中心とした健全な生態系が成立していることが確認されています。



自然共生サイトの認定を受けた「又井区の里地里山」

(2) 次世代育成

本市では、次世代を担う青少年が地域の自然や文化への理解を深める取り組みとして、エコパークの豊かな自然に直接触れる自然観察会の実施やこども神楽大会の開催を行ってきました。



こども神楽大会の様子



生き物観察会の様子

(3) 地域振興・産業

令和 6 (2024) 年には、ユネスコエコパークに認定された豊かな自然環境やそれらを背景にした技術を活かして生産される産品をブランド認証する「祖母・傾・大崩ユネスコエコパークブランド認証制度」が開始されました。ブランド認証品の魅力を広く発信することで、環境保全と地域産業の振興、エコパークの理念の普及を図っています。



環境に優しい方法で栽培されるお米



地域で伝統的に生産される乾しいたけ

第 5 節 これから

本市は、ユネスコエコパーク登録後、自然環境の保全や調査・研究、次世代育成、地域振興に取り組んできました。

今後も登録地域としての責務を果たし、活動理念のもと、自然と人が共生する地域を次世代へ引き継いでいきます。

第７章
サウナのまち

サウナのまち
豊後大野
BUNGO ONO

サウナのまちロゴマーク

1.「おんせん県なのに、温泉がない」

大分県といえば、多くの人が「温泉」を思い浮かべます。

しかし、豊後大野市には温泉がありません。

「おんせん県おおいた」にありながら温泉がない。

一見すると観光にとっては弱みとも思えるこの特徴を、逆に地域の魅力にできないか。

そんな発想から、新たな取組が始まりました。

2. 豊後大野には、「ととのう」ための自然と伝統がある

豊後大野市には、温泉とは違う貴重な財産があります。

山、川、滝、豊かな森林、清らかな水。

また、地域には昔から「石風呂」と呼ばれる独自の入浴文化が根付いてきました。

溶結凝灰岩の岩壁に穴を掘り、「石菖（セキショウ）」などの薬草を炊き上げて体を温める伝統的な風呂として知られ、自然の恵みを活かした暮らしの知恵のひとつです。

こうした背景を踏まえ、注目されたのが「サウナ」でした。

サウナで体を温めた後、豊かな自然の中で外気浴を楽しみ、川や滝のそばで自然と一体になるひとときを過ごす。

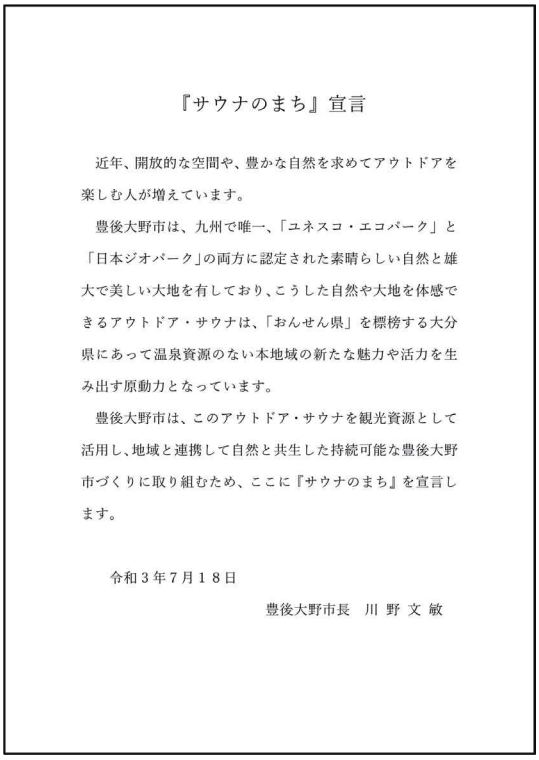
街中のサウナとは異なる、「自然の中で楽しむサウナ」という豊後大野ならではのスタイルが、伝統と現代性の融合として少しずつ形になっていきました。

3. 民間の取り組みから「サウナのまち」へ

豊後大野市内では、地域の事業者がそれぞれの場所や自然環境を生かしたサウナづくりに取り組み始めました。

各施設の個性に加え、豊後大野の豊かな自然そのものがサウナの魅力となり、サウナを目的に訪れる人も増えています。

こうした民間の動きを地域全体の観光振興につなげるため、市も「サウナのまち」を宣言し、情報発信や事業者との連携など、サウナを活用した地域づくりを推進しています。



『サウナのまち』宣言

近年、開放的な空間や、豊かな自然を求めてアウトドアを楽しむ人が増えています。

豊後大野市は、九州で唯一、「ユネスコ・エコパーク」と「日本ジオパーク」の両方に認定された素晴らしい自然と雄大で美しい大地を有しており、こうした自然や大地を体感できるアウトドア・サウナは、「おんせん県」を標榜する大分県にあって温泉資源のない本地域の新たな魅力や活力を生み出す原動力となっています。

豊後大野市は、このアウトドア・サウナを観光資源として活用し、地域と連携して自然と共生した持続可能な豊後大野市づくりに取り組むため、ここに『サウナのまち』を宣言します。

令和３年７月１８日

豊後大野市長　川 野 文 敏

サウナのまち宣言書


「サウナのまち」宣言（令和3（2021）年7月18日）

「サウナに入るために豊後大野へ行く」

これまでにはなかった新たな人の流れが生まれています。

4．豊後大野のサウナは、「自然」が主役

豊後大野のサウナの最大の魅力は、サウナ室そのものだけにとどまりません。

サウナで温まり、自然の中で外気浴をする。

目の前に広がる山々。


せせらぎに包まれた外気浴

耳を澄ますと聞こえてくる川のせせらぎ、季節ごとに変わる空気や景色。

こうした「自然の中で過ごす時間」そのものが、豊後大野のサウナ体験です。


水風呂は目下の清流

そして、サウナの後は地域の食を味わい、市内を巡り、宿泊することで、豊後大野の多彩な魅力も楽しめます。

5.「ない」からこそ生まれたもの

温泉がないことを嘆くのではなく、

「温泉がないなら、別の方法で豊後大野の自然を楽しんでもらおう」

この発想の転換が、「サウナのまち」という新しいブランドにつながりました。

これは、豊後大野市が持つ自然環境という資源を、新しい時代の観光ニーズと結びつけた取組でもあります。

ジオパークやユネスコエコパークで大切にしてきた「大地」「自然」「人の暮らし」。

その豊かな地域資源が、サウナという新たな切り口によって、これまでにない魅力として発信されています。

合併から 20 年。

豊後大野市は、地域に「ないもの」を数えるのではなく、「あるもの」を見つめ直し、新しい価値を生み出しています。

第８章
スポーツツーリズムの取り組み

1. スポーツツーリズムの概要

本市では、地域活性化を図る取組として、地域のスポーツ資源と観光資源を活用し、スポーツ合宿・大会・イベント等の誘致や開催支援等を行ってきました。

本市のスポーツツーリズムについては、“第５次豊後大野市総合教育計画（教育みらい創造プラン2026）及び豊後大野市スポーツ推進計画”に基づき、スポーツの振興を支えるスポーツ施設の目指すべき姿やスポーツを通じた観光の活性化を図ることを目的に、各種取り組みを推進してきました。

また、令和3(2021)年３月には「豊後大野市スポーツ施設の整備等に関する基本構想」を策定しました。その基本構想を踏まえ、施設配置の適正化に向けた適用手法の方向性を位置づけることを目的に、令和4(2022)年９月に「豊後大野市スポーツ施設の整備等に関する基本計画」を策定したところです。

スポーツツーリズムの推進については、「総合スポーツ施設」を核としたスポーツ大会や合宿等の誘致、スポーツを通じた地域経済の活性化を基本コンセプトとしています。それはスポーツ振興の担う役割が健康の推進にとどまらず、人口減少や過疎化が問題となっている中で、地域経済の活性化や観光の振興にも寄与するものとして大きくなっているためです。

この活動を推進するため、令和4(2022)年３月に地域のスポーツコミッションである豊後大野市スポーツツーリズム推進協議会を設立しました。構成団体である民間団体と行政が一体となり、スポーツ合宿等の誘致活動、スポーツ・アウトドアツーリズムの推進、情報発信及び情報収集やスポーツを通じた交流の場を設ける取り組みを進めてきました。

〈豊後大野市内のスポーツ施設〉

豊後大野市総合スポーツ施設
三重総合グラウンド
三重全天候型運動場
サン・スポーツランドみえ
多目的グラウンド
テニスコート
豊後大野市大原総合体育館
メインアリーナ
サブアリーナ
屋内温水プール
豊後大野市多機能型武道場
清川総合グラウンド
緒方総合運動公園
多目的グラウンド
ゲートボール場
テニスコート
野球場
緒方松山グラウンド
緒方米山グラウンド
緒方南部グラウンド
朝地グラウンド
朝地体育館
大野総合運動公園
多目的グラウンド
ゲートボール場
テニスコート
野球場
千歳総合運動公園
多目的グラウンド
野球場
千歳ゲートボール場
犬飼総合グラウンド
多目的グラウンド
ゲートボール場
犬飼体育館

2. 取り組み内容

①スポーツ合宿・大会・イベント等の誘致及び開催支援

これまでの取り組みとして、令和 4(2022) 年度に大分県観光産業リバイバル推進事業を活用し、構成団体がメインとなりスポーツ合宿等の誘致活動を実施しました。そして、観光商談会での営業活動、スポーツ大会、合宿開催時の「スポーツ王国ぶんごおおの」の横断幕設置などによる PR 活動を行ってきました。

また、市外からの誘客による交流人口拡大及び地域活性化に貢献するスポーツ大会・イベントを開催する主催者（競技団体等）及び大会参加者に対し、市内の特産品を贈呈する事業を実施し、令和 7(2025) 年度は 36 大会に贈呈しました。主催者からは「豊後大野市の魅力 PR になる」、「参加者も喜んでいる」など好評を得ており、市外からの誘客を促進し、周辺観光や市内での消費活動に結びつけることができました。



V.LEAGUE女子バレーボールチーム福岡ギラソールが強化合宿とバレーボール教室を開催(令和8(2026)年5月)

②スポーツ・アウトドアツーリズムなどの推進

本市には、おおいた豊後大野ジオパーク、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークに象徴される豊かな自然や文化があります。「豊後大野市らしい」体験・交流を取り入れたスポーツ・アウトドアツーリズムの企画・開発を関係団体と連携しながら推進しており、その一つとしてサイクルツーリズムに力を入れてきました。

令和 5(2023) 年 8 月には、プロサイクルチームである「スパークルおおいたレーシングチーム」と連携協定を締結し、RTA ユース合宿や国内のプロロードレースチームの合宿誘致に取り組んできました。



スパークルおおいたレーシングチーム

また、サイクルイベントとして、自然豊かな地を活かした地元の観光素材であるサウナとコラボした「サウナ&ラン・サイクリングイベント」を開催し、県内外から多くの方が参加するイベントを実施することができました。

令和 5(2023) 年度から始めたこれらの事業は継続して実施されており、引き続き魅力あるイベントとしてブラッシュアップしていきます。

また、令和 6(2024) 年度からは、スパークルおおいたレーシングチームに豊後大野市サイクルアンバサダーになっていただき、自転車による交通安全啓発活動に加えて、地域の魅力を一緒に情報発信しています。

③情報発信

スポーツ施設、宿泊施設、飲食店、観光地などスポーツツーリズムに関する情報を集約したポータルサイト「スポーツ王国ぶんごおおの」を作成して情報発信を行ってきました。今後も、本市の魅力を一緒に発信していきます。

④受入体制の整備

(1) 宿泊事業

受入体制の整備として、宿泊助成事業を実施しています。この事業は市内に宿泊する団体に宿泊費の一部を助成するもので、令和 7(2025) 年度は 43 件延べ 5,915 泊分の利用がありました。今後も、同事業を継続して実施し、スポーツ、文化、観光等による交流人口の拡大を図っていきます。

(2) 施設管理・運営

本市の多くのスポーツ施設は、建設から 20 年以上

が経過しており、老朽化の著しい施設については改修等を計画的に行い、施設の管理・運営を行ってきました。また、改修と並行して新しい施設の建設を行い施設の充実を図りました。

平成 30(2018) 年４月には、本市大野町にサイクリングハブ施設「サイクルパークおおの」がオープンし、近年、大分市と熊本市を結ぶ高規格道路「中九州横断道路」の延伸に伴い車の通行量が減少した旧国道 57 号 (現県道 57 号) をサイクリングコースとしている愛好家が増えています。その休憩スポットとして、またトレーニング拠点として整備されており、休憩スペースはミーティングスペースとしても利用可能で、同施設内には調理スペースや車両の修理スペースを備えています。さらに、疲れた心身をリフレッシュできる足湯も利用することができます。

サイクリング愛好家だけでなく、一般の方も無料で利用することができます。



サイクリングハブ施設「サイクルパークおおの」

令和 5(2023) 年５月には三重全天候型運動場が完成し、雨の日でもトレーニングをすることができるため、野球、サッカーにとどまらず、マーチングなどさまざまなトレーニング場として利用いただいています。

その隣には、令和 6(2024) 年７月に投球練習場を設置して機能の充実を図りました。



三重全天候型運動場



投球練習場

令和 7(2025) 年度には多機能型武道場が供用開始となりました。この施設は、柔道や剣道など武道競技に特化したものではなく、バレーボールやバスケットボールなど多様なスポーツに対応できる構造となっています。



豊後大野市多機能型武道場

3. 実績・課題・今後の展望

これまでの実績として、サイクルツーリズムではRTA ユースキャンプ誘致、プロ自転車ロードレースチームの合宿誘致や観光資源であるサウナとのコラボ企画である「サウナ＆ラン・サイクリング」を実施しました。大会としては、BOSTA SPORTS FESTIVAL（令和 8（2026）年 4 月開催）（IMG ACADEMY コーチによるクリニック）や、がんばろう熊本 マイナビ ツール・ド・九州 2026（令和 8(2026) 年 10 月開催）を誘致しました。

また、受入体制の整備として宿泊助成事業を継続して実施しており、スポーツ、文化、観光等による交流人口の拡大を図ることができました。

近年のスポーツ合宿誘致により本市を利用したチームが、繰り返し本市を合宿地に選ぶリピーターとなるケースも出てきています。

本市の核となる総合スポーツ施設を中心としたスポーツツーリズムの推進による地域スポーツコミュニティの活性化、交流人口の増加による地域経済の活性化がさらに推進されることが期待されます。

今後は、豊かな自然や文化、農林水産物などの地域資源を取り入れたアウトドアスポーツアクティビティやサイクルツーリズムの推進を図り、スポーツを通じた地域の魅力向上に取り組みたいと考えています。

課題としてはまず、スポーツツーリズムをさらに推進するためには、集客だけでなく地域と連携した受入体制の整備が重要となります。行政だけでなく、地元をよく知るスポーツツーリズム推進協議会の構成団体、宿泊施設、交通事業者などの関係者が一体となり取り組む必要があります。

次に、合宿誘致・営業活動については、これまで構成団体の宿泊事業者を中心に行ってきましたが、関係者が一丸となった取り組みによる人材育成も重要です。

最後に、スポーツ合宿誘致を進めるにあたっては、宿泊施設の確保も重要な課題です。

これらの課題に対しては、地域コミッションとして立ち上げた豊後大野市スポーツツーリズム推進協議会で協議し、官民が連携して解決に努め、豊後大野市らしいスポーツツーリズムを推進していきます。

第９章
大分の野菜畑 豊後大野

ーキャッチフレーズの誕生ー

平成 23（2011）年に策定された「第２次豊後大野市農業振興計画」の重点施策に「地域性を生かした産地化とぶんご大野ブランドの確立」があり、その取り組みの中で生まれたキャッチフレーズが、『大分の野菜畑　豊後大野』です。

ーキャッチフレーズの発信ー

平成 27（2015）年 11 月には、『大分の野菜畑 豊後大野』の情報発信拠点として、大分市中央町にアンテナショップ「ぶんご大野ビューロ　大地の物語」を開店し、このキャッチフレーズを市外へと広めていきました。

また、『大分の野菜畑　豊後大野』をキャッチフレーズに、プロモーションビデオやテレビコマーシャル、幟や横断幕等を制作し、広告宣伝や市場販促等でのＰＲも行いました。

ーブランド確立への取組ー

平成 28（2016）年に策定された「第３次豊後大野市農業振興計画」では、表紙に大きく「大分の野菜畑　豊後大野」が書かれています。

この計画では、農業振興施策等の様々な取組の中で、『大分の野菜畑　豊後大野』を地域ブランドとして確立する事が挙げられています。

また、戦略品目として、夏秋ピーマン、かんしょ、さといも、白ねぎの４品目。重点品目として夏秋なす、ゴーヤ、水田ごぼう、アスパラガス、いちご、スイートピーの６品目を選定し、『大分の野菜畑　豊後大野』のブランド確立と農業者が経営安定を図れる各種施策の推進に努めました。

令和３（2021）年に策定された「第４次豊後大野市農業振興計画」では、園芸重点品目として夏秋ピーマン、さといも、かんしょ、白ねぎ、夏秋なす、ゴーヤ、きく、スイートピー、かぼす、くりの 10 品目を選定し、『大分の野菜畑　豊後大野』のブランド化に向けた産地の拡大を目指し取り組みを行いました。

ブランドの知名度向上を図るための取り組みとして、市長によるトップセールスを実施してきました。主要な青果市場のセリ場にて豊後大野市産野菜のＰＲを行い、その後量販店で販促活動を行いました。



大分の野菜畑「福岡トップセールス」（令和8（2026）年7月）

令和４(2022) 年には、『大分の野菜畑　豊後大野』のホームページを開設しました。

ホームページでは、豊後大野市のプロモーションビデオや豊後大野市産の野菜についての説明、時期毎の病害虫に関する注意報、インキュベーションファーム等担い手育成に関する情報、さといもを使ったクッキング動画等農業に関する情報等を広く発信しています。

令和８(2026) 年に策定された「第５次豊後大野市農業振興計画（令和８(2026) 年度～令和 15(2033) 年度）」では、野菜・花き・果樹合わせて 12品目を園芸重点推進品目として選定し、『大分の野菜畑豊後大野』の更なるブランド化による産地維持・拡大に取り組んでいます。

－第5次豊後大野市農業振興計画園芸重点推進品目－



夏秋ピーマン



白ねぎ



かんしょ



夏秋なす



さといも



きく



スイートピー



露地かんきつ（かぼす・ゆず）



ホオズキ



くり



花木類



キウイフルーツ

第 10 章
公立学校・こども園の変遷

(1)公立学校

●三重学園

○三重中学校

平成 17（2005）年 3 月
町村合併により豊後大野市立三重中学校と改称



三重中学校

平成 28（2016）年 3 月
屋外プール完成

令和 7（2025）年 4 月
豊後大野市小中一貫教育校三重学園三重中学校開校（施設分散型）

○菅尾小学校

平成 17（2005）年 3 月
町村合併により豊後大野市立菅尾小学校と改称

令和 7（2025）年 4 月
豊後大野市小中一貫教育校三重学園菅尾小学校開校（施設分散型）



菅尾小学校

○百枝小学校

平成 17（2005）年 3 月
町村合併により豊後大野市立百枝小学校と改称

令和 7（2025）年 4 月
豊後大野市小中一貫教育校三重学園百枝小学校開校（施設分散型）



百枝小学校

○三重第一小学校

平成 17（2005）年 3 月
町村合併により豊後大野市立三重第一小学校と改称

令和 7（2025）年 4 月
豊後大野市小中一貫教育校三重学園三重第一小学校開校（施設分散型）



三重第一小学校

○三重東小学校

平成 17（2005）年 3 月
町村合併により豊後大野市立三重東小学校と改称

令和 7（2025）年 4 月
豊後大野市小中一貫教育校三重学園三重東小学校開校（施設分散型）


三重東小学校

○新田小学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立新田小学校と改称
令和 7（2025）年 4 月
　豊後大野市小中一貫教育校三重学園新田小学校開校
　（施設分散型）


新田小学校

●清川小中学校

○清川小学校



清川小学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立清川小学校と改称
令和 6（2024）年 4 月
　豊後大野市小中一貫教育校清川小中学校開校
　（施設一体型）

○清川中学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立清川中学校と改称
令和 6（2024）年 4 月
　豊後大野市小中一貫教育校清川小中学校開校
　（施設一体型）


清川小中学校

●緒方学園

○緒方中学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立緒方中学校と改称
令和 6（2024）年 4 月
　豊後大野市立小中一貫教育校緒方学園緒方中学校
　開校 (施設隣接型)

○長谷川小学校（閉校）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立長谷川小学校と改称
平成 22（2010）年
　閉校

○上緒方小学校（閉校）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立上緒方小学校と改称
平成 22（2010）年
　豊後大野市立緒方小学校に統合し、閉校

○小富士小学校（閉校）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立小富士小学校と改称
平成 22（2010）年
　豊後大野市立緒方小学校に統合し、閉校

○緒方小学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野立緒方小学校と改称
平成 25（2013）年
　新校舎落成
令和 6（2024）年 4 月
　豊後大野市小中一貫教育校緒方学園緒方小学校開校
　（施設隣接型）


緒方小学校

●朝地小中学校

○朝地小学校

平成 17（2005）年
　大体育館・プール完成
　町村合併により豊後大野市立朝地小学校と改称
平成 24（2012）年
　小・中連携教育の取組開始
平成 26（2014）年
　連携型小・中一貫教育の本格実施
令和 3（2021）年 4 月
　豊後大野市小中一貫教育校朝地小中学校開校
　(施設一体型)


朝地小中学校

○朝地中学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立朝地中学校と改称
令和 3（2021）年 4 月
　豊後大野市小中一貫教育校朝地小中学校開校
　(施設一体型)

●大野小中学校

○中部小学校（閉校）

平成 17（2005）年
　閉校

○東部小学校（閉校）

平成 17（2005）年
　閉校

○西部小学校（閉校）

平成 17（2005）年
　閉校

○南部小学校（閉校）

平成 17（2005）年
　閉校

○北部小学校（閉校）

平成 17（2005）年
　閉校

○大野小学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により大野町内の小学校 5 校を統合し、豊後大野市立大野小学校開校
平成 21（2009）年
　旧給食調理場を解体し、グラウンドに整備
令和 6（2024）年 4 月
　豊後大野市小中一貫教育校大野小中学校開校
　（施設隣接型）


大野小学校

○大野中学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立大野中学校と改称
令和 6（2024）年 4 月
　豊後大野市小中一貫教育校大野小中学校開校
　（施設隣接型）


大野中学校

●千歳小中学校

○千歳小学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立千歳小学校と改称
令和 6（2024）年 4 月
　豊後大野市小中一貫教育校千歳小中学校開校
　(施設一体型)

○千歳中学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立千歳中学校と改称
平成 29（2017）年 9 月
　第 1 回幼・小・中合同体育大会開催
令和 6（2024）年 4 月
　豊後大野市小中一貫教育校千歳小中学校開校
　(施設一体型)



千歳小中学校

●犬飼小中学校

○犬飼中学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立犬飼中学校と改称
平成 18（2006）年 3 月
　新校舎落成


犬飼中学校

令和 6（2024）年 4 月
　豊後大野市小中一貫教育校犬飼小中学校開校
　（施設隣接型）

○犬飼小学校

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立犬飼小学校と改称


犬飼小学校

平成 22（2010）年 3 月
　長谷小学校と統合
豊後大野市小中一貫教育校犬飼小中学校開校
　（施設隣接型）

○犬飼小学校通山分校（閉校）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立犬飼小学校通山分校と改称
平成 21（2009）年 4 月
　休校
平成 22（2010）年 2 月
　閉校記念式典
平成 22（2010）年 3 月
　閉校

○長谷小学校（閉校）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立長谷小学校と改称
平成 22（2010）年 2 月
　閉校式
平成 22（2010）年 3 月
　閉校

（2）幼稚園

●三重幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立三重幼稚園と改称
令和 6（2024）年 3 月
　閉園



三重幼稚園

●東幼稚園

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立東幼稚園と改称



東幼稚園

●白山幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立白山幼稚園と改称
平成 19（2007）年 3 月
　閉園

●新田幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年 4 月
　市町村合併により豊後大野市立新田幼稚園と改称
令和 6（2024）年 3 月
　閉園



新田幼稚園

●菅尾幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立菅尾幼稚園と改称
平成 27（2015）年 3 月
　閉園

●百枝幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立百枝幼稚園と改称
平成 27（2015）年 3 月
　閉園



百枝幼稚園

●中部幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年
　閉園

●東部幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年
　閉園

●西部幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年
　閉園

●南部幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年
　閉園

●おおのさくら幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年 3 月
　新園舎完成、幼稚園 4 園を統合して、おおのさくら幼稚園と改称
令和 6（2024）年 3 月
　閉園


おおのさくら幼稚園

●千歳幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立千歳幼稚園と改称
令和 6（2024）年 3 月
　閉園


千歳幼稚園

●通山幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立通山幼稚園と改称
令和 4（2022）年 3 月
　閉園


通山幼稚園

●長谷幼稚園（閉園）

平成 17（2005）年 3 月
　町村合併により豊後大野市立長谷幼稚園と改称
平成 26（2014）年 3 月
　閉園


長谷幼稚園（建物の 1 階部分）

（3）こども園

●三重町

〇三重東保育所（現:ひがしこども園）

三重町小坂3956

平成 24（2012）年 4 月 1 日
社会福祉法人三重福祉会に移管、ひがしこども園と改称

●清川町

〇牧口保育所

清川町砂田1875

平成 24（2012）年 4 月 1 日
学校法人いずみヶ丘学園に移管、しいのみ保育園と改称

平成 27（2015）年 4 月 1 日
しいのみこども園認可

令和 7（2025）年 3 月 31 日
廃園

〇へき地清川保育所

清川町六種 173

平成 24（2012）年 3 月 31 日
廃園

●緒方町

〇緒方保育園（現:おがたこども園）

緒方町下自在 157-1

平成 27（2015）年 4 月 1 日
認定こども園緒方保育園認可

令和 7（2025）年 2 月 1 日
新園舎移転（緒方町馬場 41-1）、おがたこども園と改称



おがたこども園新園舎

〇へき地南部保育園

緒方町馬背畑 1875

平成 24（2012）年 3 月 31 日
廃園

〇へき地小富士保育園

緒方町小宛 1876

平成 24（2012）年 3 月 31 日
廃園

〇へき地上緒方保育園

緒方町徳田 182

平成 24（2012）年 3 月 31 日
廃園

●朝地町

〇朝地保育園（現:あさじルンビニこども園）

朝地町坪泉 526

平成 24（2012）年 4 月 1 日
社会福祉法人大野福祉会に移管、あさじルンビニ保育園と改称

平成 27（2015）年 6 月 1 日
あさじルンビニこども園認可

●犬飼町

〇犬飼保育園（現:いぬかいこども園）

犬飼町田原 1419

平成 24（2012）年 4 月 1 日
社会福祉法人萌葱の郷に移管、いぬかい保育園と改称

平成 27（2015）年 4 月 1 日
いぬかいこども園認可

第 11 章
教育の変遷

第 1 次豊後大野市総合教育計画

平成 18（2006）年度から平成 22（2010）年度
『明日を担うひとづくり、ふれあい豊かに・安心して学ぶ「豊後大野市の教育」の創造』

今、国において第三の教育改革の最中にあり、教育基本法の改正や三位一体改革など、矢継ぎ早に新しい時代に対応した教育施策が打ち出されています。また、構造改革を一層推進するため規制改革・民間開放が教育界にも及んでいます。一方、地方分権が進むなかで、都道府県や市区町村の責任と負担が増大しています。

こうした社会情勢の変化を踏まえて大分県教育委員会は、平成 18（2006）年 6 月に「新大分県総合教育計画（大分県教育改革プラン）」を策定しました。この計画では、新しい時代にふさわしい教育施策を推進し、明日の大分を築く『知』『徳』『体』の調和のとれた心豊かな子どもたちを育成するとともに、すべての県民が教育に関わることを通じて活力あふれる大分を創造することを目指します。

豊後大野市においても、幼児・児童・生徒の「生きる力」の育成と学力の向上、青少年の健全育成、さらには、生涯学習の推進などに関して長期的な展望に立った教育施策を推進する必要があるため、総合教育計画を策定しました。

この計画が目指すものは、教育を通した活力ある「まち」と「ひと」づくりです。この目標に向けて、まず学校では、家庭・地域の教育力を結集して、次代を担う子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育みます。また、地域では、家庭・学校と連携･協力を密にし、青少年の健全育成を推進します。さらには、市民が文化財や伝統文化を愛護する精神の醸成を図るとともに、社会教育施策の充実に努めます。

≪基本施策≫

Ⅰ 子どものたくましく生きる力、感性豊かな個性、確かな学力を育てる
1. 基礎・基本の定着を図る教育の推進
2. 特別支援教育の推進
3. 幼児教育の推進
4. 心の教育の推進
5. 健康・体力づくりの推進

Ⅱ 学校・家庭・地域が連携した子どもの教育を充実する
1. 学校・家庭・地域の協働、連携
2. 子どもの健やかな成長に役立つ教育環境整備
3. 安心・安全な学校づくり
4. 望ましい食習慣を身につける食育の推進
5. 教職員の人材確保
6. 社会変化に対応した教育行政の推進

Ⅲ 青少年が健全に成長できる環境をつくる
1. 青少年の健全育成

Ⅳ いつでも学べる場と機会をつくる
1. 生涯学習の推進
2. 公民館機能の充実
3. 図書館機能の充実

Ⅴ 誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を充実する
1. 誰もが気軽に楽しめるスポーツの振興
2. 競技スポーツの振興

Ⅵ 世代・地域を超えて、多様な交流を育む環境をつくる
1. 国体の推進

Ⅶ 郷土の歴史・文化財や伝統を守り、継承する
1. 文化財・伝統文化の保護と継承

Ⅷ 人権を尊重し、一人ひとりの個性を認め合う
1. 人権教育の推進

第 2 次豊後大野市総合教育計画

平成 23（2011）年度から平成 27（2015）年度
『明日を担うひとづくり、ふれあい豊かに・安心して学ぶ「豊後大野市の教育」の創造』

(1) 国の動向

科学技術の進歩、情報化、国際化、少子高齢化など、私たちを取りまく社会情勢は急激に変化しています。核家族化や価値観の多様化は、社会全体の規範意識の低下､地域社会における連帯意識の喪失といった傾向を強め、子どもたちの基本的生活習慣の乱れや学ぶ意欲の低下、学力・体力や社会性の低下、規範意識の欠如など深刻な問題が山積しています。

国は、教育基本法を改正し、「人格の完成」や「個人の尊厳」などこれまでの普遍的な理念を大切にしつつも、新しい時代の教育の理念を明示し、「自己実現を目指す自立した人間」「国家・社会の形成に主体的に参画する国民」「国際社会を生きる日本人」の育成を図ります。

その理念を具体化するために教育振興基本計画が策定され、目指すべき教育の姿や取り組むべき施策が明記されました。また、国と地方公共団体の役割分担や教育委員会の責任が明らかにされ、都道府県や市区町村、教育委員会の責任と負担が増大しています。

(2) 県の動向

こうした社会情勢の変化を踏まえて、大分県教育委員会は「新大分県総合教育計画（大分県教育改革プラン)」を策定しました。この計画には、新しい時代にふさわしい教育施策を推進し、明日の大分を築く「知」「徳」「体」の調和のとれた心豊かな子どもたちを育成するとともに、すべての県民が教育に関わることを通じて活力あふれる大分を創造することを目指すことが定められました。

(3) 市の動向

豊後大野市教育委員会においても、教育振興基本計画に示された「社会全体で教育の向上に取り組む」「社会の一員として生きる基盤を育てる」「教養と専門性を備えた知性豊かな人間を養成する」「安心・安全で、質の高い教育環境を整備する」という４つの基本的方向を目指すこととしました。その実現に向けて、学校・家庭・地域の三者が自らの役割と責任を果たしていけるような総合教育計画を策定しました。学校では家庭・地域と一体となった組織的な取り組みによって､次代を担う子どもたちの「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育みます。そのため、学校教育では、幼児・児童・生徒の「生きる力」の育成を目指して教育 TRY 運動に取り組みます。また、家庭では基本的生活習慣を確立し、地域では家庭・学校と連携・協力を密にし青少年の健全育成を推進します。さらに生涯学習については、地域の活性化を担う社会教育施設の在り方などを検討し、長期的な展望に立って教育施策の充実に努めます。

行財政改革が行われている厳しい環境にありますが、平成 27（2015）年度の目標年次に向け、この計画により教育を通した活力ある「まち」と「ひと」づくりを目指します。

≪基本施策≫

Ⅰ 子どものたくましく生きる力、感性豊かな個性、確かな学力を育てる
- 1.「ふるさと学習」の推進
- 2. 確かな学力を育む教育の推進
- 3. 特別支援教育の推進
- 4. 幼児教育の推進
- 5. 心の教育の推進
- 6. 教職員の人材育成
- 7. 健康・体力づくりの推進

Ⅱ 学校・家庭・地域が連携した子どもの教育を充実する
- 1. 学校・家庭・地域の協働、連携
- 2. 子どもの健やかな成長に役立つ教育環境整備
- 3. 安心・安全な学校づくり
- 4. 望ましい食習慣を身に付ける食育の推進
- 5. 社会変化に対応した教育行政の推進

Ⅲ 青少年が健全に成長できる環境をつくる
- 1. 青少年の健全育成

Ⅳ いつでも学べる場と機会をつくる
- 1. 生涯学習の推進
- 2. 公民館機能の充実
- 3. 図書館機能の充実

Ⅴ 誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しめる環境を充実する
- 1. 誰もが気軽に楽しめるスポーツの振興
- 2. 競技スポーツの振興

Ⅵ 郷土の歴史・文化財や伝統を守り、継承する

1. 文化財・伝統文化の保護と継承

Ⅶ 人権を尊重し、一人ひとりの個性を認め合う

1. 人権教育の推進

第 3 次豊後大野市総合教育計画

平成 28（2016）年度から平成 32（2020）年度

『ふるさとを愛し、地域とともにシアワセな未来を拓く、たくましく、心豊かな豊後大野の人づくり』

人格の完成や個人の尊厳などの普遍的な理念を継承しつつ、平成 18（2006）年に改正された教育基本法では、「①知・徳・体の調和がとれ、生涯学習にわたって自己実現を目指す自立した個人」、「②公共の精神を尊び、国家社会の形成に主体的に参画する国民」、「③我が国の伝統と文化を基盤として国際社会を生きる日本人の育成」を目指すことが明確化されました。この理念を達成するためには、現在の社会経済情勢や将来の展望を十分に踏まえ『教育立国』として、ふさわしい教育のあり方を具体的に検討し、必要な政策を実行することが求められます。

そのような中、グローバル化や高度情報化社会、少子高齢化など社会の急激な変化に伴って、我が国は次のような危機に直面しています。

- 少子高齢化による社会全体の活力低下
- 厳しさを増す経済環境と知識基盤社会への移行
- グローバル化の進展による我が国の国際的な存在感の低下
- 雇用環境の変容による失業率、非正規雇用の増加
- 都市化・過疎化の進行、家庭形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化を背景とした地域社会のつながりの希薄化、支え合い機能の低下による個々人の孤立や規範意識の低下
- 地方の衰退や疲弊など地域間格差、世代間または世代内の社会的格差や経済的格差などの格差の再生産と固定化の進行による一人ひとりの意欲減退や社会の不安定化
- 環境問題、食料・エネルギー問題、民族・宗教紛争など地球規模の課題への対応

このような状況は、平成 23（2011）年 3 月 11 日の東日本大震災の発生により一層顕在化かつ加速化しており、生活水準、経済状況、雇用状況の悪化や社会格差の増大など様々な影響が懸念されています。

また、国では人口急減・超高齢化・東京一極集中を克服し、将来にわたって各地域がそれぞれの特徴を生かした自立的で持続的な社会を創出できるよう「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（平成 26（2014）年 12 月閣議決定）に基づく取り組みを進めています。本市としても、平成 27（2015）年 10 月に『豊後大野市総合戦略』を策定し、その中で「人口ビジョン」と「まち・ひと・しごと総合戦略」を掲げ、実効性のある地方創生の取り組みを進めることとしており、その基本目標の達成のためにも、教育（学校教育・社会教育）、文化・スポーツの面からの貢献が求められています。

≪基本施策≫

Ⅰ　協働によるまちづくりの推進

① 協働の仕組みづくりと意識を高揚する

1. 市民の信頼と期待に応える開かれた教育行政の推進

Ⅱ　学校教育の充実

① 教育内容を充実する

1. 教育ＴＲＹ運動の推進
2. 生きる力の育成
3. 特別支援教育の充実
4. ふるさと学習の推進と特色ある学校づくり
5. 生徒指導体制の強化
6. 時代の変化を見据えた学習環境の整備・充実
7. 幼稚園教育の充実

② 教育体制を充実する

1. 地域とともにある学校づくり
2. 教職員の指導力の向上
3. 学校給食の充実と食育の推進
4. 学校（幼稚園）規模・配置の適正化の推進

③ 安心安全な教育環境をつくる

1. 安心安全な教育環境づくり

④ 就学環境を充実する

1. 円滑な義務教育・幼児教育の実施

⑤ 高等学校を支援する

1. 大分県立三重総合高等学校の支援

Ⅲ　生涯学習の推進
① 生涯学習を推進する
1. 生涯学習の推進と社会教育施設の充実
2. 次代を担う青少年の健全育成
② 公民館機能を充実する
1. 公民館機能の充実
③ 図書館を整備する
1. 図書館サービスの充実と図書館の整備
Ⅳ　スポーツの振興
① 生涯スポーツを推進する
1. 生涯スポーツの推進
② スポーツ施設を整備する
1. スポーツ施設の充実と利用促進
③ 競技スポーツを振興する
1. 競技スポーツの振興とスポーツ少年団活動の推進
Ⅴ　文化財等の保存・継承
① 文化財等の保存・継承・活用を推進する
1. 地域の文化財･歴史･伝統文化･民俗芸能の保存･継承・活用
Ⅵ　人権尊重社会の実現
① 人権が尊重される地域社会を実現する
1. 人権教育の推進

第 4 次豊後大野市総合教育計画

令和 3（2021）年度から令和 7（2025）年度
『郷土を愛し、つどい、つながり、ふれあい、学び合い、次世代へ未来を拓く、豊後大野の人づくり』

近年、急速に進む少子高齢化、技術革新による急速な情報化の進展、経済や社会のグローバル化、人々の価値観やライフスタイルの多様化、さらに気候変動による大規模災害の発生、新型感染症による緊急事態発生など社会情勢が大きく変化し、教育を取り巻く環境はますます複雑化しています。こうした中、国において平成 18 年に教育基本法が改正され、公共の精神、生命や自然の尊重、環境の保全、伝統文化の尊重などを教育の目標に掲げた新しい時代の教育の基本理念が示されました。これを受け示された基本理念の実現に向けて教育基本法第 17 条第 1 項の規定に基づく教育振興基本計画が策定され、教育改革を最重要課題の一つとした取組を進めています。

平成 29（2017）年 3 月に公示された新たな学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」を柱として、小学校の外国語の教科化、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善等が示されました。

また、今後のあるべき学校の姿として「チームとしての学校」の実現や「地域とともにある学校」への転換等が求められるなど、これからの学校は新たな段階を迎えます。

豊後大野市では、平成 28（2016）年度から令和 7（2025）年度までを計画期間とする第 2 次豊後大野市総合計画を策定しており、まちづくりの 10 年後の将来像「人も自然もシアワセなまち」を展望した教育施策の推進を含めた総合的な計画によりまちづくりを進めています。

また、豊後大野市総合教育会議において、本市の教育基本方針に関する施策の根幹となる「豊後大野市教育大綱」を策定し、市長と教育委員会が一層の連携の下、総合的に教育行政を推進しています。

≪基本施策≫
Ⅰ 協働によるまちづくりの推進
＜重点施策＞
1 市民が主体の教育行政を推進する
Ⅱ 学校教育の充実
～質の高いヘプタゴン教育「主体的な自己実現」をめざして～
＜重点施策＞
1 三次元空間で豊後大野っ子を育てる
⑴ 縦軸に小・中一貫教育、横軸にコミュニティ・スクール、空間軸にキャリア教育を位置付け、全ての学校において地域を愛する子どもの育成
2 地域との連携を強化する
⑴ 地域とともにある学校づくりの推進
⑵ 小中一貫型小学校・中学校（小中一貫教育校）の設置推進
⑶ 魅力ある学校づくりの推進

3 七つの柱で多面的な学校教育を推進する
⑴ キャリア教育の推進
⑵ 校種間連携の推進
1 幼・小の連携教育の推進
2 就学前教育の充実
3 小・中・高の連携教育の推進
⑶ 地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）の充実
⑷ 確かな学力の育成
1 教職員の指導力向上
2 小学校教科担任制の拡大
3 英語教育の推進
4 小学校プログラミング教育の推進
5 特別支援教育の充実
⑸ 豊かな心の醸成と健康な体の育成 ～ 居場所なしゼロを目指した学びのアクセスの保障～
1 不登校・いじめ対策の強化 ～教育支援センターの強化～
2 人権・部落差別解消教育の推進
3 健康な子どもの育成
4 防災教育の充実（子どもの安全確保）
5 学校給食の充実と食育の推進
⑹ 郷土学の推進
1 ジオ学習の推進
2 地域の歴史・文化を知る学習の推進
⑺ 学校環境の充実
1 ＩＣＴ環境の充実
2 安全で快適な学校（幼稚園）施設・設備の充実
3 教材教具の充実
4 専門スタッフ等の適正配置
5 幼稚園の規模・配置の適正化の推進
6 学校施設の開放の推進
7 安心して学べる就学環境の充実
4 教職員がいきいきと働き続けられる環境を整備する
⑴ 働き方改革プランの徹底
⑵ ＩＣＴの活用等による業務改善
5 高等学校を支援する
⑴ 大分県立三重総合高等学校の支援

Ⅲ 社会教育の充実
～ 郷土を愛する人づくり ～
＜重点施策＞
1 若年層から高齢者まで、さまざまな年代への学びを提供する
⑴ 市民一人ひとりが、生涯にわたって心豊かに学び穏やかに暮らせるよう、地域の特色を活かした社会教育の推進を図り、豊かな知性と教養を持ち健康で充実した生活ができる学びの推進
2 学校・家庭・地域の連携・協働による「協育」ネットワークを構築する
⑴ 社会教育と学校教育が連携しながら、生きがいのある豊かな人生を送るため、地域社会全体の教育力の向上を図り、子どもたちが安心して暮らせる環境づくりの推進
3 七つの柱で多面的な社会教育を推進する
⑴ 生涯学習の推進
1 生涯学習推進のための組織・体制の充実
2 社会教育施設の連携と学習情報の提供
⑵ 次代を担う青少年の健全育成
1 学校・家庭・地域・行政が一体となった青少年の健全育成
2「生きる力」の育成と「自己肯定感」の醸成
3 家庭の教育力と地域の協育力向上
⑶ 特色ある公民館づくり
1 誰もが気軽に「まなぶ」活動ができる環境づくり
2 市民に開放された「つどう」施設の提供
3 人と人を「むすぶ」地域の教育・文化の振興
⑷ 図書館利用の推進 ～ふれあい、学びの杜～
1 市民のニーズに応じた情報・資料の収集及び提供
2 世代を超えた交流や情報拠点としての事業の推進
3 さまざまな学習機会の提供と読書を通じた人づくりの推進
4 市民の「知る」を支援するレファレンスサービスの充実

5　利用につながる図書館情報の発信
⑸　資料館の展示・収蔵、館外活動の充実と文化財保護の推進
1　歴史資料の調査・収集・公開の促進
2　文化財や伝統文化等の調査研究と保存・継承・活用
3　文化財の環境保全・保護と整備の推進
4　ジオパーク活動の推進
⑹　誰もが楽しめるスポーツの振興
1　生涯スポーツの推進と競技スポーツの振興
2　スポーツ施設の整備とスポーツツーリズムの充実
⑺　人権・部落差別解消教育の推進
1　部落差別解消を中心とした人権教育の推進
2　「人権を学ぶ子ども会」への参加促進と活動の拡充

第 12 章
公共交通の変遷

（1）豊後大野市のバス・タクシー

豊後大野市では現在、民間バス会社の大野竹田バスと、市が運営するコミュニティバスが運行されています。当初は、大分バスにより運行されていましたが、利用者の減少と路線の維持困難を背景に、平成 22（2010）年、大分バスから大野竹田バスへと路線が継承され、地域に根ざした運行を継続しています。

また、昭和 46（1971）年から、旧町村では町営バスや福祉バスの運行が開始され、平成 17（2005）年、豊後大野市の発足にともない、各町のバスが市営の「豊後大野市コミュニティバス」として一本化され、今日まで運行されています。

少子高齢化や車の普及による公共交通利用者減少、運転士不足などの課題の中で、コミュニティバスの運行維持に加え、オンデマンド型の乗合タクシーといった新しい形態の検討・導入等、地域公共交通の確保・再編に向け、取り組んでいます。

【大分バス】

大正2（1913）年 11月10日
　大分市でタクシー業を営んでいた佐藤垣彦氏が、大分バス株式会社を設立、大分県下を統合
昭和20（1945）年 1月24日
　竹田～三重、三重～白山、三重～大野、三重～千歳間の運行開始
昭和25（1950）年 7月13日
　三重～大白谷間の運行開始
昭和27（1952）年 9月18日
　三重～犬飼の運行開始
昭和35（1960）年 11月17日
　三重～小倉木間の運行開始
昭和 63（1988）年 5 月 20 日
　大分バスから独立する形で、大野交通設立
平成 22（2010）年 10 月 1 日
　大野竹田バスへ路線継承

【大野竹田バス】

平成22（2010）年 10月1日
　大野交通と竹田交通が合併
　大野竹田バス株式会社が設立
平成29（2017）年 9月30日
　竹田大分線の運行廃止
平成29（2017）年 10月1日
　代替交通手段として、コミュニティバス「大野犬飼線」の実証運行開始
令和3（2021）年 10月
　ラッピングバスの運行実施
　学生限定乗り放題定期「ジモテキ」運用開始



ラッピングバス

令和5（2023）年 4月1日
　臼杵、豊後大野、竹田の3市でゾーン制運賃の導入

【コミュニティバス・あいのりタクシー及びコミタク】

昭和46（1971）年 11月1日
　緒方町で、大分バスの上畑・尾平間の運行廃止に伴い、町営バス（過疎バス）の運行開始
平成15（2003）年 6月
　緒方町の町営バスを廃止、コミュニティバスとして運行を継続
平成15（2003）年 8月
　朝地町福祉バスの運行開始

平成16（2004）年 4月

清川町コミュニティバスの運行開始

平成16（2004）年 5月

大野町福祉バスの運行開始

平成17（2005）年 3月

5町2村の合併により、豊後大野市発足

旧自治体ごとの路線を引き継ぎながら、豊後大野市コミュニティバスとして一本化

平成24（2012）年 1月

市全域でコミュニティバスの運行開始



コミュニティバスの車両

デマンド交通である豊後大野市あいのりタクシーの運行開始（三重町、清川町の一部）



あいのりタクシーの車両

平成26（2014）年 4月

あいのりタクシー清川町での運行拡大、運行時間の拡大

令和5（2023）年 4月

あいのりタクシー緒方町での運行開始

令和7（2025）年 3月

ＡＩオンデマンド交通であるコミタクの実証運行開始（千歳町及び清川町の一部）



コミタクの車両

（2）豊後大野市の鉄道

豊後大野市を通るＪＲ九州旅客鉄道の豊肥本線は、当初は大分側から「犬飼軽便線」、熊本側から「宮地軽便線」として建設が進められました。大正６（1917）年から順次延伸し、昭和３（1928）年には熊本側の路線とつながり、豊肥本線が全線開通しました。豊肥本線は現在も運行され、令和７（2025）年３月29日には、市とＪＲ九州旅客鉄道で包括連携協定を締結し、相互に連携・協力して、公共交通利便性の向上及びまちの魅力向上に取り組んでいます。

大正6（1917）年7月20日
　犬飼軽便線犬飼駅が開業
　竹中駅～犬飼駅間が開通
大正10（1921）年3月27日
　犬飼軽便線菅尾駅、三重町駅が開業
　犬飼駅～菅尾駅～三重町駅間が開通
大正11（1922）年11月23日
　犬飼線緒方駅、牧口駅（後の豊後清川駅）が開業
　三重町駅～緒方駅間が開通
大正12（1923）年12月20日
　犬飼線朝地駅が開業
　緒方駅～朝地駅間が開通
大正13（1924）年10月15日
　犬飼線豊後竹田駅が開業
　朝地駅～豊後竹田駅が開通
昭和3（1928）年12月2日
　玉来駅～宮地駅間が開通し熊本駅～大分駅間が全通
　犬飼線、宮地線を合わせ「豊肥本線」へ改称
昭和62（1987）年4月1日
　国鉄分割民営化により、国鉄からJR九州が豊肥本線を継承
平成8（1996）年3月16日
　大分駅～豊後竹田駅間でワンマン運行開始
平成16（2004）年3月13日
　九州横断特急の運行開始（三重町駅停車）
平成28（2016）年12月22日
　ＪＲ九州アプリでの全線リアルタイム列車位置情報の配信開始
令和5（2023）年6月
　三重町駅前広場の整備完了
令和7（2025）年3月
　JR九州旅客鉄道と豊後大野市、包括連携協定を締結



三重町駅改修完了（令和 5(2023) 年）



観光交流センターオープン（令和 7(2025) 年 2 月）

第 13 章
商工会のあゆみ

●豊後大野市商工会のあゆみ

■三重町商工会■

昭和35(1960)年
　7月　三重町商工会設立
　　初代商工会長に玉田哲三氏が就任
昭和40(1965)年
　5月　三重町商工会青年部設立
　　初代青年部長に平岡正三氏が就任
昭和41(1966)年
　5月　第2代商工会長に廣瀬東氏が就任
　　第2代青年部長に徳丸正典氏が就任
昭和47(1972)年
　4月　第3代青年部長に伊藤剛氏が就任
　9月　三重町商工会婦人部設立
　　初代婦人部長に岡本タガ氏が就任
昭和48(1973)年
　5月　第3代商工会長に成田三吉郎氏が就任
昭和49(1974)年
　4月　第4代青年部長に佐々木善一氏が就任
　8月　第5代青年部長に川端安雄氏が就任
昭和50(1975)年
　5月　第6代青年部長に菅野建二氏が就任
昭和53(1978)年
　4月　第2代女性部長に伊藤勝江氏が就任
　5月　第4代商工会長に赤嶺時雄氏が就任
昭和56(1981)年
　4月　第7代青年部長に小野泰秀氏が就任
　5月　第5代商工会長に成田三吉郎氏が就任
昭和59(1984)年
　4月　第3代女性部長に玉田和恵氏が就任
　5月　第6代商工会長に赤嶺時雄氏が就任
昭和62(1987)年
　5月　第7代商工会長に成田三吉郎氏が就任
平成2(1990)年
　5月　第8代商工会長に桑原功氏が就任
　　第8代青年部長に伊東雅彦氏が就任
　　第4代女性部長に後藤富貴子氏が就任
平成5(1993)年
　4月　第9代青年部長に日高富英氏が就任
平成7(1995)年
　4月　第10代青年部長に後藤龍彦氏が就任
平成9(1997)年
　4月　第11代青年部長に長吉敏満氏が就任
平成11(1999)年
　4月　第12代青年部長に角田佳彦氏が就任
　　第5代女性部長に神志那クニ子氏が就任
　10月　第9代商工会長に伊藤逸男氏が就任
平成13(2001)年
　4月　第13代青年部長に阿孫和博氏が就任
平成14(2002)年
　4月　第6代女性部長に角田朝子氏が就任
平成15(2003)年
　4月　第14代青年部長に後藤浩一氏が就任
平成16(2004)年
　10月　第7代女性部長に玉田雅子氏が就任
平成17(2005)年
　3月　大野郡5町2村合併　豊後大野市発足
　4月　第15代青年部長に河崎茂弘氏が就任
　　第8代女性部長に神志那クニ子氏が就任
平成18(2006)年
　5月　第10代商工会長に芦刈憲司氏が就任
平成19(2007)年
　4月　第16代青年部長に麻生春彦氏が就任
　　第9代女性部長に立川千恵子氏が就任
平成20(2008)年
　3月　三重町商工会が解散
　4月　豊後大野市商工会設立(本所・6 支所)

■清川村商工会■

昭和35(1960)年
10月　清川村商工会設立
初代商工会長に衛藤茂氏が就任
昭和44(1969)年
4月　清川村商工会青年部設立
初代青年部長に清水啓幸氏が就任
昭和46(1971)年
4月　第2代青年部長に田口祐一氏が就任
昭和48(1973)年
4月　第3代青年部長に水田正則氏が就任
昭和49(1974)年
4月　第4代青年部長に羽田野照幸氏が就任
昭和51(1976)年
4月　第5代青年部長に後藤健一氏が就任
5月　第2代商工会長に羽田野忠之氏が就任
10月　清川村商工会婦人部設立
初代婦人部長に水田正子氏が就任
昭和53(1978)年
5月　第6代青年部長に首藤亮一氏が就任
昭和55(1980)年
4月　第7代青年部長に小深田信義氏が就任
昭和56(1981)年
4月　第8代青年部長に日小田昭二氏が就任
昭和59(1984)年
4月　第9代青年部長に衛藤徹之氏が就任
第2代女性部長に鞍馬照代氏が就任
5月　第3代商工会長に江藤岩男氏が就任
昭和62(1987)年
4月　第10代青年部長に江藤清治氏が就任
第3代女性部長に日坂ソヨ氏が就任
平成2(1990)年
4月　第11代青年部長に江藤龍治が就任
第4代女性部長に田口早百合氏が就任
5月　第4代商工会長に佐藤徳宣氏が就任
平成5(1993)年
4月　第12代青年部長に板井浩治氏が就任
第5代女性部長に高森秀代氏が就任
平成7(1995)年
4月　第13代青年部長に江藤真治氏が就任
平成8(1996)年
5月　第5代商工会長に佐々木哲也氏が就任
平成9(1997)年
4月　第14代青年部長に有永勝士氏が就任
平成11(1999)年
4月　第15代青年部長に三浦孝氏が就任
平成14(2002)年
4月　第6代女性部長に三浦貴美子氏が就任
平成15(2003)年
4月　第16代青年部長に衛藤隆彰氏が就任
平成17(2005)年
3月　大野郡5町2村合併　豊後大野市発足
平成19(2007)年
5月　第17代青年部長に穴見志郎氏が就任
平成20(2008)年
3月　清川村商工会が解散
4月　豊後大野市商工会設立(本所・6 支所)

■緒方町商工会■

昭和35(1960)年
8月　緒方町商工会設立
初代商工会長に後藤英雄氏が就任
昭和37(1962)年
6月　緒方町商工会婦人部設立
初代婦人部長に柴田鈴子氏が就任
昭和40(1965)年
6月　緒方町商工会青年部設立
初代青年部長に吉良文一氏が就任
昭和41(1966)年
5月　第2代女性部長に園田ヒデ氏が就任
6月　第2代青年部長に平山茂雄氏が就任
昭和43(1968)年
5月　第3代青年部長に浜嶋文彦氏が就任
第3代女性部長に村井千代氏が就任
昭和45(1970)年
5月　第4代青年部長に大塚尊俊氏が就任
昭和47(1972)年
4月　第5代青年部長に三代忠義氏が就任
昭和49(1974)年
6月　第6代青年部長に衛藤準一氏が就任

昭和50(1975)年
5月　第2代商工会長に下田隆義氏が就任
昭和51(1976)年
5月　第7代青年部長に下田昇之進氏が就任
6月　第4代女性部長に橋本恵美子氏が就任
昭和53(1978)年
6月　第8代青年部長に大塚欽哉氏が就任
昭和54(1979)年
5月　第3代商工会長に吉良文一氏が就任
昭和56(1981)年
5月　第9代青年部長に板井長夫氏が就任
第5代女性部長に長吉三枝氏が就任
昭和59(1984)年
4月　第10代青年部長に長吉武生氏が就任
5月　第6代女性部長に戸次八千代氏が就任
昭和62(1987)年
4月　第11代青年部長に高本成久氏が就任
5月　第7代女性部長に橋本恵美子氏が就任
平成2(1990)年
4月　第12代青年部長に平山高司氏が就任
5月　第4代商工会長に足立一夫氏が就任
平成5(1993)年
4月　第13代青年部長に柳生芳宏氏が就任
平成7(1995)年
4月　第14代青年部長に秦陽一氏が就任
平成8(1996)年
5月　第5代商工会長に大塚尊俊氏に就任
第8代女性部長に柳生安子氏が就任
平成9(1997)年
4月　第15代青年部長に首藤和敏氏が就任
平成11(1999)年
4月　第16代青年部長に衛藤竜哉氏が就任
第9代女性部長に野口房子氏が就任
5月　第6代商工会長に衛藤準一氏が就任
平成13(2001)年
4月　第17代青年部長に山村幸治氏が就任
平成15(2003)年
4月　第18代青年部長に下田栄進氏が就任
平成17(2005)年
3月　大野郡5町2村合併　豊後大野市発足
5月　第19代青年部長に衛藤伸一郎氏が就任
第10代女性部長に森八重子氏が就任
平成19(2007)年
4月　第20代青年部長に小深田聡氏が就任
平成20(2008)年
3月　緒方町商工会が解散
4月　豊後大野市商工会設立(本所・6支所)

■朝地町商工会■

昭和37(1962)年
1月　朝地町商工会設立
初代商工会長に富高威一氏が就任
昭和41(1966)年
4月　朝地町商工会青年部設立
初代青年部長に浅野裕良氏が就任
昭和42(1967)年
5月　第2代商工会長に首藤勇氏が就任
昭和45(1970)年
6月　朝地町商工会婦人部設立
初代婦人部長に森タツ氏が就任
昭和48(1973)年
5月　第3代商工会長に甲斐博氏が就任
昭和50(1975)年
8月　第2代青年部長に森俊樹氏が就任
昭和53(1978)年
5月　第4代商工会長に加賀城三吉氏が就任
第3代青年部長に大津常定氏が就任
第2代女性部長に首藤敏美氏が就任
昭和55(1980)年
5月　第4代青年部長に小野勝己氏が就任
昭和56(1981)年
4月　第3代女性部長に朝倉マスエ氏が就任
5月　第5代商工会長に浅野祐良氏が就任
第5代青年部長に木下憲之氏が就任
昭和59(1984)年
4月　第6代青年部長に加賀城憲明氏が就任
第4代女性部長に小代キヨ子氏が就任
5月　第6代商工会長に工藤正行氏が就任
昭和61(1986)年
10月　第7代商工会長に萩原吉久氏が就任

昭和62(1987)年
4月　第7代青年部長に甲斐啓之氏が就任
第5代女性部長に久保長子氏が就任
5月　第8代商工会長に河野法一氏が就任
平成2(1990)年
4月　第6代女性部長に岐津十九子氏が就任
平成5(1993)年
4月　第8代青年部長に浅野益美氏が就任
平成7(1995)年
4月　第9代青年部長に河野一秀氏が就任
平成8(1996)年
5月　第9代商工会長に森俊樹氏が就任
平成9(1997)年
4月　第10代青年部長に伊東潤一氏が就任
平成11(1999)年
4月　第11代青年部長に野崎聖賢氏が就任
平成13(2001)年
4月　第12代青年部長に阿南哲也氏が就任
平成14(2002)年
4月　第7代女性部長に木下悦子氏が就任
平成15(2003)年
4月　第13代青年部長に後藤康文氏が就任
平成17(2005)年
3月　大野郡5町2村合併　豊後大野市発足
4月　第14代青年部長に戸田保氏が就任
平成19(2007)年
4月　第15代青年部長に加賀城憲正氏が就任
平成20(2008)年
3月　朝地町商工会が解散
4月　豊後大野市商工会設立(本所・6支所)

■大野町商工会■

昭和35(1960)年
8月　大野町商工会設立
初代商工会長に幸要一氏が就任
昭和41(1966)年
9月　大野町商工会青年部設立
初代青年部長に羽田野広氏が就任
昭和45(1970)年
3月　第2代青年部長に綿貫季秀氏が就任
昭和46(1971)年
5月　第2代商工会長に足立忠士氏が就任
7月　大野町商工会婦人部設立
初代婦人部長に三代ハツ氏が就任
昭和48(1973)年
5月　第3代商工会長に原田静記氏が就任
昭和49(1974)年
3月　第3代青年部長に阿部義弘氏が就任
昭和50(1975)年
5月　第4代商工会長に伊東央隆氏が就任
昭和51(1976)年
5月　第4代青年部長に矢野正雄氏が就任
昭和53(1978)年
5月　第5代青年部長に甲斐智氏が就任
昭和54(1979)年
5月　第2代女性部長に米田マサ子氏が就任
昭和59(1984)年
4月　第3代女性部長に橋本辰子氏が就任
昭和62(1987)年
4月　第6代青年部長に野中伸介氏が就任
第4代女性部長に樋口幸氏が就任
5月　第5代商工会長に安藤二三生氏が就任
平成2(1990)年
4月　第7代青年部長に佐東源三氏が就任
第5代女性部長に伊東妙子氏が就任
5月　第6代商工会長に綿貫季秀氏が就任
平成5(1993)年
4月　第8代青年部長に羽田野利勝氏が就任
平成7(1995)年
4月　第9代青年部長に綿貫敏弘氏が就任
平成8(1996)年
4月　第6代女性部長に後藤ジュン子氏が就任
5月　第7代商工会長に得丸元生氏が就任
平成11(1999)年
4月　第10代青年部長に沓掛恭三氏が就任
5月　第8代商工会長に近藤光夫氏が就任
平成13(2001)年
4月　第11代青年部長に重藤孝史氏が就任
平成14(2002)年
4月　第7代女性部長に工藤睦子氏が就任

平成15(2003)年
4月　第12代青年部長に安東公成氏が就任
平成17(2005)年
3月　大野郡5町2村合併　豊後大野市発足
4月　第13代青年部長に工藤修一氏が就任
平成19(2007)年
4月　第14代青年部長に工藤誠司氏が就任
平成20(2008)年
3月　大野町商工会が解散
4月　豊後大野市商工会設立(本所・6支所)

■千歳村商工会■

昭和36(1961)年
10月　千歳村商工会設立
初代商工会長に渡辺重勝氏が就任
昭和40(1965)年
5月　第2代商工会長に吉田忠親氏が就任
昭和43(1968)年
5月　千歳村商工会婦人部設立
初代婦人部長に妻城静子氏が就任
9月　千歳村商工会青年部設立
初代青年部長に藤居泰明氏が就任
昭和45(1970)年
4月　第2代青年部長に黒山明氏が就任
第2代女性部長に工藤佳子氏が就任
昭和46(1971)年
4月　第3代青年部長に宮成龍明氏が就任
第3代女性部長に後藤道子氏が就任
5月　第3代商工会長に宮成米一氏が就任
昭和47(1972)年
4月　第4代青年部長に伊東芳信氏が就任
第4代女性部長に野中八重美氏が就任
昭和49(1974)年
4月　第5代青年部長に中村洋海氏が就任
昭和51(1976)年
4月　第6代青年部長に藤居敬祐氏が就任
昭和52(1977)年
5月　商工会長代行に荻本重次郎氏が就任
昭和53(1978)年
4月　第7代青年部長に広瀬律生氏が就任
第5代女性部長に橋本民子氏が就任
5月　第4代商工会長に佐藤重正氏が就任
昭和55(1980)年
4月　第8代青年部長に吉田捷三氏が就任
昭和56(1981)年
5月　第9代青年部長に宮内信彰氏が就任
昭和59(1984)年
5月　第10代青年部長に佐藤誠氏が就任
昭和62(1987)年
4月　第11代青年部長に後藤由久氏が就任
5月　第5代商工会長に野中一二三氏が就任
平成2(1990)年
4月　第12代青年部長に春野慶司氏が就任
第6代女性部長に上野美智子氏が就任
平成5(1993)年
4月　第13代青年部長に柴山則幸氏が就任
5月　第7代女性部長に後藤千代子氏が就任
平成7(1995)年
4月　第14代青年部長に恵良啓治氏が就任
平成8(1996)年
5月　第8代女性部長に小野富代氏が就任
平成9(1997)年
5月　第15代青年部長に山崎淳三氏が就任
平成11(1999)年
4月　第16代青年部長に山崎浩二氏が就任
5月　第6代商工会長に恵藤豊喜氏が就任
平成13(2001)年
4月　第17代青年部長に岩切秀人氏が就任
平成14(2002)年
4月　第9代女性部長に宮成君子氏が就任
平成15(2003)年
4月　第18代青年部長に藤居淳一郎氏が就任
平成17(2005)年
3月　大野郡5町2村合併　豊後大野市発足
4月　第19代青年部長に渡邊憲二氏が就任
平成20(2008)年
3月　千歳村商工会が解散
4月　豊後大野市商工会設立(本所・6支所)

■犬飼町商工会■

昭和35(1960)年
7月　犬飼町商工会設立
初代商工会長に大津留武一氏が就任
昭和40(1965)年
4月　犬飼町商工会青年部設立
初代青年部長に首藤正氏が就任
6月　第2代商工会長に後藤善三郎氏が就任
昭和44(1969)年
3月　第2代青年部長に廣瀬正道氏が就任
5月　第3代商工会長に山村彰義氏が就任
11月　犬飼町商工会婦人部設立
初代婦人部長に橋本スミ氏が就任
昭和46(1971)年
3月　第3代青年部長に本田淳士氏が就任
4月　第2代女性部長に安達照子氏が就任
5月　第4代商工会長に若松鉄之助氏が就任
昭和47(1972)年
4月　第3代女性部長に伊東利子氏が就任
昭和48(1973)年
3月　第4代青年部長に橋本尚武氏が就任
4月　第4代女性部長に久保平久子氏が就任
5月　第5代商工会長に生島利夫氏が就任
昭和49(1974)年
4月　第5代女性部長に橋本ヒサ子氏が就任
昭和50(1975)年
3月　第5代青年部長に後藤文雄氏が就任
昭和53(1978)年
5月　第6代青年部長に後藤政信氏が就任
第6代女性部長に後藤初子氏が就任
昭和56(1981)年
3月　第7代青年部長に高橋謙二氏が就任
4月　第7代女性部長に渡辺ソヨ氏が就任
昭和59(1984)年
3月　第8代青年部長に川野紘一氏が就任
昭和62(1987)年
4月　第9代青年部長に橋本泰男氏が就任
昭和63(1988)年
3月　第10代青年部長に久保平明氏が就任
平成元(1989)年
5月　第11代青年部長に安部精一氏が就任
平成2(1990)年
4月　第12代青年部長に衛藤和生氏が就任
平成5(1993)年
4月　第13代青年部長に坂本都俊氏が就任
5月　第6代商工会長に橋本良一氏が就任
平成6(1994)年
7月　第7代商工会長に久保平清春氏が就任
平成7(1995)年
4月　第14代青年部長に吉松廉氏が就任
平成8(1996)年
4月　第8代女性部長に橋本貞子氏が就任
5月　第8代商工会長に羽田野力氏が就任
平成9(1997)年
5月　第15代青年部長に渡辺裕人氏が就任
平成11(1999)年
5月　第16代青年部長に安藤修氏が就任
平成13(2001)年
4月　第17代青年部長に佐藤辰生氏が就任
平成14(2002)年
4月　第9代女性部長に釘宮直氏が就任
平成15(2003)年
4月　第18代青年部長に生島雄作氏が就任
第10代女性部長に丸田信代氏が就任
平成16(2004)年
4月　第11代女性部長に嶺嘉代子氏が就任
平成17(2005)年
3月　大野郡5町2村合併　豊後大野市発足
4月　第19代青年部長に幸晃史氏が就任
平成19(2007)年
4月　第20代青年部長に橋本忠典氏が就任
第12代女性部長に久保平照代氏が就任
平成20(2008)年
3月　犬飼町商工会が解散
4月　豊後大野市商工会設立(本所・6支所)

■豊後大野市商工会■

平成20(2008)年
- 4月　豊後大野市商工会設立(本所・6支所)
  初代商工会長に森俊樹氏が就任
  豊後大野市商工会青年部設立
  初代青年部長に渡邉憲二氏が就任
  豊後大野市商工会女性部設立
  初代女性部長に宮成君子氏が就任
- 7月　地域資源∞全国展開支援事業を実施
  地域力拠点事業を実施
- 8月　創業人材育成事業(経営革新塾)を実施

平成21(2009)年
- 4月　第2代青年部長に角田英之氏が就任
  20%プレミアム付商品券の発行
  (利用期間:H21.4.1~H21.9.30)
- 5月　第2代商工会長に恵藤豊喜氏が就任
- 9月　20%プレミアム付商品券の発行
  (利用期間:H21.9.1~H22.2.28)
  ふるさと特産品開発事業を実施
- 10月　歴史的遺産の掲示板設置事業を実施
- 12月　20%プレミアム付商品券
  (歳末得々商品券)の発行
  (利用期間:H21.12.1~H22.2.28)

平成22(2010)年
- 6月　豊後大野市特産品開発組織づくり事業を実施

平成23(2011)年
- 3月　チャレンジショップを開設
- 4月　第3代青年部長に小深田聡氏が就任
- 7月　市内商店街及び商業集積地活性化計画策定事前調査事業を実施
- 9月　農商工連携イノベーション事業を実施

平成24(2012)年
- 5月　第3代商工会長に芦刈憲司氏が就任
- 7月　20%プレミアム付商品券
  (レインボーシティ商品券)の発行
  (利用期間:H24.7.23~H25.1.20)

平成25(2013)年
- 5月　商店街魅力ある店づくり支援事業を実施
- 7月　20%プレミアム付商品券
  (レインボーシティ商品券)の発行
  (利用期間:H25.7.22~H26.1.19)

平成26(2014)年
- 7月　20%プレミアム付商品券
  (レインボーシティ商品券)の発行
  (利用期間:H26.7.22~H27.1.18)
  商店街活性化対策事業を実施

平成27(2015)年
- 4月　第4代青年部長に江藤伸吾氏が就任
  第2代女性部長に衞藤加代子氏が就任
- 7月　20%プレミアム付商品券
  (レインボーシティ商品券)の発行
  (利用期間:H27.7.15~H28.1.10)

平成28(2016)年
- 7月　10%プレミアム付商品券
  (レインボーシティ商品券)の発行
  (利用期間:H28.7.17~H29.1.10)

平成29(2017)年
- 3月　経済産業大臣より経営発達支援計画認定
- 4月　第5代青年部長に高柳東洋氏が就任
- 8月　10%プレミアム付商品券
  (レインボーシティ商品券)の発行
  (利用期間:H29.8.1~H30.1.10)

平成30(2018)年
- 7月　10%プレミアム付商品券
  (レインボーシティ商品券)の発行
  (利用期間:H30.7.20~H31.1.14)

平成31(2019)年
- 4月　第6代青年部長に衞藤勲氏が就任

令和元(2019)年
- 7月　10%プレミアム付商品券
  (レインボーシティ商品券)の発行
  (利用期間:R1.7.17~R2.1.10)

令和2(2020)年
- 6月　20%プレミアム付商品券(第1弾)の発行
  (利用期間:R2.6.3~R2.8.31)
- 8月　事業継続力強化支援計画認定

9月　20%プレミアム付商品券（第2弾）の発行
（利用期間:R2.9.17~R3.1.31）

令和3（2021）年

4月　第7代青年部長に平山一氏が就任
第3代女性部長に江藤あけみ氏が就任

5月　第4代商工会長に佐東源三氏が就任

7月　20%プレミアム付商品券（第3弾）の発行
（利用期間:R3.7.6~R3.12.31）
30%プレミアム付飲食店専用商品券の発行
（利用期間:R3.7.26~R4.1.10）

8月　プレミアム付タクシーチケットの発行
（利用期間:R3.8.2~R4.1.31）

令和4（2022）年

3月　30%プレミアムエール商品券（第1弾）
の発行（利用期間:R4.3.1~R4.5.31）

7月　40%プレミアム付飲食店専用商品券の発行
（利用期間:R4.7.21~R5.1.17）

8月　プレミアム付タクシーチケットの発行
（利用期間:R4.8.12~R5.1.31）

9月　30%プレミアムエール商品券（第2弾）の発行
（利用期間:R4.9.1~R5.1.31）

令和5（2023）年

4月　第8代青年部長に水野幸太郎氏が就任
大分県商工会連合会・県下商工会で「商工会マスタープラン2023」「商工会における支援体制のあり方検討について」の2つの計画を策定
30%プレミアムエール商品券（第3弾）の発行
（利用期間:R5.4.7~R5.8.31）

7月　40%プレミアム付飲食店専用商品券の発行
（利用期間:R5.7.21~R6.1.19）

10月　30%プレミアムエール商品券（第4弾）の発行
（利用期間:R5.10.15~R6.1.19）

令和6（2024）年

5月　第5代商工会長に川野博美氏が就任

令和7（2025）年

1月　商工会支援体制のあり方の基本方針決定
（6支所を3支所に統合）

4月　第9代青年部長に羽田野勝弘氏が就任
第4代女性部長に後藤博子氏が就任

5月　商工会支援体制のあり方の基本方針に基づく定款変更

7月　30%プレミアムエール商品券（第５弾）の発行（利用期間:R7.7.13~R7.11.16）



チャレンジショップ完成（平成23（2011）年3月）


商品券販売（令和2（2020）年6月）


市長との懇談会（令和5（2023）年11月）


通常総代会（令和7（2025）年5月）

第 14 章
豊後大野市の農業

●現状と課題

本市は、大分県の南部に位置し、九州山地の豊かな自然に囲まれた農業地帯です。市の総面積の約 7 割が森林で占められており、清流・大野川をはじめとする水資源に恵まれた地形は、古くから農業に適した環境を形成してきました。

農業は、市の基幹産業であり、耕地面積の多くを水田が占め、米作を中心に多様な作物が栽培されています。また、畜産業も盛んで、肉用牛や豚、鶏などの飼養が行われています。

しかし、近年は、農業従事者の高齢化と後継者不足が深刻化しており、遊休農地の増加や農地の集積・集約化の遅れが課題となっています。加えて、気候変動による異常気象や鳥獣被害の拡大も、農業経営に大きな影響を与えています。これらの課題に対応するため、スマート農業の導入や担い手育成、集落営農法人の支援などが進められています。

平成 24（2012）年 1 月からはインキュベーションファームを開校し、農業経営をめざす研修生を受け入れ、夏秋ピーマンを主とした農業起業者を育成し、農業の担い手の確保と産地拡大を図っています。



インキュベーションファームでの研修（収穫の様子）

●農作物

豊後大野市では、地形や気候を活かした多様な農作物が生産されています。園芸作物については重点品目を選定し、「大分の野菜畑　豊後大野」をキャッチフレーズとして認知度向上を図っています。



•米

市内全域で栽培されており、品質の高さから県内外で高い評価を受けています。

特に朝地町綿田地区で栽培される「綿田米」は、地域の歴史と誇りを背負ったブランド米として名を馳せています。その由来は古く、江戸時代には岡藩の殿様が「御膳米」として食していたと伝えられています。藩の殿様の食膳に供されるほどの品質を誇る米として、今もなお地域の宝として大切に育てられています。



朝地町綿田の田園風景

•夏秋ピーマン

灌漑設備及び栽培設備を整備することにより品質と収量の安定化を図っており、西日本有数の産地となっています。

九州・中国・関西地方への出荷が盛んです。



夏秋ピーマン

•かんしょ(さつまいも)

畑地帯を中心に古くから栽培されています。「甘太くん」をはじめとした高糖度かんしょの栽培を進め、主に九州・関西地方に出荷されますが、香港・シンガポール等にも輸出されています。



かんしょ(さつまいも)

•さといも

粘りと甘みが特徴で、地域ブランドとして定着しています。「里丸くん」のネーミングで販売しており、九州・関西地方を中心に出荷されています。



さといも

•白ねぎ

県内有数の産地であり、畑地帯で土地利用型作物として拡大しています。九州・関西地方を中心に出荷されています。



白ねぎ

•夏秋なす

水田で栽培されており県下を代表する産地です。九州・関西地方を中心に出荷されています。



夏秋なす

•キク

近年、参入された農家が規模拡大や研修生を受け入れ、のれん分方式による就農支援などの取組をしています。関東地方を中心に出荷されています。



キク

•スイートピー

大野町を中心に栽培されています。花色のバリエーションも多く、品質には高い評価をいただいています。九州・関西・関東地方に出荷されています。



スイートピー

•かぼす

大分県の特産であり、豊後大野市の肥沃な土壌がカボスの品質向上に貢献しています。九州・関西・関東地方へ出荷されています。



かぼす

•くり

豊後大野市のくりは県下有数の出荷量を有しています。九州地方を中心に出荷されています。

これらの作物は、地域の気候や土壌に適応しており、今後もブランド化や６次産業化による付加価値の創出が期待されています。



くり

•花木類

令和６(2024)年度から、県やJAと連携し、作付けを推進しています。条件不利地に適した品目もあり、初期費用も苗代程度にとどまることから、生産者の負担が少なく、作付け後も粗放的な管理が可能です。



花木類

•キウイフルーツ

豊後大野市では、温暖な気候と昼夜の寒暖差、肥沃な土壌を生かして、キウイフルーツの栽培が行われています。また、気象災害が比較的少ないことも、安定した生産を支える要因となっています。



キウイフルーツ

•ホオズキ

大分県はホオズキの生産量が全国 1 位の主要産地です。比較的高温に強い品目であるため、近年の厳しい夏の暑さの中でも、安定した栽培が期待されています。



ホオズキ

●畜産業

豊後大野市の畜産業は、農業産出額全体の約 3 割を占める重要な分野です。主な畜種は以下のとおりです。

•肉用牛（和牛）

豊後大野市の畜産業の中心であり、黒毛和種の繁殖が盛んで県内でも有数の飼養頭数を誇り、市場で高い評価を受けています。



第18回豊後大野市畜産共進会(令和7(2025)年8月27日開催)
グランドチャンピオン　ふじ11の1号

•豚、鶏

養豚や養鶏も行われており、衛生管理や飼料の工夫により品質向上が図られ、県内外の消費者から高い評価を受けています。

畜産業においても、飼料価格の高騰や気候変動、家畜伝染病への対応など、経営リスクが増大しています。さらに後継者不足という課題にも直面しています。

市では、堆肥の有効活用による循環型農業の推進、ICT を活用した飼養管理の効率化などを支援し、持続可能な畜産経営の確立を目指しています。



豊のしゃも

第 15 章
豊後大野市の林業

●現状と課題

本市の森林面積は約 44,659ha で、市の総面積の約 74% を占めています。

このうち人工林面積は約 16,387ha であり、そのうち適正伐期齢を過ぎた 9 ～ 12 齢級の人工林面積は約 7,884ha と、市内人工林面積の約 48% を占めています。このことから、齢級構成に偏りが見られる状況となっています。

また、小規模な林家が多く、経営規模 5ha 以下の森林所有者が全体の 94% を占めています。さらに、森林所有者の高齢化や相続者の市外居住等により、林業への関心が低下しており、適切な経営・管理が行なわれていない未整備森林が多く存在しています。

●全国植樹祭・全国育樹祭

平成 12（2000）年 4 月に第 51 回全国植樹祭が大野町にある「大分県県民の森 平成森林公園」にて開催されました。式典には、天皇皇后両陛下がご臨席され、アカガシ等の樹木をお手植えされました。

令和 4（2022）年 11 月に第 45 回全国育樹祭 お手入れ行事が「大分県県民の森 平成森林公園」にて開催されました。お手入れ行事では秋篠宮皇嗣同妃両殿下によるお手入れ(枝打ち･施肥）が行われました。また、大野小学校みどりの少年団の皆さんが、両殿下の補助役を務めました。

●森林環境譲与税を活用した林業振興の取組

平成31（2019）年3月に森林環境譲与税が創設され、森林整備を始め、担い手支援、木材利用の促進、普及啓発等に活用しています。

森林整備については、未整備森林の間伐や大径化クヌギ林の整備等を実施しています。

担い手支援については、認定林業事業体に対する機械補助や研修に対する補助等を実施しています。

木材利用の促進については、公共施設や観光施設等での地域材利用に森林環境譲与税を活用しています。

普及啓発については、市内の小中学校の生徒を対象に、木育授業や林業就業体験等を実施しています。



未整備森林の切捨間伐



森林環境譲与税で整備されたあずま屋（大原総合公園内）

●乾(ほし)しいたけ

本市は、総面積の約 74%が森林で、良質なクヌギ林が広がっています。豊富なクヌギをしいたけのほだ木として使用し、古来よりしいたけ栽培が盛んに行われてきました。

しいたけは乾燥させることで、旨味や香り、栄養価が凝縮されます。乾しいたけの栽培は農薬や化学肥料などの添加物は一切使わず、自然に近い方法で行っており、安心安全な健康食品として国内外から注目されています。

大分県の乾しいたけは、国内生産量の約4割を占め、第72回全国乾椎茸品評会では26年連続・通算58回目の団体優勝を果たすなど品質・生産量ともに日本一を誇ります。

その中でも豊後大野市は、最高賞である農林水産大臣賞や林野庁長官賞の受賞者を毎年輩出しており、最高品質の乾しいたけを生産しています。



特産品の乾しいたけ

●豊後大野市椎茸振興会の取組

平成18（2006）年2月8日に各町の椎茸振興会等の組織を統合し、豊後大野市椎茸振興会を設立しました。市椎茸振興会は、生産者相互の連携を深め、栽培技術の向上や経営の改善を目的として活動しています。

技術向上や生産意欲を喚起するため、毎年、市乾椎茸品評会を開催しています。大分県や全国の品評会への出品に繋がり、多くの生産者が上位入賞を果たしています。

乾しいたけの魅力や消費拡大に繋げるため、市内小学校で「しいたけ教室」を開催しています。駒打ち体験やほだ起こし体験、乾しいたけの水戻し体験など、生産者から直接、原木しいたけの栽培方法を学び、地域の主要産業に対する理解を深めています。

また、令和2（2020）年度から学校給食に「乾しいたけ」を贈呈しており、若い世代へ市の特産品である原木しいたけの美味しさや魅力を伝えています。



しいたけの駒打ち体験の様子

●全国乾(ほし)しいたけ振興大会

全国乾しいたけ振興大会は、乾しいたけの品質向上、生産者の技術向上および消費拡大等を目的として開催され、全国各地から乾しいたけの生産関係者が集まります。

本市では、これまでに3回開催地となっており、豊後大野市産の優れた乾しいたけの魅力を全国に発信しています。

平成19（2007）年7月7日～8日の2日間、豊後大野市総合文化センター（エイトピアおおの）にて、2007年全国乾しいたけ振興大会を開催しました。あわせて、第55回全国乾椎茸品評会表彰式及び森喜作賞表彰式が行われ、市内では農林水産大臣賞1名、林野庁長官賞6名、森喜作賞に三重町の生産者でつくる「日本一のなば山師になろう会（現：日本一のなば山師会）」が表彰されました。県内外から乾しいたけ生産者等が参加し、2日間で約5,000人が来場しました。

平成24（2012）年7月7日～8日の2日間、豊後大野市総合文化センター（エイトピアおおの）にて、2回目となる2012年全国乾しいたけ振興大会を開催しました。あわせて、第60回全国乾椎茸品評会表彰式が行われ、市内から農林水産大臣賞1名、林野庁長官賞6

名が表彰されました。テーマは、「継承（つなぐ）～味、技、安心と安全・日本産しいたけの明日へ向けて～」とし、平成23（2011）年3月の東日本大震災による原発事故に苦しむ関東以北の生産者の復興を願い、国産乾しいたけの増産に取り組もうという強い思いが込められました。2日間で県内外から約6,000人が来場しました。

平成29（2017）年7月8日～9日の2日間、3回目となる2017年全国乾しいたけ振興大会を開催しました。あわせて行われた第65回全国乾椎茸品評会表彰式では、市内から農林水産大臣賞2名、林野庁長官賞5名が表彰されました。2日間で県内外から約6,000人が来場しました。

第 16 章
グルメと観光

（1）グルメ

◇おおいた豊後牛

大分の恵まれた自然の中で育まれ、輝かしい歴史と実績を持つ豊後牛。和牛農家は、牛へのストレスを最大限抑えることに力を注いでいることから、牛たちは伸び伸びと育ち、「おおいた豊後牛」の美味しさに繋がっています。

「おおいた豊後牛」は美しい霜降りを持った肉質で、風味も豊かでとろけるようなやわらかさと美味しさが際立つ味わいが特徴です。

平成 29(2017) 年に開催された “ 和牛のオリンピック ” として知られる「第 11 回全国和牛能力共進会（宮城県開催）」では、種牛の部で日本一（内閣総理大臣賞）を受賞、全区で優等賞入賞、さらに総合で全国第３位と輝かしい成績を収めるなど、その評価はますます高まっています。

豊後大野市も「おおいた豊後牛」の産地の一つであり、市内のお店でも「おおいた豊後牛」を使ったグルメを楽しめます。近年はふるさと納税の返礼品やお土産としても高い人気を誇ります。



おおいた豊後牛

◇乾しいたけ

豊後大野市の特産品の１つである乾しいたけ。

大分県内の乾しいたけが愛好される理由としては、くぬぎ原木を使用しているので、きのこの肉質が豊かでありその上、大型でおいしいということがあげられます。乾しいたけはそのまま食材として使われるだけでなく、市内ではさまざまな加工品も開発され、豊後大野の食文化と経済の発展に貢献しています。



乾しいたけ

◇かぼす

かぼすは大分県の特産であり、豊後大野市でも栽培されています。素材の味を生かす、まろやかな酸味とさわやかな香りが特徴で、多くの家庭では、みそ汁をはじめ、焼き魚や刺身など、さまざまな料理に果汁をかけて利用されます。ジュースやジャム、調味料などの加工品の開発・製造も行われており、市内の農産直売所や道の駅などで販売され、観光客に広く親しまれています。



かぼす

◇綿田米

朝地町綿田地区で栽培される「綿田米」は、江戸時代には岡藩主・中川公にも献上された「御膳米」として知られる高品質なブランド米です。綿田地区は保

水力のある粘土質の土に恵まれていることから、おいしいお米が育つとされています。秋には、朝地町の道の駅では新米の販売や収穫祭が開催され、綿田米は今も多くの人々に愛されています。



綿田米を栽培する綿田地区の田んぼ

◇ジビエ

農家に被害をもたらすイノシシやシカを捕獲し、そのお肉はジビエとして料理に活用されます。ジビエ料理を提供するお店もあり、道の駅ではジビエを活用したレトルト商品などの加工品やジビエ肉も販売されています。



ジビエ料理

◇クリーンピーチ

清川町の特産品「クリーンピーチ」は、ユスラウメに桃の木を接ぎ木するわい化栽培により育てられたブランド桃です。この栽培方法は栽培のはじまった1980年当時、全国でも例が少なく、九州では初の試みでした。通常の桃よりも糖度が高いクリーンピーチは人気の果物で、流通量が少ないことから「幻の桃」と呼ばれています。

青果の販売期間中の６月末～８月中旬には、道の駅きよかわはクリーンピーチを買い求める観光客でにぎわいます。道の駅きよかわでは、クリーンピーチを使ったジュースやソフトクリームなどの加工品も数多く販売されています。



クリーンピーチ

◇かんしょ（さつまいも）の加工品

豊後大野市の特産の一つであるかんしょ（さつまいも）。秋には市内各所でしっとり甘いホクホクの焼き芋が販売される様子を見ることができます。加工品づくりも盛んで、干し芋や芋けんぴ、冷凍した焼き芋、スイートポテト、焼き菓子など、数多くの加工品が市内の道の駅をはじめ、多くのお店に並んでいます。



かんしょ（さつまいも）の加工品

◇酒蔵

豊後大野市には歴史と伝統を誇る、４つの個性豊かな酒蔵が存在します。地域の自然と風土を生かし、各蔵元が独自の醸造技術を守りながら、品質の高い日本酒や焼酎を造り続けています。

緒方町の浜嶋酒造（鷹来屋）は、明治 22（1889）年創業で、自家栽培の酒米を使った「自耕自醸」の酒造りにこだわり、手作業での槽搾（ふなしぼ）り製法を守る蔵元です。併設されている「鷹来屋ガーデンささら」では酒粕を使ったスイーツや季節限定メニューが楽しめます。



浜嶋酒造の商品

同じく緒方町の吉良酒造は、明治４（1871）年創業の老舗で、良質な地元産米と水を使って清酒を醸造しています。繊細でやわらかな味わいが特徴で、近年は、発酵技術を生かした「食べるあまざけ」などの新しい商品開発にも力を入れています。



吉良酒造の商品

朝地町の牟礼鶴酒造は、明治 37（1904）年創業で、もともとは清酒蔵でしたが現在は麦焼酎の製造に力を入れています。小規模ながらも品質に徹底的にこだわり、国内外の賞も受賞する高い評価を受けています。



牟礼鶴酒造の商品

千歳町の藤居醸造は、昭和４(1929)年創業の焼酎蔵で、伝統的な製法で香り豊かな麦焼酎を造り続けています。令和４(2022)年からはクラフトビール工房も併設し、地元千歳町の新しい名所として親しまれています。



藤居醸造の商品

この４つの酒蔵は、「ぶんごおおの巡蔵(めぐるくら)」として市内で合同蔵開きを開催するなど、一丸となって地域の酒文化を盛り上げ、観光資源としても注目を集めています。豊後大野市の自然が育んだ味わい深い酒蔵の物語は、地域の誇りであり、今も大切に受け継がれています。

◇酒まんじゅう

豊後大野市に古くから伝わる郷土のおやつ。酒まんじゅうは発酵食品で傷みにくいため、農業がさかんなこの地区では古くから農作業の合間に食べる「小昼」と呼ばれるおやつとして親しまれてきました。麹の発酵する力を使ってふんわり膨らませるのが特徴で、ふっくらした食感で、優しい甘さと香りが楽しめるおまんじゅうです。市内には専門店が数多くあるほか、道の駅や農産物直売所などで売られています。見た目はあまり変わらないですが、その味は加工所によって伝統的に受け継がれてきた特徴があります。


酒まんじゅう

◇鮎うるか

大野川などの清流でとれる鮎を使った料理を一度は食べてみてください。鮎の身や内臓を塩漬けにして発酵させた珍味「鮎うるか」は、酒の肴やご飯のお供として親しまれています。



鮎うるか

（2）観　光

◇原尻の滝

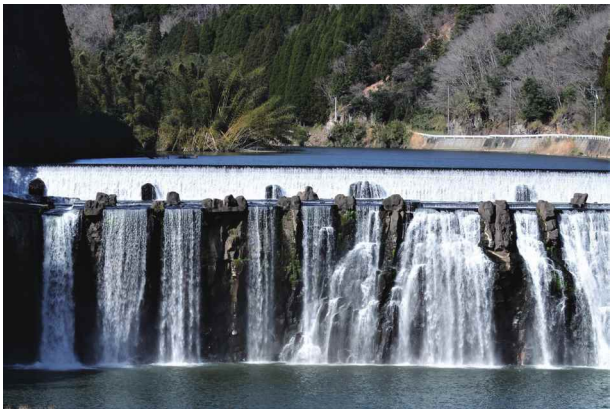
大野川の支流、緒方川にかかる滝で、幅は約 120 m、高さは約 20 mあります。およそ 9 万年前の阿蘇火山の 4 回目の巨大噴火による火砕流が冷えて固まった溶結凝灰岩が崩落してできました。滝の上流にある鳥居は、緒方三社のうちの二宮社の鳥居で、毎年の川越しまつりの際に神輿がこの鳥居をくぐります。



原尻の滝

◇沈堕（ちんだ）の滝 / 沈堕発電所跡

沈堕の滝は、大野川の本流にかかる雄滝と、支流の平井川にかかる雌滝からなります。雄滝は幅約 100 m、高さは約 20 mあります。室町時代に雪舟がここを訪れ、「鎮田瀑図（ちんだばくず）」を描いたことでも有名です。明治時代に建てられた発電所の跡も残されています。



沈堕の滝

◇岩戸の景観

大野川と奥岳川の合流点にそびえる絶壁を「岩戸の景観」と呼んでいます。崖の下半分は阿蘇火山の 3 回目の巨大噴火の火砕流、上半分が 4 回目の巨大噴火による火砕流でできています。崖のまん中に JR 豊肥本線のトンネルが掘られており、鉄道写真の絶好の撮影ポイントとなっています。



岩戸の景観

◇滞迫（たいざこ）峡

滞迫峡は、奥岳川沿いの峡谷で、両側を柱状節理の発達した溶結凝灰岩の絶壁で囲まれています。崖の高さは、70 mにおよびます。谷底には、およそ 1500 万年前の火山活動でできた岩石が露出しています。少し上流には、火砕流で蒸し焼きになった炭化木が埋もれた洞窟もあります。



滞迫峡

◇松尾の埋没木（まいぼつぼく）

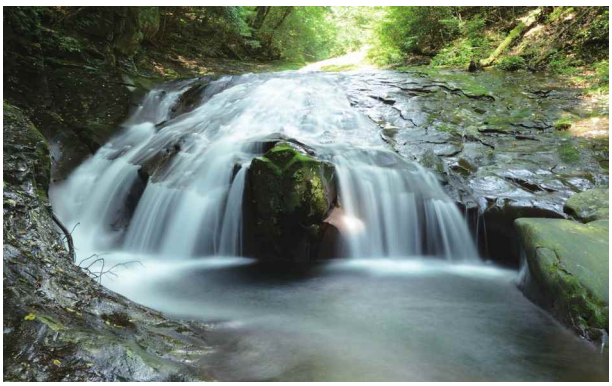
旧三重南小学校（現あかい屋根の郷）の校庭に保存されている木の幹は、近くの沢の谷底に埋まっていたものです。阿蘇火山からの火砕流は山を越え、木々をなぎ倒して流れ下りました。なぎ倒された木は火砕流に埋められ、蒸し焼きにされました。そのため木の表面は黒く炭になっています。



松尾の埋没木

◇川上渓谷

川上渓谷は、奥岳川の最上流部にあたり、春は新緑、夏は避暑、秋は紅葉と、季節を問わず楽しめます。河床には白っぽい花崗岩が露出し、深い森林とのコントラストを際立たせています。また、絶滅危惧種に指定された珍しい植物も自生しています。


川上渓谷

◇祖母・傾山系

日本百名山の一つである標高 1,756 mの祖母山から、古祖母山、本谷山を経て傾山に至る稜線は、約 1,500 万年前に噴出した火山岩類からなる急峻な岩壁がそびえ立つ独特な景観となっています。春にはアケボノツツジが咲き乱れ、特別天然記念物のニホンカモシカが生息するなど、生物の宝庫としてユネスコエコパークにも登録されています。


傾山の山頂


祖母山の山頂

◇手取蟹戸（てどりがんど）

手取蟹戸は、大野川の急流で、約 9 千万年前の海の底に堆積した大野川層群という地層が露出しています。地層は地殻変動で大きく傾き、戸板を立てたように見えます。流れが急で、蟹も流されないように岩の上を歩くため、その蟹を手で取ることができることから名づけられたと言われています。


手取蟹戸

◇江内戸の景（えないどけい）

九州屈指の河川である大野川は、阿蘇火砕流で埋め尽くされた大地を浸食し、両側に平坦な土地を生み出しました。「道の駅みえ」から眺められる風景は「江内戸の景」と呼ばれ、豊かな穀倉地帯をゆったりと流れる大野川を望むことができます。


江内戸の景

◇御嶽山（おんだけさん）

御嶽山は標高 568 mの山ですが、山頂からの眺めはすばらしく、豊後大野を一望することができます。山頂の岩は、太平洋の海底に堆積したプランクトンが固まったチャートと呼ばれる岩石で、プレートの動きによって日本列島に移動し、押しつけられ隆起したものです。

また国の重要無形民俗文化財である御嶽神楽の発祥の地でもあります。



御嶽山の山頂

◇白山渓谷（はくさんけいこく）

白山渓谷は、日本名水百選に選ばれた清流で、夏はホタルが乱舞することでも知られています。川沿いには阿蘇溶結凝灰岩の柱状節理が見られ、変化にとんだ景観となっています。また途中には、阿蘇火砕流によって水没したとされる稲積水中鍾乳洞があります。



白山渓谷

◇菅尾磨崖仏

菅尾磨崖仏は、平安時代後期に作られた 5 体の磨崖仏で、約 9 万年前の阿蘇火砕流の溶結凝灰岩に彫られています。京都や奈良の木造の仏像と比べても遜色のない、非常に精緻な作りとなっていることから、国の重要文化財に指定されています。豊後大野の数多くの磨崖仏の中でも代表的なものです。



菅尾磨崖仏 5体のうちの3体

◇宮迫東・西石仏

東西 2 か所に彫られた磨崖仏で、いずれも阿蘇火砕流の溶結凝灰岩に彫られており、平安時代後期の作と推定されています。この地域には源平の合戦で活躍した緒方三郎惟栄（これよし）の荘園があったと言われており、磨崖仏の造営には緒方三郎惟栄が大きく関わっていたことが推測されます。



宮迫東石仏



宮迫西石仏

◇柴北熊野社

社殿の裏の岩壁は、約９万年前の阿蘇火砕流の溶結凝灰岩で、大きく「熊野宮」の文字が彫られています。崖の下からは地下水がこんこんと湧き出し、磨崖仏と同様にこの場所が神聖な場所として信仰の対象になったことがうかがえます。



社殿の後ろに見える「熊野宮」

◇普光寺磨崖仏

普光寺の境内に彫られた磨崖仏は、台座を含めた高さが約 11m で、国東半島の熊野磨崖仏とともに日本最大級の磨崖仏です。豊後大野の多くの磨崖仏が約９万年前の阿蘇火山の４回目の火砕流が固まった溶結凝灰岩に彫られているのに対し、この磨崖仏は約 12 万年前の３回目の火砕流の溶結凝灰岩に彫られています。



あじさいの花と普光寺磨崖仏

◇大迫磨崖仏

お面をつけたような一種異様な顔つきの磨崖仏は、岩の表面に麻などの繊維を混ぜた粘土を貼り付けて作られたものです。この岩は約 60 万年前に、今の由布岳あたりにあった火山から流れてきた火砕流が固まったもので、非常にもろいため、このような姿になったと考えられます。



大迫磨崖仏

◇犬飼石仏

犬飼石仏は、約９万年前の阿蘇火砕流の溶結凝灰岩に彫られた磨崖仏で、像の形式から鎌倉時代に作られたと推定されています。不動明王でありながら温和な顔つきが印象的です。歌人の与謝野晶子がこの地を訪れ、詠んだ短歌の歌碑があります。



犬飼石仏

◇出会橋（であいばし）・轟橋（とどろばし）

轟橋は、昭和９（1934）年に森林鉄道の橋として架けられた２連のアーチ式石橋で、広いほうの径間（アーチの幅）が 32.1m と日本一を誇ります。一方、出会橋は、大正 13（1924）年に架けられ、径間が 29.3m と日本第二位です。下を流れる奥岳川の両岸には、阿蘇火砕流の溶結凝灰岩からなる見事な柱状節理が見られます。



下流側から見た出会橋（手前）・轟橋（奥）

◇辻河原石風呂（つじがわらいしぶろ）

石風呂とは岩穴の中に蒸気を充満させて入浴する蒸し風呂の一種です。約 12 万年前の阿蘇火山の 3 回目の火砕流の溶結凝灰岩に、崖の形をうまく利用して造られています。崖には阿弥陀如来を表す梵字（ぼんじ）が彫られており、仏教に関わる施設であったことがうかがえます。



今も活用されている辻河原の石風呂

◇神角寺（じんかくじ）

神角寺は、千年以上の歴史を持つ古刹です。約 1,500 万年前の溶結凝灰岩の柱状節理からなる尾根上に立地しているため、大変眺めがよく、そのためしばしば戦いの拠点としても利用されてきました。境内にはたくさんのシャクナゲが植えられており、シーズンには多くの見物客でにぎわいます。



シャクナゲの花と神角寺本堂

◇犬飼港跡（いぬかいみなとあと）

犬飼港は、江戸時代の初めごろに造られた川港です。当時、大野川の上流に領地のあった岡藩は、下流の三重町付近が臼杵藩の領地であったため、この犬飼までは陸路を移動し、ここから船で大分方面に向かっていました。河床には切り立った硬い地層が露出していたため、溶結凝灰岩の切り石を平らに敷き詰めています。



犬飼港跡に残る石畳

◇虹澗橋（こうかんきょう）

谷を渡る虹と名付けられた橋で、江戸時代の後期、文政 7（1824）年に完成しました。当時としては日本最大の石橋で、臼杵藩であった三重の町と臼杵城下を結ぶ街道の難所を克服するため、地元の豪商が資金を出し合って建造しました。堅牢かつ美しい石橋で、国の重要文化財に指定されています。



谷を渡る虹のような虹澗橋

◇蝙蝠の滝

大野川本流にかかる高さ約 10m の滝で、こうもりが翼を広げているように見えることから名づけられたと言われています。明治時代、大野川に舟を通して物資を輸送するために、この滝を迂回する舟路と、舟を上げ下げするすべり台のような樋が造られました。


蝙蝠の滝遠景

◇豊後大野市資料館ジオパークミュージアム

豊後大野市資料館ジオパークミュージアムでは、豊後大野の自然や歴史・民俗に関するさまざまな資料、岩石、化石・鉱物などを展示・収蔵し、おおいた豊後大野ジオパークの大地の成り立ちから、そこに育まれた豊かな自然や、人々によって紡がれてきた歴史、文化、産業の発展について深く知ることができます。


豊後大野市資料館ジオパークミュージアム館内

◇ふれあい．学びの杜　豊後大野市図書館

令和３（2021）年１月30日に開館し、同年２月２日から利用が開始されました。

◇用作公園（ゆうじゃくこうえん）

用作公園は、江戸時代に岡藩家老の中川平右衛門長伸が藩主より賜った別荘地で、明治13（1880）年に吉良家が譲り受け、現在では豊後大野市が管理しています。

岡藩の参勤交代の経路に位置するこの地には、藩主中川氏が参勤交代の途上などにたびたび立ち寄るとともに、田能村竹田（たのむらちくでん）や頼山陽（らいさんよう）といった文人墨客も多く来訪し、岡藩の玄関、接客所としての役割を果たしました。心字池を中心に、500本を超えるモミジやカエデなどの紅葉樹が植えられ、11月の紅葉期間中の週末や祝日にはライトアップが行われ、多くの見物客で賑わいます。


心字池


紅葉に彩られる園内

◇宝生寺（ほうしょうじ）

800年の歴史を持つ、由緒ある寺。豊後の大守鎮（たいしゅちん）西探題（ぜいたんだい）、大友出羽守親隆公の祈願によって再建されました。

「彩の宝生寺」「宝生寺の秋」と言われるほど、秋の紅葉時期には鮮やかな彩りを放ちます。


ライトアップされた宝生寺

◇神楽会館

神楽会館は、豊後大野市内の神楽をはじめとする、伝統文化の継承・発展及び担い手の育成、並びに情報発信や交流促進を図るための拠点施設として平成21（2009）年６月にオープンしました。



神楽会館

◇緒方井路（いろ）

かつて「緒方五千石」と称されたほどの米どころ緒方盆地約 230ha の農地を潤す農業用水路。
豊かな水をたたえた「井路」とよばれる水路が町中をめぐる風景は、緒方町独特の景観です。

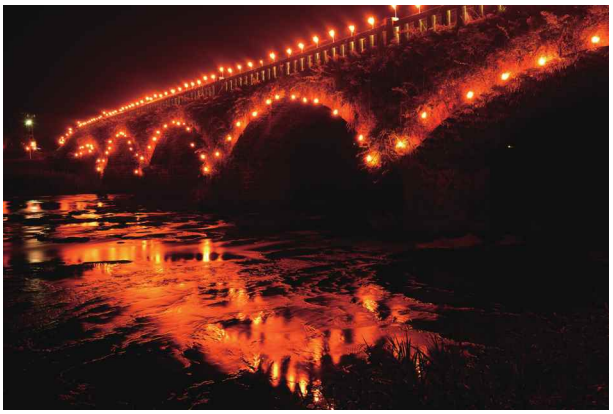
農林水産省の「疎水（そすい）百選」にも選定されています。


町中を流れる緒方井路

◇緒方川と緒方盆地の農村景観

緒方川流域において、阿蘇火山の噴火がもたらした溶結凝灰岩の地盤上に成り立った地形における河川と井路群・井路網の関係性、時代ごとに推移、開削されていった井路、水の恵みに感謝する文化の構築等、水と石が織りなす景観を「緒方川と緒方盆地の農村景観」として取り上げ、令和５（2023）年３月 20 日に国の重要文化的景観に選定されました。


緒方盆地の景観


小松明火祭りの際は原尻橋にも松明が灯ります

◇稲積（いなづみ）水中鍾乳洞

３億年前の古生代に形成され、30 万年前の阿蘇火山大噴火により水没し現在の形となった鍾乳洞。

洞内には水中鍾乳石や珊瑚石、ベルホール、ヘリクタイトなどが数多く見られる世界的にも珍しい水中鍾乳洞です。


鍾乳洞内部

◇大原総合公園（大型複合遊具）

「豊後大野　いいとこめぐり」をテーマ・コンセプトに、豊後大野市の魅力あふれる名所やキャラクターなどのイメージを遊具に盛り込み、「ヘプタゴンとなばっピーのワンダーアドベンチャー」として遊具に統一感を持たせています。

また、「多種多様な遊び機能」「遠くからでも目立つ高さやカラーリング」「みんなで遊べるユニバーサルデザイン」などが遊具のポイントです。

遊具は、児童用エリア、幼児用エリア、乳幼児用エリア、ユニバーサルエリア、インクルーシブブランコ、ロープウエイなど49アイテムと、地域産材を使用した東屋を1棟、水飲み場を設置しています。



複合大型遊具と桜

◇えぼし公園

烏帽子岳の東側、浄水寺の境内にある公園です。

県内でも有数の桜の名所で、季節になると、濃いピンクの花が幾重にも重なり、優雅な花の房が特徴的なボタンザクラが咲き誇ります。開花時期が４月中旬から５月上旬までと長いのが特徴です。

毎年約500本が開花し、烏帽子岳の山肌を鮮やかなピンク色に彩ります。毎年４月頃に「えぼし岳ぼたん桜祭り」が開催されます。



ボタンザクラが満開の頃のえぼし公園

◇朝倉文夫記念館／記念公園

大野郡上井田村（現豊後大野市朝地町）出身で、日本近代彫刻の基礎を築いた「東洋のロダン」と言われた朝倉文夫の偉業を伝える場所。

記念館では、朝倉の学生時代から晩年までの作品やゆかりの品々の展示、ビデオ上映などを行っています。



四季の折々の花と芸術作品を楽しめる園内

◇総合文化センターエイトピアおおの

豊後大野市総合文化センターは、平成10（1998）年の開館以来、豊後大野市内外の来館者が、一流の芸術から日常的な文化活動に至るまで、さまざまな感動に出会える場所として活用されています。

車椅子席を含む1,001席の大ホールから、300席の小ホール、会議室や和室などの多様なニーズに応える機能を備えています。



エイトピアおおの外観

◇内山観音（蓮城寺）

内山観音の愛称で親しまれる蓮城寺は、桜の名所としても有名で、観音様に合格祈願をしていた人が、桜の季節になるとお礼参りに来る姿も見られます。

国宝・臼杵石仏との縁も深い真名野長者が、中国からきた蓮城法師のために建設したと言われるこの寺には、長者夫婦の墓や金亀ヶ渕など長者伝説ゆかりの史跡が残されています。

また、観音堂には本尊の千手観音、薬師堂には京都三十三間堂と並ぶ 998 体の薬師像や一寸八分観音など、貴重な文化財を多数見ることもできます。

◇ LAMP 豊後大野・REBUILD SAUNA

山奥のゲストハウス・LAMP 豊後大野にある廃材を使ってセルフビルドした小屋サウナ。



REBUILD SAUNA

◇ロッジきよかわ・JOKI SAUNA

豊後大野市清川町にある宿泊施設・ロッジきよかわのテントサウナ。目の前に流れる澄んだ川が水風呂となります。



自然豊かなロッジきよかわ



テントサウナ

◇ちとせ花ひろば

ちとせ花ひろばは、令和元（2019）年に「千歳まちづくり協議会」が地域の賑わいづくりを目的として整備・開設しました。

しだれ桜や河津桜、ツツジが植えられており、四季折々の花が楽しめます。

花の少ない冬期には、後身の「まちづくり千歳」がイルミネーションの花を咲かせようと、LED 電球で装飾を行っています。電球の数は年々増加し、令和 7(2025) 年冬には 15 万球に達しました。



ちとせ花ひろばのイルミネーション

◇やすらぎ公園展望台

神角寺の北側に広がる高台にある展望台です。特徴ある形の展望台に登ると、九州の山々を一望できる大パノラマが広がります。きらめく星空観察にもぴったりです。


やすらぎ公園展望台

◇佩楯山（はいだてさん）

佩楯山は、豊後大野市と佐伯市の境に位置し、大野川と番匠川の分水嶺を形成する稜線の最高峰です。

頂上に各種業務無線局が設置されている関係で舗装道を車で登ることもできますが、歩いて登るルートもあります。見晴らしのよい山頂からは豊後大野市三重町の中心部や由布・鶴見岳、祖母山の展望が楽しめ、また多くの電波塔とともに一等三角点が設置されています。


佩楯山の山頂

◇烏 嶽（からすだけ）

豊後大野市の烏嶽は祖母山から北東に伸びる長い障子岩尾根の末端に位置する山です。

山頂には天正年間、薩摩軍の豊後侵入を防ぐ目的で烏嶽城が築かれていました。

登山口は、林道宇目小国線の烏嶽トンネルのそば。道標に従って入山し、尾根道を進むと小一時間で山頂に到着します。山頂は、全く展望がききませんが、山頂の 100 mほど手前にある断崖絶壁の上からは北西方向に大展望が得られます。また、最近では南西にある倉木山とセットで周回登山を楽しむ登山者も多くなっています。

◇烏嶽円形分水（からすだけえんけいぶんすい）

緒方町小原（おはる）地区にあります。長谷緒井路（はせおいろ）本線の水を小原方面と上緒方方面に分水するため、水路の水はサイフォンの原理を利用して、円形分水の手前から潜り中央から吹き上がっています。昭和 13（1938）年の通水から、常に一定の比率で分水される合理的な構造。豊かな実りを願った先人たちの思いが今も生き続けています。


烏嶽円形分水

◇神角寺渓谷

神角寺渓谷は、地域の皆さんが森づくりのため、モミジなどの広葉樹を植樹し、里山再生・保全活動に取り組まれています。

秋には、渓谷沿いは紅葉が進み、きれいな風景を見せてくれます。


秋の神角寺渓谷

◇左右知（間の内）のイチイガシ

左右知の御嶽山に向かう林道の奥に生育するイチイガシの巨木です。ブナ科コナラ属の常緑の高木で、総高は 12m、胸高幹囲は 10m あります。幹の中心に空洞があって、中には祠が祀られており、大分県特別保護樹木にも指定されています。



左右知(間の内)のイチイガシ



健男社の杉並木

◇健男社

健男社は、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの代表的な見どころのひとつです。

健男社の杉と自然林は、県指定天然記念物となっており、杉並木に囲まれた 480 段の石段の上に拝殿が位置しています。神殿の背後地にはモミの巨木を優占種とする自然林が残され、近年林業開発により消滅のモミ林の貴重な残存林として学術的に高く評価されています。

また、奥嶽流の上畑獅子舞が地域の大切な伝統芸能として残っています。

第 17 章
国内外の都市との交流

●友好交流協定締結の状況

豊後大野市は、国内外合わせて5つの都市と友好交流協定を締結しています。

（国内）

- 東京都台東区:昭和62(1987)年12月(旧朝地町)

（国外）

- 中華人民共和国湖北省荊州市荊州区:
  平成6(1994)年9月(旧三重町)
- 大韓民国全羅北道益山市:平成17(2005)年8月
  (豊後大野市)
- 大韓民国釜山広域市機張郡:令和6(2024)年10月
  (豊後大野市)
- ネパール連邦民主共和国ルンビニ県グルミ郡ムシコット市:令和7(2025)年5月(豊後大野市)

●それぞれの交流の経緯や交流内容

【東京都台東区】芸術を介した友情と信頼

- 東京都台東区との友好都市の締結・交流 -

豊後大野市朝地町出身の彫塑家、朝倉文夫が 61 年間を暮らした東京都台東区と、昭和 62(1987) 年 12 月 10 日に友好都市を締結しました。

調印式では、「朝倉芸術を介した友情と信頼で、さらに友好を深め活力に満ちた豊かな地域づくりを誓います」と宣言し、友情の絆がしっかりと結ばれ、現在文化交流や人的交流、物産交流などを行い、友好を深めています。

旧朝地町と台東区との交流事業一覧 (主なもの)

昭和 62(1987) 年 12 月 10 日
　朝地町・台東区友好都市提携宣言
平成 3(1991) 年 3 月
　朝倉文夫記念公園開園 (台東区協賛)
平成 6(1994) 年 7 月
　上野夏祭り深山流神楽公演 (深山神楽座)
平成 7(1995) 年 7 月
　上野夏祭り深山流神楽公演 (青年神楽座)
平成 8(1996) 年 7 月
　上野夏祭り深山流神楽公演 (若宮神楽座)
平成 9(1997) 年 7 月
　上野夏祭り深山流神楽公演 (青年神楽座)
平成 10(1998) 年 7 月
　台東区小学生ホームステイ交流招致
平成 15(2003) 年 7 月
　朝地小児童　台東区ホームステイ訪問
平成 16(2004) 年 7 月
　朝地小児童による台東区訪問



友好都市締結30周年記念植樹 (平成29 (2017) 年11月)

【中国荊州区】農村交流から友好交流都市に

- 豊後大野市と中国荊州区との交流の経緯 -

三重町と中国湖北省荊州市荊州区 (旧名：湖北省江陵県) とは昭和 61(1986) 年 9 月に友好姉妹農村提携に合意し、これまで幅広い分野で多彩な交流を実施し、実を結んできました。

平成 3(1991) 年に「日本国大分県三重町と中華人民共和国湖北省江陵県との友好姉妹農村の促進に関する覚書」を交わし、平成6(1994)年9月26日には「友好町、県関係締結に関する議定書 (友好姉妹農村)」を締結し、両地域の永遠に渡る善隣友好関係の発展と世界平和に寄与することを約しました。

また、三重町と中国荊州区は隔年に相互友好訪問を実施しており、昭和 60(1985) 年からこれまで、三重町から荊州区には 10 回、荊州区から三重町にも 7 回訪問しています。

この間、平成 4 年からは、ほぼ隔年で 7 回、荊州区の農業研修生を受け入れ、町内の農家等で実習研修を行い、近代的な日本の農業等の状況を学ぶと共

に、両地域の友好と相互理解を深め、双方の農業等の発展に寄与しています。

また、平成 17(2005) 年 3 月 31 日、豊後大野市が本事業を引き継いでから平成 21(2009) 年までに、本市から荊州区へは 2 回、また荊州区から本市へ 3 回の訪問を行うと共に、荊州区の研修生の受入を 1 回行っています。

平成 30(2018) 年 12 月 18 日に豊後大野市にて荊州区と豊後大野市の友好会談を行い、覚書を交わしています。

その後、令和 2(2020) 年 2 月には 11 年ぶりとなる訪中を予定していましたが、新型コロナウイルスの発生により延期を余儀なくされました。

同年 2 月 20 日には、荊州区へ支援物資として医療用マスク 1 万 200 枚、防護服とマスクのセット 120 組を贈っています。そのお返しを受ける形で、同年 5 月 11 日、荊州区から医療用を含むマスク 6 万 3,000 枚と医療用防護服 1,000 着を寄贈いただきました。

その後は、コロナ禍のため交流が途絶えていましたが、令和 7(2025) 年 5 月 25 日、豊後大野市制施行 20 周年記念式典に合わせ、荊州区訪問団 3 名の方をお招きし、友好交流会談を行いました。同年 10 月には本市から 4 人が荊州区を訪問しています。



市制施行20周年記念レセプション(令和7(2025)年)

【韓国益山市】共通の説話を通じて友好交流都市に

- 豊後大野市と大韓民国益山(イクサン)市 -

大韓民国益山市には、三重町に伝わる「真名野長者伝説」と同様の説話があり、その共通説話を通じて、旧三重町は益山市と文化面での交流を続けてきました。その交流が実を結び、平成 17(2005) 年 8 月 22 日、豊後大野市において韓国益山市と友好交流協定の調印式が行われました。


友好交流協定書調印式(平成17(2005)年8月)

調印式には、豊後大野市長、益山市長らが出席。「地方自治体として長期的な視点に立って、国際的な枠組みの中で地域の発展を目指し、お互いの信頼関係のもと、誠実に交流事業を実施するものとする」などを内容とする協定書に調印しました。

そもそもの発端は、旧三重町が平成 13(2001) 年に立命館アジア太平洋大学 (APU) と友好交流協定を結び、学生らが同町でフィールドワークや研究発表をするなど交流を進めてきたことに始まります。

研究･交流の中で、大韓民国出身の金賛會(キムチャンフェ)教授が、「町に残る『真名野長者伝説』は、益山市に伝わる百済時代の『武王説話』と酷似している。おそらく 1,500 年以上前、大和朝廷と百済の交流で、同じ起源を持つ説話が海峡を越えて両自治体に残ったのでは」との見方を紹介しました。

そのことを機に、それぞれの伝説研究者がお互いを行き来し、文化分野での交流を進めてきたことが調印につながりました。

<大韓民国全羅北道(チョンラブクドウ)益山市>

益山市は、全羅北道南西部に位置し、面積は約 505㎢、人口は約 27 万人 (2023 年現在) の自治体です。

7 世紀、百済の武王が創建したと伝えられる、韓

国で最も大きく古い弥勒寺址石塔 (国宝) などが残る由緒あるまちとして知られています。2015 年には、益山の弥勒寺址、王宮里遺跡などを含めた周辺一帯が百済歴史遺跡地区としてユネスコ世界遺産に登録されました。

また、益山は全国各地を繋ぐ便利な交通網と国家食品クラスターが造成された産業都市で、2015 年 4 月には韓国高速鉄道、KTX 湖南線が開通して、ソウルまでの所要時間は約 1 時間となっています。

＜真名野長者伝説とは＞

真名野長者伝説は、貧しい炭焼き小五郎が神のお告げで都から来た玉津姫と結ばれ、沢山の黄金を発見して真名野長者になったという言い伝えで、豊後大野市三重町内山にある蓮城寺は真名野長者が建てたものと伝えられています。

一方、益山市武王説話に登場するのは、炭焼きではなく薯掘りの男ですが、善花姫が黄金を見せると「こんなものは薯掘りの場所にいくらでもある」と男が答える部分など、真名野長者伝説と類似点がたくさんあります。

【韓国機張郡】中学生から一般まで、幅広く草の根的な国際交流

- 大韓民国釜山広域市機張郡との交流 -

旧清川村では、人材の育成と国際化する社会への対応等を目的として、国際交流事業を行ってきました。

清川村にとって最も身近で親睦の深い、またスポーツ交流 (剣道) などでゆかりのあった、韓国釜山広域市機張郡長安邑 (村) との交流に重点を置いて取り組んできました。

中学生は毎年、一般の方は隔年で行き来を行う「ホームステイ事業」は現在も続けられ、互いの文化や生活の違いなどを身近に感じられる良いきっかけとなっています。

交流の成果は、顕著に表れています。

平成 15(2003) 年 10 月に韓国全土に著しい被害を与えた台風 14 号により甚大な被害を受けた長安邑に対し、清川村全体で 50 万円を超える義援金が集まり、交流の成果が確認され、その絆を深めました。当時韓国のマスコミでも「国境を越えた支援活動」ということで取り上げられました。

また清川村のシンボルとも言える御嶽神楽は、平成 16(2004) 年 11 月に長安邑で初の海外公演を果たし、1,000 人以上もの観客に、日本の、そして清川村の文化を伝えることができました。

そのほかにも中学生同士の交流を契機に、その保護者同士で今なお交流が続いていたり、一般のホームステイ交流がその後も個人的に続くなど、清川村が当初から目指した「心の交流」といったものが形成されています。



中学生国際交流事業の歓迎式典の様子

これらの地道に、かつ、長期にわたって形成してきた交流活動が、平成 15(2003) 年 9 月に交わされた「友好協力宣言」につながり、その後豊後大野市にも引き継がれています。

豊後大野市に引き継がれた後も交流は続き、平成 26(2014) 年には豪雨被害を受けた機張郡へ義援金を送付、コロナ禍ではリモートでの交流を実施するなど、お互いの絆をさらに深めていきました。

そして、中学生国際交流事業が 30 周年を迎えた令和 6（2024）年、これまでの長きにわたる交流を記念し、また、これまで以上に両都市のさらなる繁栄と発展を図るため、10 月 8 日、市と郡レベルで新たに「友好交流意向書※」を締結しました。

※「友好交流意向書」

これは機張郡条例に合わせた名称としており、普段よく使われる「友好交流協定書」や「友好交流都市協定書」と同じ意味のものとなります。



友好交流意向書調印式(令和6(2024)年)



友好交流協定書調印式(令和7(2025)年5月)

【ネパール国ムシコット市】双方の地域課題の解決へ

- ネパール国ムシコット市との交流 -

三重町中小坂でキウイ栽培を手がける JNN AGRO㈱のケシ代表取締役がネパール国ムシコット市出身であったことから交流が始まりました。

本市では、基幹産業である農業分野をはじめ、建設関係、福祉関係などの分野においても深刻な人手不足が生じています。

一方、ネパール国では、ムシコット市に限らず全国的な雇用不足により、就労目的による国外への出国者数が増加している状況です。

令和 5（2023）年 11 月、市長以下 5 名でネパール国を訪問し、双方の地域課題の解決に向け、今後考えられる交流のあり方や内容等について調査・研究を行い、今後の交流に向けて協議するため覚書を交わしました。

その後、東京都で開かれたムシコット市人会へ出席するなど、お互いの交流を深めていき、令和 6（2024）年 10 月には、農業をはじめ経済・文化・観光・教育など、幅広い分野における交流と提携を通じて、相互の友好・協力関係を発展させるため、「友好交流協定書」の締結を行う予定でしたが、直前のネパール国豪雨被害の影響により、調印式を延期しました。

令和7(2025)年5月24日、豊後大野市制施行20周年記念式典の来賓としてムシコット市関係者をお招きし、併せて念願であった「友好交流協定書」を締結しました。

第 18 章
主な災害

●平成 2（1990）年 豊肥地区豪雨災害

1. 災害の発生と特徴

平成 2（1990）年 6 月 29 日から豊肥地区を中心に降り続いた梅雨前線は、7 月 2 日午前 9 時頃、熊本県阿蘇地方から大分県南部地域へつながる地域に停滞しました。それから 6 時間、竹田市を中心として、豊肥地域には 1 時間に 60 ㎜に達する集中豪雨が発生しました。前日に台風 6 号から変わった低気圧が対馬海峡へと進み、梅雨前線は対馬海峡から熊本、大分県へとつながる形で停滞していました。午前 8 時頃、熊本県一宮町付近は豪雨に見舞われ、強い雨域が豊肥地域に達しました。

豊肥地域では大野川上流の玉来川・稲葉川（竹田市）が氾濫し、豊後大野市域では、大野川やその支流が氾濫しました。緒方町ほか各地で土砂崩れが起き、洪水が田畑を襲いました。

大分地方気象台の解析によると、久住山、阿蘇外輪山、祖母・傾山系などの標高 1,000 m～1,700 m前後の山々に囲まれた地形条件が集中豪雨につながったということです。久住山や祖母・傾山系で風が渦巻き、大気の低圧部ができました。そこに湿った空気が流れ込み強い雨を降らせました。水蒸気を大量に含んだ温かい気流（湿舌）が低気圧に向かい、豊肥地域に大量の雨を降らせました。

緒方川の上流域にある竹田市倉木では、1 日当たりの降水量が 336 ㎜に達しました。



大野川が氾濫した平成大橋周辺(千歳町)

2. 被害状況

幸いにも本市では本災害による死者・行方不明者はいませんでしたが、市域で確認された主な被害状況は以下のとおりです。



大野川が氾濫した高松橋（犬飼町）

人的被害: 軽傷 2 名
住家被害: 全壊 16 棟、半壊 10 棟、一部損壊 30 棟、
床上浸水 131 棟、床下浸水 109 棟
非住家: 全壊 25 棟、半壊 20 棟
公共建物: 半壊 2 棟
道路: 県道竹田野津線の決壊（清川村岩戸付近）、
県道臼杵大野線の水没（大野町矢田）
橋りょう: 向野橋（三重）の流出、
原田橋（三重－千歳）の流出、
猿飛橋（緒方－朝地）の流出、
大野橋（大野）の流出
鉄道: 第一大野川橋りょう（緒方）の流出
農業関係合計: 5,123 か所　577.9ha
林業関係合計: 254 か所　82.15ha

●平成 29（2017）年 朝地町綿田地区 地すべり災害

1. 災害の発生と特徴

平成 29（2017）年 5 月 16 日、朝地町綿田地区の住民からの通報により、宅地内の地割れが確認されたことを発端に、大規模な地すべり災害が発生しました。

当該地区は、傾斜度 20 ～ 30 度の赤土粘土質の地質的特徴を持ち、かつて昭和 39（1964）年にも豪雨による地すべりが発生した、国の「地すべり防止区域」指定地でした。

災害の発生状況は、以下のとおり急速に拡大しました。



朝地町綿田地区の地すべり

発見：住民からの通報で宅地内の地割れを確認。当初は 20 か所程度でした。

拡大：地割れの数は 40 か所から 60 か所、そして 80 か所以上へと急速に増加し、それぞれが拡大・伸長して線状に繋がっていきました。

範囲：最終的に、地すべりの影響範囲は字野添（あざのぞえ）、引地、徳野原にまたがる東西約 250m、南北約 400m、面積にして約 10ha に及びました。

2. 被害状況

幸いにも本災害による人的被害はありませんでしたが、住民の生活基盤や地域の基幹産業である農業に深刻な影響を及ぼしました。被害の詳細は、以下のとおりです。

人的被害: なし

住家被害: 警戒区域（立入禁止区域）内にあった住家 1 戸が全壊、1 戸が半壊しました。

農業被害: 災害対策として設定された立入禁止区域内の水田約 10.6ha が、地割れや水路の寸断等により耕作不能となりました。この地域は、かつて岡藩主に献上された歴史を持つブランド米「綿田米」の有数の産地であり、地域農業にとって大きな打撃となりました。

市　　道: 市道神砥石線、徳の原支線など複数路線で亀裂、滑落、隆起が発生しました。

橋　　梁: 神砥石橋において橋台の転倒や床版の傾斜が発生しました。

河川施設: 平井川の砂防えん堤に隆起や亀裂が生じ、護岸の転倒や流路閉塞も確認されました。

3. 初動対応と応急対策

災害発生直後より、市と県は緊密に連携し、人命の安全確保を最優先に、被害拡大を防止するため以下のような初動対応及び応急対策を実施しました。



耕作者説明会

5 月 20 日　地すべり災害対策連絡室 設置

5 月 21 日　避難勧告 3 世帯 10 人

5 月 23 日　避難勧告 6 世帯 7 人追加
避難所開設（綿田公民館）
警戒区域設定

5 月 31 日　警戒区域内を細分化
（立入禁止区域・立入制限区域）

4.対策工事の実施～「綿田米」の復活

国・県など多くの方々の協力で、原因となった地下水を抜く集水井の設置や地すべりを防ぐ鋼管くいの打込工事を行いました。

平成 30(2018) 年 12 月には避難勧告の発令と警戒区域の設定を解除、令和 2(2020) 年 5 月には災害復旧工事が完了。3 年ぶりに綿田全区で田植えを再開し、その秋に収穫された「綿田米」を廣瀬勝貞知事に贈呈しました。

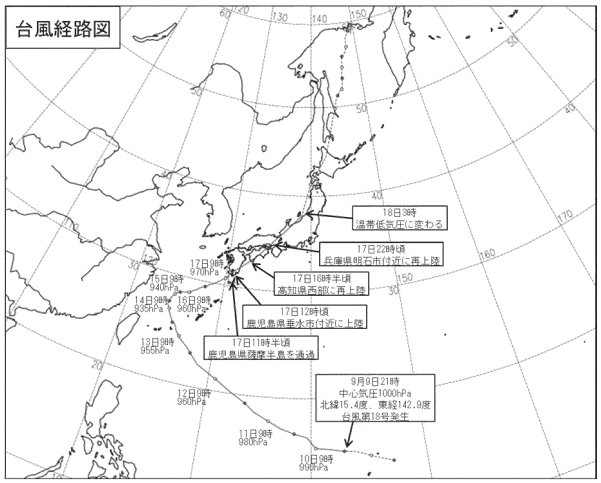
●平成 29（2017）年 台風 18 号災害

1. 災害の発生と特徴

台風 18 号は、平成 29（2017）年 9 月 17 日（日）に大分県に最接近しました。この台風や活発な前線の影響により、大分県と宮崎県の県境に位置する祖母山系を中心に 500 mm を超える豪雨域が形成されました。

本市が位置する大野川水系においては、祖母山系の北に位置する長谷川雨量観測所では、最大 12 時間降水量が 533 mm、9 月 17 日の日降水量が 571 mm、2 日間の積算降水量が 664 mm に達しました。

この大量に集水された雨が大野川を流下し、流域の本市で洪水災害が発生しました。また、白滝橋水位観測所では、氾濫危険水位を 1.46 m も超える 10.06 m を記録しました。これは、昭和 36（1961）年 10 月に観測された水位 9.3 m を超える記録的な出水でした。



（気象庁ホームページより）

2. 被害の特徴と状況

台風 18 号は、本市において死者 1 名を出し、住宅の半壊や浸水被害、道路・橋梁、農業施設など多大な被害が発生しました。


緒方川が氾濫した鳴滝橋周辺(緒方町)

人的被害：死者 1 名
住宅被害総数：18 棟
（内訳　住家：半壊 6 棟、一部損壊 1 棟。非住家：全壊 3 棟、一部損壊 8 棟）
浸水被害総数：107 件
（内訳　住家：床上 35 件、床下 31 件。非住家：床上 28 件、床下 13 件）
公共土木被害：橋りょう 3件、道路 61件、河川 21件
林道被害：39 件
農業用施設被害：農地 950 件、農道・水路・頭首工 210 件
農業被害：農作物 173.63ha、農業施設 0.15ha、ブロイラー 7,000 羽、肉用牛施設 4 件
水道被害：公営水道 3 件、地区水道 5 件


被災した奥岳川の石橋

第 19 章
指定文化財

（1）国指定文化財

神角寺本堂（重要文化財）

朝地町鳥田（鳥屋）　昭和25年8月29日指定

神角寺は、「西の高野」とも称される古刹で、大規模な寺院であったと伝えられます。兵火により一時衰退しますが、鎌倉時代以後大友氏の庇護により再建されます。現在の本堂は、南北朝期の応安 2（1369）年に建てられたものが度重なる修理を経て残されている建築物です。単層桧皮葺き、方三間の宝形造りで、堂内中央に四天柱を立て、方一間の内陣を構えており、現存する中世の貴重な建築物です。



神角寺本堂

菅尾磨崖仏（重要文化財）・菅尾石仏（史跡）

三重町浅瀬（宇対瀬）　昭和9年1月22日史跡指定
昭和39年5月26日重文指定

向って左から千手観音・薬師如来・阿弥陀如来・十一面観音・毘沙門天の 5 体の磨崖仏です。平安時代後期に熊野権現を勧請して作られたといわれ、その造形は力強く優美であるため、国の史跡指定だけでなく彫刻として重要文化財指定も受けています。



菅尾磨崖仏

木造金剛力士立像（重要文化財）

朝地町鳥田（鳥屋）　昭和57年6月5日指定

神角寺山門に阿形・吽形の一対で安置されており、像高は約 2.5m の桧・樟材の寄木造です。両像とも憤怒相で、動きの少ない静的な体勢でありながら太作りの上半身により特異な迫力に富む作品です。昭和 58 年の保存修理の際に、胎内から発見された銘札に 13 世紀に活躍した地域の有力者や関係者 46 名と推定される交名があったことから、鎌倉時代後半の制作と推定されます。



阿形　　吽形

虹澗橋（重要文化財）

三重町菅生　平成11年12月1日指定

臼杵市境の三重川に架橋されています。近世臼杵藩領三重と野津を隔てる柳井瀬の谷を渡るため、文政 7（1824）年三重と臼杵の豪商三氏より架設されたことが野津側にある碑文に記されています。虹澗は「澗を渡る虹」の意で、その名のとおり優美で壮大な石橋です。橋長約 31m、径間は約 25m で、江戸期のアーチ式石橋としては県下最大です。



虹澗橋

尾崎の石風呂（重要有形民俗文化財）

緒方町小宛　昭和43年5月31日指定

緒方町に多く分布する石風呂の一つで、塩石とも呼ばれます。寛永年間（17 世紀前半）の掘削とも伝えられる横穴二段式の石風呂です。凝灰岩の岩壁に高さ 2m、横幅 80cm の入口が掘られ、上段の浴室は高さ 1.5m、面積約 4㎡です。下段の火室で薪を燃やし、熱くなった床石に「石菖」という薬草を敷き、水をかけ蒸気をたて、入口にムシロを下げて入浴します。石風呂入口右上には薬師如来が安置されており、医療的な目的と推定されます。



尾崎の石風呂

御嶽神楽（重要無形民俗文化財）

清川町　平成19年3月7日指定

宝徳元（1449）年、御嶽社勧請の際に創始されたと伝わる神楽です。江戸後期に御嶽社宮司の加藤筑後守長古によりほぼ今の形の神楽が完成され、大野系岩戸神楽の祖型となったと考えられています。神話を主題にした演目を中心に、33 番の演目数を現在も受け継ぐ大分県を代表する神楽です。



御嶽神楽

緒方宮迫東石仏（史跡）

緒方町久土知　昭和9年1月22日指定

平安末期の作と推定され、大神一族の緒方惟栄による造顕と伝えられています。東石仏は西石仏より 200m 北東に所在し、中尊は大日如来、右に不動明王、左に毘沙門天を配し、さらに両脇に金剛力士像が彫り込まれています。江戸時代には薬師如来として信仰されており、また、地元では牛の守り神として牛をひいて参拝していたといわれます。



宮迫東石仏

緒方宮迫西石仏（史跡）

緒方町久土知　昭和9年1月22日指定

東石仏と同じく、平安末期の大神一族の緒方惟栄による造顕と伝えられています。西石仏は東石仏より 200m 南西方向に所在します。向って右から阿弥陀如来・釈迦如来・薬師如来像を配置しており、阿弥陀に来世を託し、釈迦に過去を顧み、薬師に現世を頼む三尊仏形式です。鮮やかな彩色が見られます。



宮迫西石仏

犬飼石仏（史跡）

犬飼町田原（渡無瀬）昭和9年1月22日指定

渡無瀬区に所在し、鎌倉時代の作と推定される磨崖仏です。溶結凝灰岩の岩窟堂内に像高 3.7m の不動明王坐像と 1.7m の矜羯羅童子・制吒迦童子の脇侍 2 体を彫り出しています。右手に三鈷剣、左手には羂索を持って結跏趺坐し、部分的に赤い彩色が残ります。厳しさのなかにどこか柔和な表情があり、親しみやすい不動明王です。



犬飼石仏

岩戸遺跡（史跡）

清川町臼尾　昭和56年3月31日指定

岩戸地区の台地上にあり、九州でも代表的な旧石器時代遺跡です。昭和 42（1967）年の東北大学考古学研究室により本格的な学術発掘調査が行われ、以後別府大学や清川村教育委員会による調査も行われています。旧石器時代は石を加工して槍先など様々な道具を作り出していた時代であり、この遺跡からも 2 万年以上前の地層からナイフ形石器や尖頭器など数多くの石器が出土しました。特にこけし形石偶は祈願・呪術などの用途が推定されることから、当時の精神世界を知る貴重な遺物として注目されています。



こけし形石偶



尖頭器

岡藩主中川家墓所（史跡）

緒方町寺原（小富士山）平成9年9月2日指定

小富士山頂の南西 250m にある近世岡藩八代藩主中川久貞公の墓所で、「御霊廟」と呼ばれます。久貞公は、由学館・経武館などを開設し学問に力を入れ、また、悪化した藩財政の再建に取り組んだことで知られています。寛政 2（1790）年に 67 歳で没し、遺命によりこの地に埋葬されました。儒教を信奉したため儒式墓となっています。隣接してその奥方・お久の方の落飾碑があります。



中川久貞公墓

カモシカ（特別天然記念物）

祖母・傾山一帯（三重町・清川町・緒方町）

昭和30年2月15日指定

日本の本州・四国・九州に生息するニホンカモシカは日本固有種で、偶蹄目ウシ科のヤギに近縁の種です。体長は 1.2m 程で、黒毛・褐毛・白毛の体毛があり、その混合比により淡色型や暗色型に分かれ、また季節によっても体色が変化します。九州では大分県祖母・傾山一帯のほか熊本・宮崎両県に渡る九州山地を生息範囲としています。



ニホンカモシカ

緒方川と緒方盆地の農村景観（重要文化的景観）

緒方町　令和5年3月20日選定

豊後大野市の西部に位置する緒方盆地は、阿蘇火山由来の溶結凝灰岩が覆う丘陵地帯に位置します。盆地中央を蛇行する緒方川の侵食により形成された河岸段丘は、丘陵地帯には稀有なまとまった平地ですが、川面と大きな高低差があります。そのため盆地内では、古くから灌漑用水を得るための努力が行われており、平安末期には緒方三郎惟栄により低位段丘を潤す井路が、近世には岡藩により中位段丘を潤す井路が整備され、藩屈指の稲作地帯となりました。近代には、丘陵上に長距離水路が整備され、高位段丘と丘陵部に棚田が開かれます。このように、水路開削により稲作地帯として発展を遂げてきた農村の変遷を伝える貴重な景観となっています。

河川、水田、井路、集落、山林が連なる土地利用の維持、また、井路網や石橋、磨崖仏や石風呂等、人々が時代ごとの技術を用いて溶結凝灰岩を開発に生かし、生活と結びついた文化や信仰を育んできたことを伝える要素が至るところに残されています。



緒方盆地の景観(原尻の滝周辺)

（2）国登録文化財

旧緒方村役場（登録有形文化財）

緒方町馬場　平成9年5月7日登録

昭和７（1932）年４月１日に緒方村と南緒方村が合併したその記念として、同年７月に緒方村役場庁舎として建築されました。正面八間、側面六間半の木造二階建で、半切妻屋根・洋風瓦葺。玄関天井と二階議場天井部分には菊花型の石膏レリーフがあしらわれ、入口にはスクラッチタイルが使われるなど西洋風の雰囲気のある建築物です。昭和 33（1958）年に緒方町中央公民館、昭和40（1965）年から豊西准看護学院としても使用されています。令和4（2022）年の保存修理により建築当初に近い姿に復元されました。



復元された旧緒方村役場

多田家住宅（御成屋敷（おなりやしき）・御成門（おなりもん）・主屋・蔵）（登録有形文化財）

三重町市場　平成14年6月25日登録

現在多田家所有の旧臼杵藩市場組大庄屋の居宅で、元治元（1864）年に藩主を迎えるために建てられたといわれます。明治時代には、大野郡役所庁舎が建設されるまで、郡役所としても用いられました。平入りの式台玄関から次の間、座敷を連続させ、三方に縁を巡らせています。



多田家住宅(御成門ほか)

旧長田医院（登録有形文化財）

三重町市場　平成14年6月25日登録

昭和２（1927）年に建築された木造２階建ての病院建築。街路側は、中央に玄関ポーチを備える洋風で、背面側はほぼ和風の意匠をもっています。１階には手術室・診察室・控室など病院機能を備え、２階には床棚を備える広間と４畳半の和室２部屋を配置します。現在は、内部を改装して飲食店として活用されています。



旧長田医院

麻生家住宅（登録有形文化財）

三重町市場　平成17年11月10日登録

三重町市場地区商店街に位置しています。昭和 40（1965）年頃より平成 15（2003）年まで、醤油の醸造施設（商号丸泉醤油）として醤油醸造・販売が営まれました。大きな松材を使った大黒柱や、防火に優れた漆喰で仕上げられている土蔵風の外壁など、明治初期の建築物の特徴を持っています。



麻生家住宅

蝙蝠の滝（登録記念物）

朝地町上尾塚・緒方町草深野

平成19年7月26日登録

大野川の上流にある、高さ約 10m・幅約 120m の馬蹄形の絶壁を流れる滝で、上空から見ると、まるで蝙蝠（こうもり）が羽根を広げた様に見えることから、この名前がついたとされます。明治 5（1872）～ 8 年には、竹田・犬飼間を結ぶ舟路（しゅうろ）開削の難工事が行われ、蝙蝠滝では、絶壁を迂回するために舟路が開削されています。舟路は平成 7（1995）年に大分県指定史跡となり、その後、滝本体が国登録記念物となり、注目を集めています。



蝙蝠の滝

沈堕の滝（登録記念物）

大野町矢田・清川町臼尾ほか

平成19年7月26日登録

雪舟により描かれた滝として有名です。幅約 100m 高さ約 20m の雄滝と幅約 4m 高さ約 18m の雌滝で構成されています。雄滝は明治から大正期に構築された発電所堰堤（えんてい）により往時の面影をなくしましたが、平成 8（1996)年に景観に配慮した修景工事が行われ、『豊後国志』に記述された「垂直分かれて十三条となる」の景観を取り戻しています。



沈堕の滝

（3）大分県指定有形文化財：建造物

石造宝塔（せきぞうほうとう）（川辺宝塔）

三重町川辺　昭和33年3月25日指定

川辺区の正明寺跡に所在し、地元ではしろべえさまと呼ばれている宝塔です。塔身の銘文によると、南北朝時代の明徳 4（1393）年に、12 名で結成された逆修講（ぎゃくしゅうこう）が造立した塔であることがわかります。

石造宝塔（蓮城寺永仁宝塔）

三重町内山　昭和33年3月25日指定

蓮城寺薬師堂脇に２基並ぶ宝塔で、塔身部には扉形を彫り、首部は２段で下段に高欄、上段に柱を立てた形を彫っています。県内では他に例を見ない様式で、畿内の中央工人による作と考えられています。向かって右側の塔の塔身の銘文から判断して、鎌倉時代の永仁４（1296）年と推定されています。



蓮城寺永仁宝塔

石造宝塔（蓮城寺文中宝塔）

三重町内山　昭和33年3月25日指定

蓮城寺境内にある宝塔です。基礎２面に格挟間をはさんで銘文があり、南北朝時代の文中４（1375）年の年号、及び多数の人名などの文字があり、時宗関係の結縁者による造立と考えられています。

石造宝篋印塔（法泉庵宝篋印塔）

三重町西泉　昭和33年3月25日指定

法泉庵区観音堂境内に所在する宝篋印塔です。基礎の４面に格挟間をはさんで長文の銘文があり、60人の地蔵講の結衆が南北朝時代の正平25（1370）年に造立したものです。石工は玄正で、彼の代表的な石造美術品です。

石造五輪塔（中尾五輪塔）

三重町久田　昭和33年3月25日指定

中尾区の納骨堂裏山にある総高255cmの巨大な五輪塔です。地輪に銘文があり、表面の剥落等で判読しにくいですが、南北朝時代の康暦３（1381）年造立と十阿という石工名が確認できます。地元では虎御前あるいは腹太と呼ばれ、安産祈願の信仰があります。

石造五輪塔（下赤嶺五輪塔）

三重町赤嶺　昭和47年3月21日指定

下赤嶺下区の道ノ上古墳の後円部頂上にある五輪塔です。火輪の一部の欠損がみられ、地輪の銘文より、鎌倉時代の正安２（1300）年に時宗関係者による造立と推定されています。

石造宝塔（不二庵宝塔）

三重町本城　昭和47年3月21日指定

深田区の通称不二庵跡にある宝塔で、相輪は欠失しています。塔身に金剛界四仏の種子のほか銘文があり、南北朝時代の暦応３（1340）年春の彼岸の中日に、良円が現世と来世の安楽を願って造立したことがわかります。

石造五重塔（川辺五重塔）

三重町川辺　昭和47年3月21日指定

川辺区の水田脇にある重層塔で、総高は273cmを測ります。最上部に相輪の代わりに一石五輪塔を配しています。基礎１面に銘文があり、室町時代の文明元（1469）年10月の造立です。地元では「くじゅうさま」と呼ばれ、火伏せの神として信仰されています。

石幢（大楽寺石幢）

三重町久田　昭和47年3月21日指定

中尾区の大楽寺跡にある大型の石幢です。龕部は八角で六地蔵と十王２体が薄肉彫りされ、笠・中台・幢身・基礎ともに平面は円形です。銘文から室町時代の大永８（1528）年２月に聖順居士が六地蔵信仰により極楽往生を祈って造立したことがわかります。

石幢（馬場石幢）

三重町上田原　昭和47年3月21日指定

上田原区の県道脇にある石幢です。龕部には六地蔵と十王の２体が雲座に乗って浮き彫りされていることが特徴です。銘文では、天文５（1536）年に筑後国生葉郡（現福岡県）で戦死した多田良鑑種の追善

供養のため造立されたことがわかります。

西岸寺石造宝篋印塔

三重町久田　昭和48年3月20日指定

久原区西岸寺境内に所在する宝篋印塔で、宝珠部は欠損し、基壇は失われています。南北朝時代の嘉慶元（1387）年［建徳元（1370）年との説もあり］の造立で、大工玄正（げんしょう）の作であることが刻銘で確認できます。

的場（まとば）石幢

三重町宮野　昭和51年3月30日指定

元は宮尾区的場にあった石幢で、龕（がん）部に六地蔵を半丸彫にして彫られていますが、十王像がないのが特徴です。銘文より室町時代の明応 2（1493）年 3 月 10 日の造立であり、近くの有田石幢と同一形式であることがわかります。

慈雲庵石幢1号

三重町秋葉　昭和51年3月30日指定

羽飛区慈雲庵境内にある石幢で、龕（がん）部は八角で各面に六地蔵と十王（鬼？）1 体、俗人（童子？）1 体を陽刻しており、それ以外の各部はいずれも平面は四角です。幢身に銘文があり、室町時代の永正元（1504）年に逆修供養のため造立したことがわかります。

神目寺石幢

三重町久田　昭和51年3月30日指定

中尾区の神目寺跡にある笠塔婆という形式の塔です。塔身の上部に四仏の種子があり、正面に銘があります。室町時代末期の永禄 7（1564）年に、斑甫座元禅師の現世安穏（げんせあんのん）・後生善処（ごしょうぜんしょ）を祈って弟子の清斑が造立したものです。

浄運寺宝篋印塔

三重町内田　昭和51年3月30日指定

浄運寺境内にある宝篋印塔で、相輪は宝珠の部分を欠いています。基礎の西面に銘文があり、造立は南北朝時代の文中 4（1375）年で、「別時衆」という文字がみられることから別時念仏講衆の結縁者によることがわかります。石工名は大工為宗で、同時期に活躍している玄正とは別系統の石工と考えられています。

神山石幢

三重町小坂　昭和51年3月30日指定

下小坂区の住宅地裏山林にある石幢で、龕（がん）部には六地蔵と十王一体、俗人一体が陽刻されており、彩色の痕跡も残っています。幢身にある銘文により室町時代の永正 4（1507）年に、法名道金・妙慶が現世安穏（げんせあんのん）・後生善処（ごしょうぜんしょ）を祈って造立されたことがわかります。

有田石幢

三重町宮野　昭和55年4月8日指定

宮尾区有田の道路脇にある石幢で宝珠下部を欠失しています。龕（がん）部は六角で六地蔵の半肉彫（はんにくぼ）りがあり、銘文により室町時代の明応 2（1493）年 4 月 15 日に逆修供養のために造立されたものです。近くの的場石幢と同一石工の作と推定されます。

地蔵院石幢

三重町秋葉　昭和55年4月8日指定

羽飛区西の深田区境近い山林中の地蔵院跡にある石幢です。龕（がん）部には六地蔵と十王 2 体を彫ります。幢身に銘文があり、衛藤主計允が月叟という院主の逆修供養のため建てさせたものであることがわかります。衛藤主計允は大友家家臣で白谷付近を領していた衛藤蔵人の子孫といわれ、紀年銘はありませんが全体の形式や宝珠の形から判断して、室町時代後期頃の造立と考えられます。

石幢（せきどう）（板井家石幢）

清川町宇田枝　昭和40年3月9日指定

宇田枝区に所在し、永正 13（1516）年在銘、総高 270cm の石幢です。幢身に中台、龕（がん）部、笠、宝珠と平面観は四角で、欠失部もなく保存は良好です。龕（がん）部には六地蔵のほか不明の像が彫られており、銘文から、法華経 1 千部の読誦供養のために六地蔵を建立し、現世安穏（げんせあんのん）・後生善処（ごしょうぜんしょ）を願ったことがわかります。

石造宝塔（足立家宝塔）

清川町六種　昭和47年3月21日指定

六種区に所在し、総高は 210cm の宝塔です。基礎には納経のためと思われる小孔があり、やや細身で平面観を隅丸の方形をとる塔身を載せています。塔身には鎌倉時代末の嘉暦 2（1327）年の年号や大願主頼行、礼拝供養などの銘文が見られます。



足立家宝塔

後藤家石幢

清川町天神　昭和56年3月21日指定

天神区に所在し、総高 268cm、大型で方形の石幢です。龕部には六地蔵のほか十王像 3 体が彫られ、彩色が残っています。「□□三歳丁丑十一月十二日」の紀年銘があり、各部の特徴が室町期の様相を呈していることから、康正 3（1457）年の石幢と推定されます。逆修塔であり「大工太郎四郎」の石工銘も見られます。

地蔵原石幢

緒方町大石　昭和48年3月20日指定

大石区に所在する総高 246cm の石幢です。平面は方形で豪壮な造りですが、笠部に垂木を刻み込むなど精巧な手法も施されています。龕部には六地蔵のほか 2 体の像が彫られています。銘文から永正 5（1508）年に現世安穏・後生善処を祈願した逆修塔であることがわかります。

三反畑板碑

緒方町上自在　昭和48年3月20日指定

上自在の耕地脇にある高さ約 3m の大型の板碑で、天授 3（1377）年銘のほか、大日如来、釈迦などを表す梵字が彫刻されています。緒方惟栄が背後の丘陵から投げて刺さったとの伝説があります。永福寺跡に建てられたもので、緒方一族の供養塔といわれています。



三反畑板碑

湯迫石幢

緒方町栗生　昭和51年3月30日指定

総高 283cm の巨大な石幢です。平面観方形で重厚な印象ですが、梵字や垂木の表現には精緻な部分も見られる優品です。龕部には六地蔵のほか 3 体の像が線刻されています。現在は鞘堂が設けられ手篤く保存されています。銘文には「金銀山六箱寺」や享禄 5（1532）年願主阿闍梨慶源により奉納されたことが記されています。

石幢（早尾原石幢）

朝地町上尾塚　昭和32年3月26日指定

上尾塚区早尾原に所在する単制の石幢で、暦応 2（1339）年の造立で、総高は 204cm です。幢身は八面でそれぞれの面が板碑型となっており梵字が刻まれており、あまり類例のない珍しい形式です。うち一面には浄土三部経一石一字とあり、平成 12 年の調査では基壇下から一字一石経が見つかっています。

石幢（池田石幢）

朝地町池田　昭和40年3月9日指定

一万田氏館跡の北の谷窪に所在し、総高 222cm、八角の塔身に方形観の中台を載せ、六地蔵を線刻した八角の龕部を持つ石幢です。銘文から応永 17（1410）年、悦山慶公の供養として造立されたことがわかり、一万田氏ゆかりの塔と考えられます。笠と中台が破損していますが歴史的価値の高い石幢です。

戸崎石幢

朝地町市万田　昭和54年5月15日指定

戸崎区大師堂近くに所在し、総高は 236cm で、平面は方形の石幢です。幢身（どうしん）に墨書による文安 5（1448）年の紀年銘があります。龕部（がんぶ）には六地蔵と十王 2 体が薄く彫りだされ、赤・白・黄などの彩色が残っています。

長寿庵五輪塔（二）

大野町長畑　昭和49年3月19日指定

小切畑地区長寿庵の東に 2 基並んでいる五輪塔です。右の塔は総高 225cm、左は 186cm で、両方とも完形で正平 11（1356）年の紀年があります。銘文からそれぞれ尼覚澄、沙弥浄覚の生前供養、いわゆる逆修塔であることがわかります。



長寿庵五輪塔

表宝篋印塔（三）

大野町中土師　昭和49年3月19日指定

河面地区の墓地にある 3 基の宝篋印塔で、相輪上部を欠損しています。うち一基は貞和 2(1346) 年銘、もう一基には建徳 2（1371）年の銘があります。残る 1 基には銘はないものの建徳年銘の塔と同形式同手法で作られており、夫婦の逆修塔とも考えられています。

表五輪塔（二）

大野町中土師　昭和49年3月19日指定

大野町河面地区の山中に多く所在する五輪塔群です。最大のものは総高 139cm にもなります。そのうちの完形の 2 基に正平 23（1368）年の同じ月日の銘をもつことから、2 基同時に造立されたものと考えられます。

三徳石幢

大野町夏足　昭和49年3月19日指定

津留区公民館裏の山頂に所在する、総高 230cm、平面観方形の石幢です。享禄 3（1530）年の逆修塔で、六地蔵と十王 1 体（閻魔大王？）を龕部（がんぶ）に刻み、幢身の各面上部に月輪と金剛界四仏の種子が彫られています。

上津（あげつ）神社一ノ鳥居

大野町片島　昭和52年3月31日指定

上津神社裏山の旧境内への登山道に所在する鳥居です。額束に寛正 3（1462）年の銘があり、全体的に丈が低くて材が太く、笠木・島木とも反りがなく古式を呈しています。

平尾社鳥居

千歳町新殿　昭和33年3月25日指定

横尾地区の通称原にある平尾社の鳥居で、本殿から約 1km ほど離れた位置にあります。八角の柱を持つ珍しいもので、観応 2（1351）年造立以後、これまで 4 回の修理記録が柱に刻まれています。柱など順次取り替えられながら当初の形を守っているとみられています。



平尾社鳥居

石造五輪塔（二）

千歳町新殿　昭和45年3月31日指定

新殿楢木野の大乗寺跡に五輪塔 2 基が並んでいます。向かって左側の塔は「阿闍梨澄円」の門弟たちによる逆修塔で貞和 3（1347）年銘があります。向かって右側の塔は、玄悳(徳) の墓碑とみられ延文 6(1361) 年の銘があります。

石造宝塔（平尾社宝塔）

千歳町新殿　昭和33年3月25日指定

新殿にある平尾社境内にある宝塔で、相輪上部端を欠失しています。塔身の銘文により暦応3(1340)年、法華経の経典2部を奉納したことが記されています。

柴山石幢

千歳町柴山　昭和49年3月19日指定

柴山の宅地内に所在する天文2（1533）年造立の石幢で、総高は217cmです。四角柱の幢身に中台をのせ4面に2体ずつ配した六地蔵の龕部に肉厚で円形の笠をのせています。銘文には「海部郡柴山村」の文字が見え、当時この地域が海部郡に属していたことがうかがえる貴重な資料でもあります。

高添石幢

千歳町長峰　昭和49年3月19日指定

高添地区の共有林に所在し、総高210cm、永禄4（1561）年の銘を持つ石幢です。四角柱の幢身に中台をのせ4面に2体ずつ配した六地蔵の龕部に肉厚で円形の笠をのせています。逆修塔であり「道明禅門」「妙西信女」の供養のために造立されました。

新飼宝塔（二）

犬飼町黒松　昭和50年3月28日指定

犬飼町黒松にある宝塔2基で、総高は235cmで共にほぼ同じ形式です。貞治6（1367）年逆修のために造立された銘があり、大きい方は「仏子・正善」小さな方は「比丘尼・仁正」が願主となっており、夫婦で供養のために建立されたと考えられています。

大聖寺宝篋印塔

犬飼町柴北　昭和50年3月28日指定

大聖寺境内にある総高262cmの宝篋印塔です。貞治5（1366）年の紀年銘を持ち、非常に均整の取れた塔で、その作風の特徴は当時豊後大野一帯で活躍した石工「玄正」の作と推定されています。



大聖寺宝篋印塔

宮脇宝塔

犬飼町黒松　昭和52年3月31日指定

黒松区阿蘇神社に隣接して所在する、総高253cmの宝塔です。壺形の塔身には納経のための小孔が穿たれています。江戸時代の書物「豊後国志」では大友親綱の墓と紹介されていますが、親綱の没年より百年以上古い貞和4（1348）年銘のため、疑問が持たれています。

藤ノ木石幢

犬飼町高津原　昭和58年4月12日指定

高津原区墓地に所在する総高210cmの石幢です。幢身は面取りした角柱で、やや小ぶりな円形の龕部には六地蔵と十王2体が彫られ、大きな笠をのせています。笠は2段の軒口に垂木を施し、笠裏には応永12（1405）年の墨書銘があります。

(4)大分県指定有形文化財:美術工芸品

絹本彩色弘法大師画像

三重町内山　昭和52年3月31日指定

蓮城寺に所蔵されている絵画で、右手に五鈷杵を持ち、左手を膝上において念珠を爪繰り、牀座に坐するなど典型的な真如親王筆様の図像で、日本仏画の伝統的な技法による彩色法が認められます。表現に形式化があるものの保存状態はよく、14世紀後半の製作と考えられています。

木造阿弥陀如来坐像

三重町赤嶺　昭和33年3月25日指定

市辺田八幡社境内の阿弥陀堂に安置されており、像高 261cm の巨像です。樟材を使用した寄木造で、頭部と体部の根幹部は鎌倉時代末期頃の製作と推定されていますが、両肩先から膝前部にかけては近世の後補と思われます。神仏混合で同境内にあった神宮寺より移転されたと伝えられています。

木造大威徳明王像

三重町松尾　昭和33年3月25日指定

吉祥寺に安置されており、像高は 91cm で、桧材の寄木造りで内刳りを施します。六面六臂六足の多臂像で、正面を向いた臥牛の上にまたがります。牛の胎内銘により鎌倉時代の弘安 7（1284）年大仏師覚昭の作で、三重郷地頭（安達泰盛）や広福寺院主及び同遍照を願主としていることが分かります。三重郷地頭及び仏法の興隆祈願、さらに元寇の脅威に対する戦勝祈願のため奉納されたと推定されます。

吉祥寺木造不動明王立像

三重町松尾　平成元年3月30日指定

吉祥寺に安置されており、像高は 117.0cm、桧材の寄木造りです。眼は彫眼で、像容は鎌倉時代後期の作風を残しています。その像容は不動明王像の定型に則ったもので、中央仏師の手による作と見られます。鎌倉時代後期の 13 世紀後半頃の、大威徳明王像と同一の作者による製作とみられています。

蓮城寺木造薬師如来三尊像

三重町内山　平成6年3月25日指定

蓮城寺薬師堂の中央に主尊の薬師如来坐像及び脇侍の日光・月光両菩薩坐像が安置されています。像高は主尊が 164.7cm、右側の日光菩薩が 145cm、左側の月光菩薩が 146cm でいずれも桧材寄木造の漆箔像です。主尊の彫眼に対し、両脇侍は玉眼嵌入です。像容から三尊とも鎌倉時代の作と推定されていますが、須弥壇・台座は後補で、主尊の光背も後補です。



蓮城寺木造薬師如来三尊像

中尾区木造如来形立像

三重町久田　平成6年3月25日指定

中尾区釈迦堂と呼ばれる小堂にあり、像高 165.5cm、彫眼彩色像で檜材の一木造りです。作風より平安時代後期の作とみられ、木彫仏では市内でも最古級に属すものです。左手に薬壷を持っているため薬師如来像といわれてましたが、明治時代に修理された際の後補と考えられ、本来は釈迦如来像とみられます。その他両足先、光背等も後補です。以前は旧大楽寺の本尊であり、江戸時代に現大分市植田へ大楽寺移転の際現在地に安置されたと伝えられています。

蓮城寺千体薬師像

三重町内山　平成8年3月29日指定

蓮城寺薬師堂の薬師三尊像の両脇に並んで安置されています。総数は 1008 体と伝えられますが、実際は 998 体で、総高は約 80cm、像高は約 65cm とすべて同様の法量で統一されています。大部分は桧材ですが、他に樟・カヤ・キリ材もみられます。技法について多くは寄木造りですが、その作風にも違いがみられるため、複数の仏師集団による制作と考えられます。室町時代の作と推定され、経緯や作者については不明ですが、同様のものは全国的に例がなく貴重な作品といえます。

大渡石造地蔵菩薩像

緒方町越生　昭和50年3月28日指定

像高 66cm で凝灰岩角柱の正面に地蔵菩薩像が彫られていますが、上半身はやや肉厚にあらわし、下半身は線刻で刻むなど技法に変化を持たせています。銘文により永享 2（1430）年に願主道恵により作られたことがわかります。裏面にも線画が施され、地元では両面地蔵と呼ばれています。

木造如来形坐像

緒方町軸丸（元）　昭和52年3月31日指定

緒方町軸丸南の熊野社に安置されていた丈六の木造仏で、印相を欠失しているためその尊名は不明です。頭部から体幹部にかけて樟一材で彫成され、背面に内刳りを施し、立体感のある造りは古式の様相を有しており、平安後期の作と推定される優品です。現在は、保存のため豊後大野市資料館内に安置されています。

木造不動明王坐像残欠

緒方町軸丸（元）　昭和52年3月31日指定

緒方町軸丸南の熊野社に安置されていた丈六の不動明王像です。瞋目、半眼の天地眼で唇をかみ上下牙を現します。頭部から体幹部にかけて桧一材で彫成され、躰部に内刳りを施します。両手両足を欠失していますがまれに見る巨像で、平安後期作と推定される優品です。現在は、保存のため豊後大野市資料館内に安置されています。

伊丹家刀

個人蔵　　昭和58年4月12日指定

長さ 69.6cm、反り 1.2cm で、江戸時代初期の延宝 7（1679）年 2 月、大分市の高田付近の刀工藤原行房による作の豊後刀です。

伊丹家刀

個人蔵　平成2年3月29日指定

長さ 70.4cm、反り 2.5cm で、江戸時代の貞享 2（1685）年 8 月に藤原忠行による作です。大分市の古国府付近の刀工で、豊後刀の特徴を備えた優品です。

太刀（豊州甲斐本藤原行久）

個人蔵　平成13年4月13日指定

長さ 129.8cm、銘文により安土桃山時代の天正 13（1585）年 8 月に、三重町中尾に居住した甲斐（賀井）本鍛冶の藤原行久の作であることが分かります。中世の甲斐本鍛冶は戦国大名大友氏の御用鍛冶であり、当時島津氏との抗争における緊張下の元で製作された奉納刀と推定されています。

薙刀（平鎮教）

個人蔵　平成15年3月31日指定

長さ 59.4cm の薙刀で、平高田の作風です。大友宗麟公の娘が嫁入りの際に持ち込まれたものと伝えられています。作者は銘から「平鎮教」と判断でき、室町時代後期の作と推定されています。

薙刀（豊後国大野住人藤原行家）

個人蔵　平成15年3月31日指定

長さ 66.7cm で、三重町中尾の地に居住した甲斐本鍛冶の藤原行家による、江戸時代初期の寛永 2（1625）年の作です。行家は藤原行久の子で、行長の弟といわれています。

経筒

緒方町上自在（元）　昭和42年3月31日指定

平安時代後期の永久 3（1115）年、願主が経典を埋納する容器として使われた経筒で、総高 38.5cm です。宝暦 8（1758）年に三宮社付近で経筒出土の報告を受けた岡藩八代藩主中川久貞公は、「父母孝養」の銘文に感激し、三宮社境内に記念碑を建立しました。現在は、保存のため豊後大野市資料館内で保管されています。



経筒

経筒 附天蓋

緒方町大化（元）　昭和42年3月31日指定

天明 2（1782）年に大行事八幡社から発見された

経筒です。銘より平安時代後期の大治元（1126）年製と考えられます。願主が経典を埋納するために使われた容器で、総高は 27cm です。別個体の同形の天蓋のみのものが一つなど、大行事八幡社には三個体分の経筒があります。現在は、保存のため豊後大野市資料館内で保管されています。

鰐口（加賀知鰐口）

個人蔵　昭和48年3月20日指定

鰐口（わにぐち）とは神社や寺院の堂前、軒下に下げ太い紐で打ち鳴らす仏具で、この鰐口は面径 20cm で青銅製です。銘文から、文安 6（1449）年に住江村地蔵堂に奉納された後、天文 15（1546）年に円通寺に移されたことが記されています。

羽田家鰐口

個人蔵　昭和52年3月31日指定

面径 17.4cm 青銅製の鰐口（わにぐち）です。銘文には、永正 17（1520）年に願主□藤太郎が「天長地久・諸世安穏・後生善処・皆合満足・子孫繁栄」のため奉納したことが記されています。

神角寺懸仏（四）

朝地町鳥田　昭和49年3月19日指定

神角寺本堂内に掛けられている 4 面の懸仏（かけぼとけ）です。径 40cm を計り、中央に千手観音、左右の花瓶と、尊の頭上に天蓋（てんがい）・瓔珞（ようらく）がついています。室町時代前期の作とされています。

上津神社鰐口

大野町　昭和52年3月31日指定

永禄 12（1569）年在銘の鰐口（わにぐち）です。奉納者として記されている「戸次道雪（べっきどうせつ）」は大友宗麟の重臣として知られる名将です。当時大野は戸次氏の本地でもあり、上津神社は大野荘の鎮守でもあった由緒を持つことから、歴史的価値の高い鰐口です。

大迫磨崖大日如来坐像（大迫磨崖仏）

千歳町長峰　昭和51年3月30日指定

大迫区の県道（旧国道 57 号線）沿いの壁面に彫り込まれた磨崖仏です。最大の特徴は、岩肌を彫り込んだ大まかな像の上に、麻などの繊維を混ぜた粘土を塗って表面を仕上げる石胎塑像（せきたいそぞう）とも称される技法で造り出されています。像高は 3.3m で、鎌倉時代後期の作と推定されています。



大迫磨崖大日如来坐像

木造阿弥陀如来坐像

犬飼町柴北　昭和63年3月15日指定

柴北の大聖寺の本尊でもある木造の阿弥陀如来坐像です。像高は 87cm で、頭部と体幹部を桧の一材で彫り出され、おだやかな面相と整美な着衣は平安後期の特色が現れています。

（5）大分県指定有形民俗文化財

辻河原石風呂

緒方町辻　昭和41年3月22日指定

緒方川左岸の岩壁に刳貫いて造られた、浴室と火室の二段式構造の石風呂です。安置された宝塔 2 基から 16 世紀後半に作られたと推定されます。石風呂右上には梵字（ぼんじ）の彫刻があり、仏教との関連が濃厚な施設です。地元では、石風呂を「塩石（えんせき）」と呼んでいます。



辻河原石風呂

市穴石風呂

緒方町原尻　昭和41年3月22日指定

緒方川右岸、原尻の滝の約 200m ほど下流にある石風呂で、浴室と火室の二段式構造です。明治初期まで使用されたと伝えられています。

中ノ原石風呂

緒方町井上　昭和42年3月31日指定

井上区の宅地裏山に造られた石風呂で、他の石風呂と蒸し方に違いがあることが特徴です。室内左手に水溜用の掘り込みがあり、右側奥にかまどが設置されていて、蒸気を発するときはかまどで焼いた石を水溜に投げ込んで蒸気を出したといわれています。

上戸石風呂

緒方町原尻　昭和49年3月19日指定

原尻の滝より上流右岸の川岸岩盤を刳貫いて造られた石風呂です。浴室と火室の二段式構造であるが、火室は狭くまっすぐに伸び、左右に 4 本づつの火道があります。明治期に造られた石風呂とされています。

庚申塔

千歳町前田　昭和46年3月25日指定

千歳町前田にある巨大な庚申塔です。総高 255cm で慶長 8（1603）年当地の武士広瀬九郎兵衛によって武運長久・子孫繁栄のために造立されています。中世庚申信仰を知る上で貴重な資料です。

（6）大分県指定無形民俗文化財

浅草流松尾神楽

三重町松尾　昭和52年3月31日指定

松尾区城山神社に奉納される浅草流神楽です。江戸時代後期頃に浅草八幡社より伝えられたもので 33 番の舞楽を伝えています。勇壮かつ活発な浅草流の特色を良く伝える神楽座で、近年は子ども神楽を結成し、その活動は後進の育成だけでなく、地域の活性化、青少年の健全育成にも貢献しています。

上田原湯立神楽

三重町上田原　昭和63年3月15日指定

御手洗神社の霜月祭で 3 年に 1 度奉納されています。この湯立神楽は宮流臼杵神楽の流れを組むとされ、臼杵領の神主から伝授されたと伝わっています。寒風吹きすさぶ中に立ち上る蒸気と、荒神が乱舞して炭火やお湯が飛び散る姿は幻想的で、荒々しく勇壮な行事でもあります。

緒方神楽

緒方町軸丸　昭和41年3月22日指定

御嶽流の流れをくむ神楽で、緒方一宮、二宮、三宮に所属する神楽です。もともと、緒方軸丸神楽が中心となった神楽座で、勇壮で激しく、御嶽流神楽の中でもひときわ重厚感のある舞を信条としています。全演目 33 番を伝え、今も大野系岩戸神楽らしい迫力で人気を博しています。

奥嶽流上畑獅子舞

緒方町上畑　昭和52年3月31日指定

市内でただ 1 つの奥嶽流を継承する獅子舞です。応永 8（1401）年に祖母嶽大明神を上畑に勧請した際、当地に伝わっていた銭太鼓神楽に改良を加えて創始されたと伝わるものです。その所作は、御嶽流獅子舞で見られる頭を左右に振る動きではなく、上下に突くような動きが特徴で、比較的ゆったりとしたリズムで舞います。しかし、最も特筆すべきは、大人が団扇取り（口取り）を勤めるところにあり、獅子をあやすというよりも「獅子使い」といった印象を受けます。

深山神楽

朝地町市万田　昭和41年3月22日指定

大野系 3 流派のうち、深山流岩戸神楽を継承する神楽です。深山流神楽には、板井迫神明社神楽座と朝地神楽保存会の 2 つの団体があり、それぞれに継承活動を続けています。深山流神楽は朝地町深山八幡社において発祥したといわれる神楽ですが、36 番という大野系でも最多の演目数を有し、その歴史的背景には謎の部分も多くあります。

犬山神楽

大野町片島　昭和41年3月22日指定

大野町上津(あげつ)神社発祥の上津流岩戸神楽です。文久3（1863）年の記録では 15 番の演目がありましたが現在は 33 番です。一時断絶しましたが地元青年により復活し、平成 16（2004）年から浅草・犬山神楽として古の舞を今に伝えています。

奥畑神楽

三重町奥畑　　平成30年2月6日指定

御嶽神社(清川町）より伝承された御嶽流神楽です。かつては御嶽神社に奉納されていましたが、現在は区の氏神である熊野神社に毎年秋の大祭と元日に奉納しています。

（7）大分県指定史跡

道ノ上古墳

三重町赤嶺　昭和47年3月21日指定

下赤嶺下区の台地先端上に所在する前方後円墳で、全長約 70 mと県南で最大規模を誇ります。後円部頂上に社殿跡や県指定有形文化財の石造五輪塔がありますが、主体部は不明です。確認調査の結果、墳丘は葺石(ふきいし)に覆われ、円筒埴輪や壺形(つぼがた)埴輪が出土しています。築造年代は古墳時代中期初頭と推定されています。



道ノ上古墳(画像中央付近)

大塚古墳

三重町小坂　昭和47年3月21日指定

上小坂区公民館裏の台地上に所在する前方後円墳です。全長約 42.3 mで、後円部に比べ前方部が低く短い柄鏡型です。確認調査で墳丘上には葺石があり、周溝が墳丘に沿って設けられています。東側に接する小型の塚や、後円部頂上の石塔類は後世のもので、主体部については伝承はなく遺物も知られていません。古墳時代前期後半の築造と推定されています。

重政古墳

三重町内田　昭和48年3月20日指定

三重中学校敷地内の通称重政原と呼ばれる台地に所在する前方後円墳です。全長は本来は約 53 m程と考えられます。発掘調査で墳丘上には角礫に近い川原石の葺石に覆われ、二段築成の構造であることが確認されています。主体部については不明ですが、出土した壺形埴輪により築造年代は古墳時代中期初頭と推定されています。

立野(たての)古墳

三重町上田原　平成4年3月27日指定

上田原立野地区に所在する前方後円墳で、全長約 65 mの市内二番目の規模です。墳丘南側を削平で失われていますが、北側は保存はよく、馬蹄形の周溝(しゅうこう)及び前方部西側の陸橋部が確認できます。後円部墳頂部に盗掘跡らしい窪みがありますが、主体部は不明です。墳丘より壺形埴輪や円筒埴輪等が出土しており、古墳時代前期後半の築造と推定されています。

秋葉鬼塚古墳

三重町秋葉　平成6年3月25日

鬼塚区の通称竜王山と呼ばれる台地上に所在する前方後円墳です。前方部及び後円部ともに削平がありますが、全長は本来 52.4 m程度の規模であったと考えられます。確認調査により墳丘上には葺石が数多くみられ、周囲には周溝が確認されています。出土遺物として壺形埴輪があり、中期初頭頃の築造と推定されています。主体部については不明です。

竜ヶ鼻古墳

三重町赤嶺　平成14年3月29日指定

大原台地の南西端上のつつじ公園の隣に位置する前方後円墳です。墳形はかなり改変されていますが、全長約 36.5 mを測ります。後円部頂上に盗掘跡と思われる窪みがありますが、主体部についての伝承はありません。遺物として円筒埴輪が出土しており、古墳時代中期後半頃の築造年代が推定されています。また、南側崖下には古墳時代後期の横穴墓群もあり、古墳時代の墓域として重要な遺跡です。

普光寺磨崖仏

朝地町上尾塚　昭和32年3月26日指定

普光寺は鎌倉時代前期に筑紫尾寺として創建されており、その当時の造顕と推定されます。磨崖仏は巨壁面に刻まれた不動三尊仏で、主尊である不動明王像は像高 11 mあまりで、その規模は県下最大級を誇ります。その右に矜羯羅童子（こんがらどうじ）、左に制多迦童子（せいたかどうじ）を配置しています。

蝙蝠滝舟路跡（こうもりたきしゅうろあと）

朝地町上尾塚　平成9年3月25日指定

明治 5（1872）年に大野川を浚渫（しゅんせつ）し、竹田・犬飼間を結ぶ舟路開削工事が開始され、高低差が約 10 mもある難所であった蝙蝠の滝を迂回する舟路として同 8（1875）年に竣工しました。岩盤を幅 3 m程の水路状に掘削し、下流側は石垣を組み木樋を設けて舟を滑り下らせる特殊な構造であったといわれます。

井上主水左衛門並古・並増墓所（いのうえもんどざえもんなみふる　なみますぼしょ）

朝地町朝地　平成24年3月13日指定

近地区の竹田市境近くの山中に建立された墓所で、石垣上に井上並古（有淵）・並増親子の儒式（じゅしき）墓二基とその間に亀趺（きふ）碑一基、周囲には灯篭群があります。被葬者の井上並古は岡藩主中川久貞に家老として仕え、儒教に則り篤実な政務に功績があった人物で、墓石は久貞と同じ形式です。亀趺碑には表、裏に並古の業績をたたえる顕彰文が刻み込まれ、表は唐世齋（からせさい）（唐橋君山（からはしくんざん））、裏面は石上嵩振（いそのうえたかふる）（牧嵩振（まきたかふる））による選文と記されています。文政 8（1825）年に、父と同じく一代家老となった並増により造営されています。



井上主水左衛門並古・並増墓所

坊ノ原古墳

大野町桑原　昭和51年3月30日指定

桑原区羽部の山頂にある前方後円墳です。通称「ひょうたん塚」と呼ばれ、前方部が細く低い墳形で全長は 46.3 mを測ります。主体部は盗掘跡があり、前方部にある石材は主体部の箱式石棺材の一部とみられます。確認調査で周溝が確認されており、出土した土器などから古墳時代前期後半の築造と考えられます。

五輪塔群

犬飼町田原　昭和42年3月31日指定

犬飼石仏の周辺にある五輪塔群です。石仏の向かって右側の 16 の小龕（しょうがん）を穿った中に、高さ 30cm 前後の一石五輪塔が安置されています。石仏と同じく鎌倉時代の作と考えられます。また、石仏の左側には多くの石塔群があり、なかでも吉弘一曇の菩提を弔うために造立された永徳 2（1382）年在銘の五輪塔は、完形を保ち保存状態も良好です。

（8）大分県指定天然記念物

御手洗神社のナギ

三重町上田原　昭和47年3月21日指定

御手洗神社の鳥居前に神木として植栽されている巨樹です。樹高は約 12m で、株は主幹を中心とする幹の群と北東側にやや離れて斜上 3 本の支幹が集

まって大きな株にまとまっています。幹の内部には空洞があり、胸高幹囲は全幹まとめて 7.8m、主幹群のみで 5.8m です。支幹の幹囲も 1.23m ～ 1.65m あり、県内最大のナギといわれ、雌株で秋には結実します。

穴権現社叢（あなごんげんしゃそう）

三重町大白谷　昭和47年3月21日指定

三重町白谷区白山神社奥の穴権現社は、黒岳の急斜面にあり、周囲は自然林に覆われています。岩角地にはユズ・カヤ・クスドイゲ・ナンテン・オオクサボタン等を伴う石灰岩地特有のアラカシ林があります。また、谷の堆積斜面には、高・亜高木層にイヌマキ・ヤブツバキ・カゴノキなど、低木層にアオキ・イヌガヤ・コショウノキなどがあり、草本層はヒメカナワラビ・イノモトソウ等で構成されています。

鹿毛のスダジイ原生林

三重町中津留　昭和48年3月20日指定

中津留区鹿毛の愛宕社の社叢で、スダジイを主体とした自然林です。高木層はスダジイが優占種で、亜高木層はヤブツバキ・カゴノキ・イスノキなどがあります。低木層はネズミモチ・ヒサカキなどの一層とヤブコウジの二層に分かれ、草本層はナガバジャノヒゲがあります。内陸部に少ないスダジイ林として貴重な自然林です。

内田神社のイチイガシ

三重町内田　昭和53年3月31日指定

内田区内田神社の境内にある神木のイチイガシの巨樹です。樹齢は推定 800 年、胸高幹囲 5.2m、樹高約 30m、樹形は整っておりブナ科の常緑樹であるイチイガシの特性を発揮しています。南側の株元に口径 90cm 程の空洞がありますが樹盛は旺盛です。

御嶽の原生林

清川町宇田枝　昭和37年2月27日指定

御嶽山の山麓にある原生林です。ウラジロガシ＝サカキ群集やアカガシ＝ミヤマキリシマ群集など、学術的にも貴重な山林が残されています。

健男社のスギと自然林

緒方町上畑　昭和52年3月31日指定

健男社は緒方町上畑の標高 450m の山麓に位置します。参道には杉の巨木が並木をつくり、神殿の背後地にはモミの巨木を優占種とする自然林が残されています。近年林業開発により消滅が進むモミ林の貴重な残存林として学術的価値の高い林です。



健男社の杉並木

奥祖母のオオダイガハラサンショウウオ

市内祖母・傾山　昭和33年3月25日指定

有尾両生類のサンショウウオ科に属し、山地の渓流にすみ、大分・宮崎・熊本各県の祖母傾山系に生息します。体長は 15 ～ 18cm で背面は灰黒色で紋はなく腹面は赤紫色です。近年、ソボサンショウウオとして新種認定されています。

矢形神社の境内林

大野町安藤　昭和49年3月19日指定

大野町安藤地区にある矢形神社境内にウラジロガシとイチイガシをそれぞれ優占種とする林が残されています。ウラジロガシは巨樹が 1 本であるが林冠を覆い、高木層から草木層の優占種ウラジロガシ - カゴノキ - クロキ - ヤブコウジ - シャガで代表される林分があります。またイチイガシ林はイチイガシ - タブノキ - クロキ - ヤブコウジ - シャガで代表される林分であり常緑広葉樹林として貴重です。

(9) 大分県選択無形民俗文化財

緒方町の千盆搗

緒方町下自在　昭和51年3月30日選択

千盆搗とは、溜池の新築・改修時に行う地固めや

井路の漏水箇所に赤土を塗り込む際の作業が芸能化したものです。作業を指揮する「木遣(きや)り」は作業工程ごとに違う「木遣り唄」を唄い、その調子に合わせて「搗手(つきて)」「盛手(もりて)」が作業を行っていきます。作業は細かく区分されており土を踏んだり練ったりといった重労働をこなします。この芸能は土木工事がまだ人力によっていたころの習俗を伝える歴史的にも貴重な芸能です。

柴山八幡社のひょうたん祭

千歳村柴山　昭和37年2月27日選択

千歳町柴山八幡社で12月に行われる霜月祭(しもつきさい)で、その神幸行列に立つ祭です。その主役であるひょうたん様は、緋色の装束をまとって、長さ1mを超す大わらじを履き、頭には60cmの長ひょうたんをかぶるという出で立ちであらわれます。腰に下げたひょうたんから無病息災となる御神酒を振る舞いながら参道をねり歩く姿から天下の奇祭と呼ばれています。



参道をねり歩くひょうたん様

(10)豊後大野市指定有形文化財:建造物

名　称	所在地	備　考
輪蔵	三重町内山	18世紀再建
吉祥寺薬師堂	三重町松尾	江戸後期再建
石造宝塔(下赤嶺宝塔)	三重町赤嶺	康永4(1345)年
石造多層塔	三重町赤嶺	文永11(1274)年
円福寺石幢	三重町上田原	明応3(1494)年
白泉寺石幢	三重町中津留	永正12(1515)年
石造宝篋印塔	三重町大白谷	延徳4(1492)年
川辺石幢	三重町川辺	室町時代
正福寺宝篋印塔	三重町上田原	室町時代
宮山石幢	三重町百枝	元亀3(1572)年
瀬戸谷宝塔	三重町松尾	応安6(1373)年
植松石幢	三重町久田	永禄13(1570)年
大楽寺宝塔	三重町久田	室町時代
代多層塔	三重町奥畑	室町時代
西岸寺石幢	三重町久田	南北朝時代
妙照院宝篋印塔	三重町赤嶺	永禄10(1567)年
浄運寺一石五輪塔	三重町内田	室町時代
中小坂石幢	三重町小坂	室町時代
並石石幢	三重町鷲谷	永正14(1517)年
脇清水石幢	三重町宮野	室町時代
正福寺天文宝篋印塔	三重町上田原	室町時代
辻宝塔	三重町向野	室町時代
五重塔	三重町内山	室町時代
中小坂無縫塔	三重町小坂	室町時代
慈雲庵石幢2号	三重町秋葉	室町時代
平野石幢1号	三重町秋葉	室町時代
平野石幢2号	三重町秋葉	室町時代
下赤嶺石幢	三重町赤嶺	永正10(1513)年
慈現庵石幢	三重町小坂	室町時代
森迫石幢	三重町井迫	天正9(1581)年
大無礼板碑	三重町伏野	大永8(1528)年
荒谷石幢	三重町奥畑	室町時代
黒木石幢	三重町上田原	室町時代
久部層塔	三重町大白谷	室町時代
間所石幢	三重町井迫	室町時代
地蔵原石幢	三重町小田	永禄9(1566)年
千人塚宝塔	三重町小田	南北朝時代
平野石幢	三重町伏野	室町時代
萩田家宝篋印塔	清川町宇田枝	室町時代

名　称	所在地	備　考
萩田家五輪塔	清川町宇田枝	室町時代
野仲家石幢	清川町左右知	永正6(1509)年
ロン地石幢	清川町左右知	室町時代
宮津留石幢	清川町六種	室町時代
宇田枝石幢	清川町宇田枝	室町時代
後藤家板碑	清川町臼尾	宝永2(1705)年
中の原石幢	清川町三玉	室町時代
下田家五輪塔	清川町左右知	永禄年間
宝生寺石幢	清川町宇田枝	室町時代
宝生寺石塔	清川町宇田枝	元徳2(1330)年他
普門寺山門	清川町六種	江戸時代中期
内平石塔群	清川町伏野	室町時代他
深谷橋	清川町左右知	江戸時代末期
天然橋	清川町宇田枝	大正10(1921)年
岩上橋	清川町宇田枝	大正8(1919)年
内平宝篋印塔群	清川町伏野	永正16(1519)年
長古の墓	清川町宇田枝	文化11(1814)年
八方鳥居	清川町三玉他	文政2(1819)年他
城山石幢	緒方町越生	元亀2(1571)年
大化宝篋印塔	緒方町大化	文和2(1353)年
井上宝篋印塔	緒方町井上	天文4(1535)年
小野五輪塔	緒方町鮒川	南北朝時代
大化五輪塔	緒方町大化	南北朝時代
明王寺宝篋印塔	緒方町栗生	永享7(1435)年
堂内宝塔	緒方町小原	永享9(1437)年
小野崎板碑	緒方町越生	元亀2(1571)年
馬背畑宝篋印塔	緒方町馬背畑	室町時代
馬背畑宝塔	緒方町馬背畑	文保2(1318)年
上畑地蔵尊	緒方町上畑	明応5(1496)年
草深野薬師道標	緒方町草深野	文政5(1822)年
小宛古畑一里塚	緒方町小宛	江戸時代
野仲二里塚	緒方町鮒川	江戸時代
天神三里塚	緒方町天神	江戸時代
久土知二里塚	緒方町久土知	江戸時代
寺原楠ノ木一里塚	緒方町寺原	江戸時代
木野道標	緒方町木野	江戸時代
岳川板碑	朝地町綿田	正慶元(1332)年
御廟様石幢	朝地町池田	室町時代
小野五輪塔	朝地町上尾塚	文明8(1476)年
堂本石幢	朝地町梨小	天文18(1549)年
サヤノ木宝塔	朝地町池田	応永21(1414)年
サヤノ木宝篋印塔	朝地町池田	応永21(1414)年

名　称	所在地	備　考
池在石橋	朝地町池田	大正13(1924)年
豊前坊石造物	朝地町下野	宝暦5(1755)年
瀬口板碑	朝地町池田	延徳2(1490)年
姫塚板碑	朝地町志賀	永正9(1512)年
方碑	朝地町坪泉	大永5(1525)年
西蓮寺宝塔塔身	朝地町朝地	大永7(1527)年
池田石橋	朝地町池田	大正12(1923)年
平井庚申板碑	朝地町下野	天正6(1578)年
千字クルス	朝地町市万田	江戸時代
道祖神現社殿	朝地町宮生	昭和4(1929)年改修
道祖神鳥居	朝地町宮生	明治12(1879)年
普光寺護摩堂	朝地町上尾塚	享保9(1724年)
妙見橋	朝地町朝地	明治37(1904)年
大恩寺五輪塔台座	朝地町板井迫	応永13(1406)年
城久保石幢	朝地町栗林	天文18(1549)年
平良平宝篋印塔	朝地町栗林	永禄3(1560)年
一万田氏墓碑・供養碑	朝地町池田	室町時代
朝地橋	朝地町朝地・坪泉	大正12(1923)年
市万田橋	朝地町市万田	大正14(1925)年
樋口宝篋印塔・石仏塔群	朝地町下野	至徳4(1387)年
中渡橋	朝地町下野	平成12(2000)年移設
門の板碑	大野町夏足	天文3(1534)年
塚ノ元板碑	大野町北園	天文7(1538)年
東平宝篋印塔	大野町小倉木	永和2(1376)年
妙見宝篋印塔	大野町矢田	正平23(1368)年
荻迫石幢	大野町夏足	室町時代
第一古殿橋	大野町北園	文化14(1817)年
宮田の笠塔婆	千歳町柴山	天文9(1540)年
鹿合田の角笠塔婆	千歳町柴山	天文3(1534)年
米山の笠塔婆	千歳町船田	永禄3(1560)年
石五道の板碑	千歳町長峰	貞和5(1349)年
石五道の石幢	千歳町長峰	大永6(1526)年
岡の笠塔婆	千歳町新殿	永禄4(1561)年
楠の宝塔	千歳町石田	室町時代
杉ノ本の宝塔	千歳町柴山	南北朝時代
福生寺薬師堂境内宝篋印塔	千歳町前田	正平18(1363)年
大乗寺境内宝篋印塔	千歳町新殿	至徳2(1385)年
長慶寺跡八仏笠地蔵	千歳町長峰	長禄4(1460)年
五郎丸の板碑	千歳町石田	明応2(1493)年
上津留の石幢	千歳町下山	室町時代

名　称	所在地	備　考
漆生の笠塔婆	千歳町下山	永禄4(1561)年
日向久保の宝篋印塔	千歳町柴山	永徳2(1382)年
峯の笠塔婆	千歳町柴山	永禄6(1563)年
藤原の板碑	千歳町柴山	永正9(1512)年
上ノ久保の石幢	千歳町船田	弘治3(1557)年
高添上の板碑	千歳町長峰	天文8(1539)年
久保山の宝篋印塔	千歳町石田	南北朝時代
大木の宝塔	千歳町下山	永禄5(1562)年
下ノ原の道標	千歳町長峰	江戸時代
妙覚寺山門	千歳町柴山	江戸時代
九品寺跡石幢及び五輪塔群	犬飼町栗ヶ畑	文安2(1445)年
黒松宝篋印塔	犬飼町黒松	南北朝時代
高津原石幢	犬飼町高津原	天文18(1549)年
親綱宝篋印塔	犬飼町柴北	長禄3(1459)年
大聖寺五輪塔	犬飼町柴北	南北朝時代
愛宕石幢	犬飼町柴北	永禄4(1561)年
六ツ子庵石幢	犬飼町柴北	室町時代
石井宝篋印塔	犬飼町田原	康暦3(1381)年
上重宝篋印塔	犬飼町田原	室町時代
下野熊埜社鳥居	犬飼町下津尾	天文7(1538)
下野宝篋印塔(上)	犬飼町下津尾	室町時代
下野宝篋印塔(下)	犬飼町下津尾	室町時代
千世橋	犬飼町下津尾	明治12(1879)年
佐土原石幢	犬飼町大寒	天正4(1576)年
武藤家長屋門	犬飼町長畑	江戸時代後期
虎御前宝篋印塔	犬飼町高津原	文和3(1354)年
神宿橋	犬飼町柴北	大正10(1921)年
黒松阿蘇社鳥居	犬飼町黒松	南北朝時代
千束石幢	犬飼町黒松	室町時代
釈迦堂宝篋印塔	犬飼町田原	室町時代
両村橋	犬飼町柴北	昭和14(1939)年
田原十一面観音像	犬飼町田原	弘化3(1846)年
大聖寺五輪塔群	犬飼町柴北	正中2(1325)年

(11)豊後大野市指定有形文化財:美術工芸品

名　称	所在地	備　考
絹本彩色 菅原道真像	三重町井迫	江戸時代初期
正龍寺 方便法身尊像	三重町市場	永正4(1507)年
長古絵図	清川町宇田枝	弘化2(1845)年
岡藩絵図	緒方町鮒川	江戸時代
五月のぼり	緒方町柚木	明治5(1872)年
犬飼港図	三重町内田	江戸時代末期
木造駒犬	三重町赤嶺	鎌倉時代?
蓮城寺千手観音像	三重町内山	鎌倉時代?
木造阿弥陀如来像	三重町市場	鎌倉時代?
金剛力士像	三重町内山	江戸時代初期
木造金剛力士像	三重町松尾	鎌倉時代
中津無礼 聖観音立像	三重町伏野	室町時代
大無礼 延命地蔵菩薩坐像	三重町伏野	室町時代
吉祥寺観音立像	三重町松尾	平安時代
十一面観音坐像	清川町宇田枝	寛文3(1663)年
聖観世音菩薩像	緒方町小宛	南北朝時代
木下磨崖仏	大野町十時	南北朝時代
大聖寺聖観音像	犬飼町柴北	室町時代
大聖寺達磨像	犬飼町柴北	江戸時代初期
大聖寺弁財尊天像	犬飼町柴北	江戸時代
三猿	三重町内山	江戸時代中期
蒔絵文箱	三重町松尾	江戸時代
脇差(豊行)	三重町市場	江戸時代初期
刀(行長)	三重町市場	江戸時代初期
刀	三重町市場	江戸時代初期
火縄銃	緒方町馬場	
印籠	緒方町軸丸	江戸時代
小宛焼	緒方町小宛	江戸時代
上津神社金幣	大野町片島	永禄9(1566)年
内山記	三重町内田	享保10(1725)年
衛藤家文書	三重町中津留	室町時代
臼杵藩三重郷灰立山御救山文書	三重町内田	嘉永5(1852)年
加藤家古文書	清川町左右知	室町時代
三代文書	緒方町久土知	室町時代
首藤文書	緒方町寺原	室町時代
田北文書	緒方町寺原	室町時代
工藤文書	緒方町上畑	室町時代
合沢文書	緒方町上自在	室町時代

名　称	所在地	備　考
佐藤文書	緒方町上自在	安土桃山時代
波多野文書	緒方町大化	安土桃山時代
高野文書	緒方町軸丸	江戸時代
西文書	緒方町馬場	
上田原石棺1号	三重町上田原	古墳時代中期
潰平4号石棺	三重町小坂	古墳時代中期
丸山古墳石棺蓋	朝地町上尾塚	古墳時代中期
六箱横穴墓出土品附「出土記録資料 古記録等」	緒方町原尻	古墳時代後期・天保2(1831)年
吉祥寺略縁記	三重町松尾	慶長16(1611)年
高寺村絵図	三重町本城	明治初期
深山八幡社鳥居額	朝地町市万田	応永20(1413)年
十字架首飾り	朝地町市万田	
棟札(二件)	千歳町柴山	

(12)豊後大野市指定有形民俗文化財

名　称	所在地	備　考
町石	三重町秋葉	文化2(1805)年
細長繁栄記	三重町宮野	明治11(1878)年
釘守堤文書	三重町赤嶺	江戸時代
肝煎金番帳	三重町秋葉	宝永4(1707)年
衛藤家キリシタン厨子	三重町中津留	江戸時代
松尾獅子舞巻物	三重町松尾	弘化2(1845)年
田良原石碑	緒方町小宛	享和2(1802)年
神面	緒方町大化	
よろい	緒方町柚木	
原の石風呂	緒方町原尻	明治時代
犬塚石風呂	緒方町大化	
麻生石風呂	緒方町軸丸	
野仲石風呂	緒方町鮒川	明治時代
下自在石風呂	緒方町下自在	
徳尾石風呂	緒方町平石	
古園の石風呂	朝地町池田	
慈康庵供養塔	千歳町長峰	康安元(1361)年
茶屋の辻庚申塔	千歳町長峰	万治4(1661)年

(13)豊後大野市指定無形民俗文化財

名　称	所在地	備　考
棒術	三重町内田	御道流
白熊	三重町鷲谷	御嶽流
宮流川辺神楽	三重町川辺	宮(三輪)流
松尾獅子舞	三重町松尾	西山古神流
芦刈獅子舞	三重町芦刈	御嶽流
芦刈団七踊	三重町芦刈	
川辺獅子舞	三重町川辺	西山古神流
内田獅子舞	三重町内田	西山古神流
入北獅子舞	三重町西畑	御嶽流
上田原獅子舞	三重町上田原	御嶽流
白山扇子踊	三重町伏野他	
中野獅子舞	清川町伏野	御嶽流
左右知獅子舞	清川町左右知	御嶽流
宮迫獅子舞	清川町宇田枝	御嶽流
泉獅子舞	清川町六種	今山流
宮津留獅子舞	清川町六種	御嶽流
臼尾獅子舞	清川町臼尾	御嶽流
雨堤獅子舞	清川町雨堤	御嶽流
宇田枝白熊	清川町宇田枝	御嶽流
津留白熊	清川町宇田枝	御嶽流
轟白熊	清川町左右知	御嶽流
石原白熊	清川町六種	御嶽流
小原白熊	清川町六種	御嶽流
砂田白熊	清川町砂田	
平石白熊	清川町平石	
伏野盆踊り	清川町伏野	
長小野獅子舞	清川町平石	
杵築社獅子舞	緒方町栗生	御嶽流
小原白熊	緒方町小原	
滞迫白熊	緒方町滞迫	
上冬原獅子舞	緒方町上冬原	今山流
冬原白熊	緒方町冬原	
徳田白熊	緒方町徳田	
下徳田白熊	緒方町下徳田	
柚木獅子舞	緒方町柚木	今山流
中野獅子舞	緒方町中野	御嶽流
小宛獅子舞	緒方町小宛	御嶽流
小宛白熊	緒方町小宛	
軸丸獅子太鼓	緒方町軸丸	御嶽流
越生獅子舞	緒方町越生	御嶽流
越生白熊	緒方町越生	

名　称	所在地	備　考
天神獅子舞	緒方町天神	御嶽流
大化獅子舞	緒方町大化	今山流
上犬塚獅子舞	緒方町上犬塚	御嶽流
馬背畑獅子舞	緒方町馬背畑	今山流
馬背畑白熊	緒方町馬背畑	
平石獅子舞	緒方町平石	御嶽流
原尻川越祭	緒方町原尻他	
小松明	緒方町	
大化白熊	緒方町大化	
若宮神楽	朝地町宮生	深山流
朝地神楽	朝地町志屋	深山流
板井迫神楽	朝地町板井迫	深山流
鳥嶽神社獅子舞	朝地町中熊	
綿田獅子舞	朝地町綿田	深山流
坪泉獅子舞	朝地町坪泉	御嶽流
板井迫獅子舞	朝地町板井迫	御嶽流
深山獅子舞	朝地町市万田	深山流
志屋獅子舞	朝地町志屋	
下野獅子舞	朝地町堀家	御嶽流
北平白熊	朝地町綿田	吉野流
志賀白熊	朝地町志賀	吉野流
大形流白熊	朝地町上尾塚	
志賀盆踊	朝地町志賀	
上尾塚盆踊	朝地町上尾塚	
志屋盆踊	朝地町志屋	
片島獅子保存会	大野町片島	御嶽流
北園獅子保存会	大野町北園	御嶽流
窪棒術保存会	大野町大原	竹内流
津留盆踊り保存会	大野町夏足	
中原白熊保存会	大野町中原	
浅草流黒松神楽	犬飼町黒松	浅草流
鞍馬流細口棒術	犬飼町西寒田	鞍馬流

(14)豊後大野市指定史跡

名　称	所在地	備　考
下赤嶺キリシタン墓群	三重町赤嶺	江戸時代初期
六字名号	三重町浅瀬	宝暦3(1753)年
磨崖クルス	三重町宮野	
下津留墓碑群	三重町上田原	天文13(1544)年
三国峠	三重町奥畑	明治10(1877)年
大辻山	三重町井迫他	文禄5(1596)年～
松尾城跡	三重町松尾	天正14(1586)年
森迫回春庵墓地	三重町井迫	永享6(1434)年～
下津留古墳群1号墳	三重町上田原	古墳時代中期
智福寺跡	三重町浅瀬	江戸時代前期
国見岩の墓	清川町宇田枝	弘化3(1846)年
近郷キリシタン墓	清川町大白谷	
伏野キリシタン墓	清川町伏野	
長迫横穴古墳群	清川町砂田	古墳時代後期
中尾石塔群	清川町雨堤	慶長19(1614)年
石源寺石仏	清川町六種	室町時代後期
大平石塔群	清川町臼尾	慶長15(1610)年
柏野不動明王磨崖仏	清川町平石	江戸時代
中の原古墳	清川町三玉	古墳時代
観音堂石仏群	清川町臼尾	江戸時代前期
岩戸一里塚	清川町臼尾	江戸時代初期
天神一里塚	清川町天神	江戸時代初期
宇田姫社	清川町三玉	
古田兵作の墓と古田家墓地	清川町平石	明治37(1904)年
宝生寺	清川町宇田枝	南北朝時代
萩塚様	清川町三玉	
古荘梅谷の墓と古庄家墓地	清川町宇田枝	慶応元(1865)年
軸丸磨崖不動尊	緒方町軸丸	14世紀頃
小宛焼窯跡	緒方町寺原	江戸時代末
緒方三郎惟栄館跡	緒方町上自在	
大石遺跡	緒方町大石	縄文時代晩期
保全寺跡	緒方町小宛	
上冬原キリシタン墓	緒方町上冬原	
小野キリシタン墓	緒方町鮒川	
高尾城跡	緒方町軸丸	安土桃山時代
柏野城跡	緒方町軸丸	安土桃山時代
小牧城跡	緒方町野尻	安土桃山時代
烏嶽城跡	緒方町小原	安土桃山時代
徳丸城跡	緒方町鮒川	
荒平城跡	緒方町久土知	
城山	緒方町越生	安土桃山時代
中川久豊塔ほか	緒方町寺原	宝永3(1706)年～
漆生古墳群	緒方町越生	古墳時代前･中期
大恩寺稲荷遺跡	朝地町板井迫	縄文時代早･前期
小川野磨崖仏	朝地町梨小	大永4(1524)年
草木遺跡	朝地町坪泉	縄文時代後期
丸山古墳	朝地町上尾塚	古墳時代
一万田氏館跡	朝地町池田	安土桃山時代

名　称	所在地	備　考
神角寺北ノ坊跡	朝地町鳥田	室町時代
田村遺跡	朝地町池田	縄文時代早･後期
早尾原古墳	朝地町上尾塚	古墳時代
二本木茶屋場跡	大野町大原	江戸時代
常忠寺	大野町藤北	元亀2(1571)年
岡なまこ墓	大野町後田	江戸時代初期
落ル水磨崖仏	大野町大原	明和2(1765)年
勝光寺	大野町藤北	明徳3(1392)年
宮成吉郎右衛門墓碑	千歳町新殿	文化9(1812)年
参勤交代道路(蒲鉾石付)	犬飼町下津尾	江戸時代
犬飼港(火の道･波乗り地蔵)	犬飼町下津尾	江戸時代

(15)豊後大野市指定名勝

名　称	所在地	備　考
浄運寺つつじ園	三重町内田	
仙の嶽	清川町宇田枝	
原尻の滝	緒方町原尻他	

(16)豊後大野市指定天然記念物

名　称	所在地	備　考
広瀬天神社社叢	三重町松尾	
年神社社叢	三重町秋葉	
白山川のゲンジボタル	三重町中津留	
熊野神社社叢	三重町奥畑	
大原モミノキ林	三重町百枝	
下小坂愛宕社巨木群	三重町小坂	
山中区山ノ口天神社社叢	三重町内山	
中尾社ナギ	清川町雨堤	
宇田社の社叢とヤブツバキ	清川町三玉	
愛宕社のヤブツバキ	清川町三玉	
健男社のイチョウ	清川町六種	
歳神社のムクノキ	清川町六種	
井崎のオオイタサンショウウオ	清川町宇田枝	
大野川「白亜紀の地層」	清川町宇田枝	
間の内のイチイガシ	清川町左右知	
伏野の二本クヌギ	清川町伏野	
木南切のエノキ	清川町平石	
木南切のタブノキ	清川町平石	
近郷のカルスト地形「ドリーネ」群	清川町大白谷	
川上渓谷	緒方町尾平鉱山	
大石樫山	緒方町大石	
宮生大椋	朝地町宮生	
上尾塚大槙	朝地町上尾塚	
井ノ向自然林	朝地町上尾塚	
八坂神社社叢	大野町大原	
門上神社社叢	大野町北園	
梛	大野町田代	
冬手原銀杏	大野町中原	
鳥居原の大杉	千歳町新殿	

(17)市内指定･登録文化財件数

区　分	国	県	市
有形文化財:建造物	4	41	154
有形文化財:美術工芸	0	23	52
有形民俗文化財	1	5	18
無形民俗文化財	1	7	73
史跡	6	11	59
名勝	0	0	3
天然記念物	1	8	29
文化的景観	1	−	−
選択無形民俗文化財	−	2	−
登録有形文化財	7	−	−
登録記念物	2	−	−
合計	23	97	388

※指定・選択・登録を含む文化財は合計 508 件で、県下では最多の件数です。(令和 8 年 3 月現在)

第 20 章
市内の遺跡

●旧石器時代

およそ４万年前に大陸より渡ってきたと考えられる人類の痕跡が日本列島で見つかるようになります。地球上が氷河期と呼ばれる寒冷な気候の頃ですが、豊後大野市内にも多くの遺跡が所在しており、豊富な水源や、食料となる動植物を育む豊かな自然など、当時の人々の生活に適していた地であったと考えられます。縄文時代が始まる約１万６千年前までを旧石器時代と呼びます。

当時の石器には狩猟用の槍先と考えられる角錐（かくすい）状石器や剥片尖頭器（せんとうき）のほか、切る・刺すために使われたナイフ形石器、削る・引っ掻くために使われた削器（さっき）・掻器（そうき）など様々な種類があります。これらの石器づくりの材料には、近隣の河川や山間部を産地とする石材が利用されていますが、遠隔地から運ばれたとみられるものもあります。原始的な生活でありながらも他地域の人々との交流や流通も始まっていたことが推定されます。

ほかに石を集めて火を焚いた痕跡などもあり、雨露を防ぐ簡易的な小屋などに住みながら季節ごとに移動を繰り返す原始的な生活であったと考えられています。



旧石器の出土状況（百枝遺跡）

市内の旧石器時代遺跡

代ノ原遺跡（大野町屋原）では、湿地帯だったと考えられる当時の地層よりナウマンゾウ１頭分の骨格が見つかっており、このような大型動物が生息していた証拠となりました。この個体には人為的な痕跡はみられませんが、ナウマンゾウは旧石器時代まで生息しており、当時の人々の狩猟対象だったと考えられています。



代ノ原遺跡の調査

岩戸遺跡（清川町臼尾）は、昭和 42（1967）年の調査で多くの石器類が発見され、その中の注目すべき遺物としてこけし形石偶と呼ばれるものがあります。この付近では産出しない結晶片岩を加工して、頭部に目や口のような表現もあります。呪術や祈りに使用されたと推定され、旧石器時代では我が国初めての精神文化をうかがわせる資料として貴重なものです。その後も数次にわたる調査が行なわれ、墓地とみられる集石遺構がみつかるなどこの地域の代表的な遺跡として、昭和 56（1981）年に国史跡に指定されました。



岩戸遺跡

郡山南遺跡（大野町郡山）では、狩猟用に掘られた陥穴の遺構が見つかっています。遺物はありませんが、検出土層から姶良カルデラを起源とする

火山灰土（ＡＴ層）堆積頃の２万２千年より以前に掘られたものと推定され、この時期としては珍しい遺構です。

駒方遺跡群（大野町中原）では、台地の広範囲にいくつかの遺跡が調査されています。駒方Ｃ遺跡や駒方池迫遺跡では、槍先と推定される角錐状石器を主体とする横長剥片を素材とした石器群が伴うのに対し、駒方津室迫遺跡では基部に深い抉りを入れるナイフ形石器を主体とする石器群が出土しています。両者は時期差も考えられますが、石器の製作に異なる技法がみられます。

ほかにも百枝遺跡（三重町西泉）、津留遺跡（犬飼町田原）、原田第１遺跡（千歳町前田）でも複数の文化層があり、ナイフ形石器を主体とするものや角錐状石器・剥片尖頭器を主体とするものなどが見つかっています。



市内出土石器

これらの石器組成には時代による変化が見られ、旧石器時代の終末期には細石器とよばれる小さな剥片を素材とした石器に代わっていきます。市ノ久保遺跡（犬飼町大寒）で多く出土する細石刃（さいせきじん）は、小さく鋭い石刃を木の柄などに複数装着して取替えながら使用したと考えられる石器で、これを作り出す細石刃核と呼ばれる石器が多く出土しています。また、局部磨製石斧や石皿や敲石（たたきいし）の礫石器など縄文時代に似た石器もあり、生活形態の変化として次の縄文時代への画期を示すものとみられます。

ほかに細石刃を主体とする石器が出土されている松山遺跡（犬飼町大寒）、上下田遺跡（三重町川辺）、宮尾原遺跡（三重町宮野）、小牧遺跡（大野町後田）など、同じ旧石器時代終末時期の遺跡と考えられています。


細石核（上）と細石刃（下）

●縄文時代

縄文時代が始まる約１万６千年前より気候は温暖化が進み、自然環境に適応して人々の生活に変化が見られます。竪穴式住居が造られるようになり、他に炉穴や貯蔵穴なども現れます。遺物として土器が出現し、土器を使用した食物調理が始まったと考えられます。石器では弓矢を使った狩猟用の石鏃（せきぞく）も現れるほか、皮剥ぎの石匙（いしさじ）、土掘り具の打製石斧（だせいせきふ）のほか、磨製の石器なども作られるようになります。



縄文時代の石器

市内の縄文時代遺跡

縄文時代は、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期の六つの時期に区分され、豊後大野市内では最初の草創期以外の各時期の遺跡が確認されています。

早期の遺跡は、田村遺跡（朝地町池田：市指定史跡）、鳥穴遺跡（犬飼町田原）のほか竜千寺遺跡（緒方町上冬原）などが所在しています。この時代

の特徴である押型文と呼ばれる文様がある土器が見つかっています。

前期や中期の遺跡は少ないですが、前期の土器は、やや黒色の器壁に小さな突帯や沈線のある九州独自のものが千人塚遺跡（緒方町下自在）・左右知遺跡（清川町左右知）で、中期は縄文や爪形の文様を持つ瀬戸内周辺に分布するものと同じ特徴の土器が惣田遺跡（三重町菅生）・左右知遺跡で見つかっています。



縄文時代の土器　早期（左）・前期（右）

後期になると遺跡数は増加し、夏足原遺跡（大野町夏足）、池在遺跡（朝地町池田）、駒方遺跡（大野町中原）、川南原遺跡（大野町田代）、中道遺跡（大野町後田）、倉園遺跡（千歳町長峰）など各地で見つかるようになります。後期前半期には磨消縄文と呼ばれる模様の土器がありますが、後半期には表面が磨かれた黒色磨研系の土器が多くなります。呪術や祭具などに使われたと考えられる土偶なども見つかるようになります。



縄文時代後期の土器（左）・土偶（右）

遺構では竪穴住居が現れるようになり、下野遺跡（犬飼町下津尾）で円形の住居跡が見つかっています。また洞窟や岩陰を住居や墓地に利用した遺跡として、大恩寺稲荷遺跡（朝地町板井迫：市指定史跡）や草木遺跡（朝地町坪泉：市指定史跡）が知られています。



縄文時代後期の住居（下野遺跡）

縄文時代晩期も前半にかけては遺跡数も多く、大石遺跡（緒方町大石）は、昭和 36（1961）年以降の調査で多くの遺物が見つかりました。特に扁平な打製石斧は土掘り具、横刃形石器や石鎌状の石器は穂積具として、原始的な雑穀栽培の可能性を示唆するものとして取りざたされ、学会において縄文時代の農耕が提起されて注目されました。



縄文時代晩期の土器

ほかに宮地前遺跡（大野町片島）、下野遺跡（犬飼町下津尾）などが縄文晩期の遺跡として知られています。竪穴住居の遺構も増え、定住生活が始まるようになるほか、上田原東遺跡（三重町上田原）では複数の住居が集まった集落が形成されるようになります。

大型甕を使った埋葬の例として、駒方B遺跡では縄文時代晩期から弥生時代初頭の甕棺墓とみられる墓地遺跡が確認されています。



縄文時代の墓地遺跡（駒方B遺跡）

●弥生時代

約 2400 年前、稲作をはじめとした新しい文化が大陸より伝わり、新しい磨製石器や金属器も使用されるようになります。農耕の定着により食料の生産と供給が向上し、生活の安定や社会発展により人口が増加して集落の形成が進んでいくことになります。やがて大規模に発達した集落には有力な地域集団の発生と権力を持つ統率者の出現があったと見られます。

市内では、台地上に多くの弥生時代の遺跡が分布しています。これらの立地から水稲耕作よりも畑作生産による営みがあったと推定されます。

市内の弥生時代遺跡

市内の弥生時代早・前期の遺跡は少なく、駒方B遺跡（大野町中原）や夏足原遺跡（大野町夏足）、平石遺跡（千歳町長峰）からは壺（つぼ）や甕（かめ）を利用した早期～前期の埋葬遺構が見つかっています。



弥生時代前期の墓地遺跡（平石遺跡）



弥生時代前期の壺（左）・甕（右）

中期の遺跡は、住居跡がいくつか確認され、集落が形成されはじめたことがわかります。惣田遺跡（三重町菅生）や岡遺跡（大野町後田）からは円形の住居、近中遺跡（大野町大原）からは隅の丸い方形の住居跡が見つかっています。舞田原遺跡（犬飼町田原）や鹿道原遺跡（千歳町柴山）では花弁形と呼ばれる特殊な構造の住居跡も複数箇所で確認されています。



弥生時代中期の壺（左）・甕（右）

後期になると遺跡数は急増し、各台地上に竪穴住居跡や掘立柱の建物群が密集した集落が出現します。特に弥生時代後期の後半をピークに多くの集落が分布しています。

その中でも大規模に発達した集落として知られる鹿道原遺跡（千歳町柴山）は、工場建設に伴い 4 万㎡の範囲で調査が行なわれ、計 230 棟の竪穴住居と 221 棟の掘立柱建物がありました。住居は中期末から古墳時代初頭までの期間で、一時期に 30 ～ 50 棟ほど存在していた大集落遺跡の存在が確認されています。半地下式の竪穴住居の平面形は方形を基本とし、規模に応じて柱が 1 本～ 8 本の数が見られ、様々な構造であったと考えられます。

住居以外には高床式の倉庫とみられる掘立柱建物があり、複数棟並ぶように配置されていることが確認されています。



鹿道原遺跡

このような大規模集落遺跡は、ほかに高添遺跡群（千歳町長峰）のほか、陣箱遺跡（三重町百枝）、二本木遺跡（大野町大原）などで 100 軒を超える

住居が集まっていたとみられます。これらの大集落の立地環境から台地に生活の拠点として活動していたことが想定され、大野川流域全体で共通した社会であったことと推定されます。



二本木遺跡の住居跡

出土遺物は甕と壷に代表される土器のほか鉢や高坏などがあり、さまざまな形や組成がみられます。市内の遺跡からは大野川下流域の大分平野と上流域の阿蘇外輪山地域の両方の文化の特徴があり、地域間交流によると考えられます。



弥生時代後期の壷（左）・甕（右）

石器も磨製品や礫石器のほか装身具なども出土していますが、新たに鉄製の遺物も現れるようになります。狩猟用の鏃（やじり）、工具の斧・鉇（やりがんな）・刀子、農具の摘鎌・鋤先、調理具の磨石や台石などの各用途と考えられる出土遺物が住居跡から出土しました。



弥生時代の石器・石製品



弥生時代の鉄・銅製品

これらの農具や工具、狩猟や調理などの道具が普及したことで食生活をはじめ生活環境が向上し、集落数の急増につながったことと推定されています。また武器類はなく、当時の九州北部で見つかるような戦乱を示すものは見つかっていません。

数多く見つかる生活跡に対し、墓地跡は少ないですが、中原舟久手遺跡（大野町中原）で土坑（どこう）墓群、古市上遺跡（朝地町市万田）で木棺（もっかん）墓とみられる埋葬跡が見つかっています。

大野川流域全体でも共通していますが、弥生時代後期の終末頃以後になると大集落は減少し、古墳時代前期初頭を最後に台地上での集落はみられなくなります。おそらく居住地を台地から平野部に移動させたものと考えられますが、権威の象徴であったと思われる青銅鏡などがこの頃の住居跡から廃棄されたように出土するなど、社会の大きな変化をうかがわせる発見もありました。

●古墳時代

古墳時代は、3世紀中頃に畿内勢力を頂点とする中央集権的な政治体制が成立し、その象徴である前方後円墳が全国に出現する時代です。各地の有力者たちは自らの政治的社会的地位に基づく権威の象徴として古墳と呼ばれる盛土の墳墓を構築していきます。特に前方後円墳という形は畿内政権との強い結びつきに基づくものと考えられています。

市内には 50 基程の古墳が大野川本流のほか各河川流域にまとまって分布しており、特に主要な前方後円墳が 8 基あることから、県下でも多くの有力者が存在した地域の一つであることがわかります。

この頃より集落跡は台地上から河川沿いの平野部にみられるようになります。このことは、水田開発による稲作の発達と、生活基盤や社会構造が変化したことによるものと考えられ、河川水系などを単位とした社会基盤のもとで地域を統率した有力者層が出現したことを示しています。その権威を示すように築いた古墳は時代の象徴でもあり、現在もその姿を保持し続けています。

古墳時代の主な集落遺跡

古墳時代の人々は弥生時代と同じく竪穴住居で生活しています。弥生時代のような大集落は見つかっていませんが、平野部の現在の住宅地と同じような位置に展開していたと考えられます。

また遺物として土師器（はじき）と呼ばれる素焼きの土器のほか、須恵器（すえき）が現れます。須恵器は青灰色を呈した硬質の器で、登り窯で高温で焼かれるなど新しい技術で作られた焼き物です。



古墳時代の土師器 埦･高坏（左）･壺（中）・甕（右）



古墳時代の須恵器

古墳時代前期初頭の住居は舞田原遺跡（犬飼町田原）、久知良遺跡（三重町内田）などで見つかっており、弥生時代とほぼ同様の構造とみられる方形の建物です。中期以降では、上田原東遺跡（三重町上田原）や頭田遺跡（緒方町大石）、加原遺跡（大野町桑原）では壁の一辺にカマドを備えた住居跡が見つかっています。



カマド付の住居跡（田村遺跡）

市内の前･中期の古墳

市内では古墳時代前期の後半より出現し、中期にかけて多くの古墳が築造されています。その分布は、大野川本流より広い平野の存在する支流域ごとにあり、それぞれの地域を支配した有力者層の存在が考えられます。

出現期の古墳として、三重川周辺域の立野古墳（三重町上田原）、平井川流域の坊ノ原古墳（大野町桑原）、緒方川周辺地域の漆生古墳群の大久保 1 号墳（緒方町越生）が挙げられ、いずれも前方後円墳です。

その後、古墳時代中期になると三重川周辺流域で三重古墳群とよばれる前方後円墳の築造が続きます。全長 70 mで市内最大の道ノ上古墳（三重町赤嶺）をはじめ、小坂大塚古墳（三重町小坂）・重政古墳（三重町内田）･秋葉鬼塚古墳（三重町秋葉）


立野古墳


重政古墳の葺石

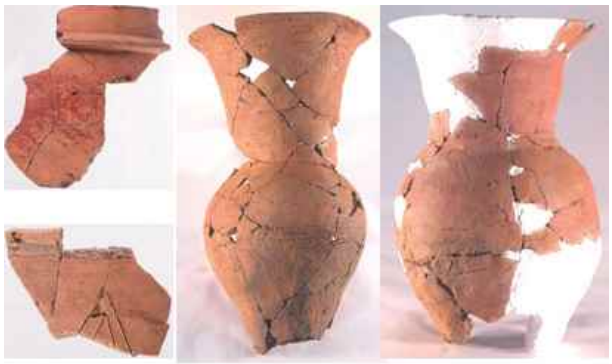
など相次いで築造されます。しかし中期後半の竜ヶ鼻古墳（三重町赤嶺）を最後に前方後円墳の築造はなくなります。

それ以外の地域では、中期以後は円墳のみの築造が続き、平井川流域の大野町西部から朝地町にかけての地域には町古墳群(朝地町市万田）や向原古墳(大野町北園）など、朝地町南部地域の早尾原古墳・丸山古墳(朝地町上尾塚)・若宮古墳(朝地町宮生)、緒方の漆生古墳群、茜川流域の御塚古墳(大野町藤北)、奥岳川流域の中ノ原古墳(清川町三玉）など見られます。中には直径が 30mを超える大型円墳もありますが、自然地形と変わらない小型のものも多くみられます。こうした古墳の規模は有力者層の格差を表すものと考えられます。


早尾原古墳

古墳には葺石（ふきいし）と埴輪（はにわ）があり、特に前方後円墳などの大型古墳の構造上の特徴といえます。葺石は墳丘表面に敷詰められた河原石で、調査で墳端の外表には石で覆われて造られていることが判明しています。

埴輪は古墳に並べられた土製品で、円筒埴輪や壺形埴輪と呼ばれる形の埴輪が前方後円墳で見つかっていることが知られています。


円筒埴輪（左）と壺形埴輪（中・右）

以上、市内の多くの古墳は古墳時代前期後半から中期にかけて築造されています。埋葬主体部については多くは特定されていませんが、石棺と呼ばれる石製のひつぎが埋められているものと考えられています。

石棺は複数枚の板状の石を長方形状に組み合わせて箱状の棺とした箱形石棺、大きな石を刳抜いて造り出した舟形石棺などいろいろな形があり、いずれも凝灰岩の大型石材を加工して制作されています。


舟形石棺（鉢ノ窪石棺）

市内の後期の古墳

古墳時代中期後半以後、次第に古墳の規模は縮小し、数も減少していきます。後期古墳の埋葬主体には、横穴式（よこあなしき）の構造を持つ石室が造られますが、市内での後期古墳は尾崎古墳（大野町片島）などいくつか知られているのみです。



尾崎古墳の石室床面

同じ時期の墓制として横穴墓（よこあなぼ）と呼ばれる墓が数多く分布するようになります。崖面に横穴を掘り込んで埋葬空間を造る形式の墓地遺跡で、1 基単独もあれば、10 基以上群集する所もあります。凝灰岩の崖面の多い市内では古墳時代後期の代表的な遺跡として各地で盛んに見られ、平野部や狭い谷間などを見下ろす位置に分布しています。本来は入口に板石などで閉塞して、家族墓として何度も利用されていたとみられています。

十六山 1 号横穴墓（三重町川辺）は中期末の初期に築造されたもので、人骨 2 体のほか刀・剣・矛・鏃など多数の武器類をはじめ文様を彫刻した装具も副葬されていました。

六箱（緒方町原尻）では鉄製馬具や刀などの武器類が江戸時代の天保 2（1831）年に見つかっており、当時の経緯の記録により横穴墓があったことが推定されています。発見された遺物は地元で代々大切に保管され、現在まで伝えられています。

他に市内の代表的な横穴墓として、浅草横穴墓群（大野町杉園）は 31 基が群集する市内最大であるほか、竜ヶ鼻横穴墓群（三重町赤嶺）、狐迫横穴墓群（朝地町下野）、三反田横穴墓群（朝地町朝地）、野仲横穴墓群（緒方町鮒川）、城山横穴墓群（緒方町）、長迫横穴墓群（清川町砂田：市指定史跡）などがあります。



浅草横穴墓群

●古代

飛鳥時代以降、律令制度が整えられます。全国に国・郡・里（郷）といった地方行政単位でそれぞれの役所が設置されるほか、命令や情報の伝達や物資輸送などを目的とした、中央と地方を結ぶ官道と呼ばれる交通路の整備も行なわれるなど、中央集権化が進みました。

平安時代になると、荘園の形成とともに律令の支配体制が衰退し、貴族中心であった政治に武士が台頭するようになります。

古代の豊後大野

大分県域である豊後国には郡が 8 か所置かれ、その一つである大野郡の大部分が現在の豊後大野市に相当します。大野郡に置かれた里（郷）は三重・緒方・大野・田口（後の井田）の 4 か所と記されており、現在につながる地名もこの頃には成立していたことがわかります。郡の役所である郡衙（ぐんが）などの位置は特定されていませんが、これらの行政単位ごとに置かれた役所では、徴税や戸籍などの各種帳簿作成・各役所間の連絡などの事務処理が行なわれていました。

また、豊後国と日向国（宮崎県）を結ぶ官道の要所に設置された駅家（えきか）として、大野郡には三重駅と小野駅の 2 か所が置かれました。駅とは連絡通行の馬を常備した施設で、三重駅は三重町市場付近と推定されています。



古代の大分

古代の主な遺跡

加原遺跡（大野町桑原）では平安時代の大野郡関連と考えられる大型建物跡が並んで見つかっています。柱穴の径は一辺 80cm 前後と大きく、9 世紀から 12 世紀にかけての高床式倉庫などの各種建物群 27 棟などが見つかりました。大野郡関連の建物とも考えられますが有力豪族の屋敷ともみられています。


加原遺跡の建物跡

そのほか古市遺跡（朝地町市万田）では平安時代前期の祭祀跡とみられる遺構がみつかり、大園遺跡（千歳町下山）でも平安時代の建物群の跡がありますが、この時代の遺跡は少なく不明な点が多く残ります。

また律令体制のもと、公有化された土地を人々に等しく配給する班田収授法の制定に伴い、条里（じょうり）制が施行されました。条里とは古代の土地区画制度で、一辺約 108 m四方の碁盤目状の地割りが全国でみられます。市内では緒方川流域の緒方盆地一帯でその名残があったことが確認されています。


緒方盆地の条里の地割り（昭和 21 年ころ）

平安時代より仏教の消滅を恐れる末法思想が広がり、仏教の経典を入れた容器である経筒を地中に埋納することが全国的に流行します。経塚と呼ばれる埋納遺構は、緒方町の三宮八幡社と大行事八幡社から江戸時代までに 5 個分の経筒が発見されたと伝わりますが、そのうち 3 個体分が現存しています。


経筒（左：三宮八幡社、右：大行事八幡社出土）

大神一族関連の伝承地

豊後地方で平安時代後期より登場する武士団として知られる大神一族には、多くの伝説が伝えられています。初代大神惟基にまつわる緒環伝説のゆかりの地として、宇田姫社・萩塚（清川町三玉）があります。

大神一族は、12 世紀頃に一族を率いた緒方惟栄によって勢力を拡大し、源平の戦いでは源氏側の勢力として活躍します。彼の本拠地である緒方町内には惟栄の館跡（緒方町上自在）や創建に関わった

と伝わる宮迫東西石仏、一宮・二宮・三宮八幡社、緒方下井路など多くの伝承地が知られています。大神一族は鎌倉幕府に抵抗し、神角寺の合戦で終焉を迎えたと伝えられています。



緒方惟栄館跡伝承地

●中世

平安時代以後に台頭してきた武士は、強い政治力を持つ権力者に成長していき、中央には幕府による政権が成立し、地方には有力御家人を守護として配置する封建制度による支配体制を確立していきます。やがて行政上の実権を握るようになった各地の守護は、大名として勢力争いも激化させていき、戦乱の時代を迎えるようになります。

豊後国では守護大名として配置された大友氏が、代々統治していました。21 代目の義鎮（宗麟）の頃には北部九州一帯にまで勢力を広げ、南蛮貿易などの対外政策を積極的に進めて戦国大名として成長していきます。一方で各地で戦いを繰り広げ、薩摩の島津氏による侵攻を受けて衰退していきます。大友宗麟の跡を継いだ大友義統の朝鮮出兵での失態を理由に豊臣秀吉によって改易されて以降、代わりに配置された大名たちによる小藩分立の時代を迎えます。

中世の仏教遺跡

貴族や地方武士の保護を受けた仏教は、数多くの磨崖仏や山岳寺院が建立されていることから、当地方にも浸透していたことがわかります。特に磨崖仏はこの地域に多い熔結凝灰岩の岩壁に彫込まれ、市内では代表的な文化遺産として知られています。平安時代後期の大神一族との関わりが推定される菅尾磨崖仏（三重町浅瀬）や緒方宮迫東・西石仏（緒方町久土知）のほか、犬飼石仏（犬飼町田原）・普光寺磨崖仏（朝地町上尾塚）などその姿も様々です。

鎌倉時代以後は民衆の救済を目指したさまざまな教えのもと、石造塔の造立が広がっていきます。その目的は納経・供養・祈願など様々な信仰を反映したもので、凝灰岩の豊富な石材にも恵まれ、当地域では多種多様な石塔が見られます。作塔の傾向として、宝塔や五輪塔から作られはじめ、南北朝時代より宝篋印塔、中世後半以降になると、石幢や笠塔婆などが作られ、それぞれ彫刻作品としても優れています。



中世の石造塔（表宝篋印塔）

大友氏関連の遺跡

豊後の守護大名大友氏は、鎌倉時代より安土・桃山時代にわたって豊後国を統治し、その菩提寺とされる寺院が市内にもあります。



伝能直の墓塔（常忠寺）

初代能直は京都で没したとされていますが、勝光寺（大野町藤北）が菩提寺とされ、近くの常忠寺に墓石と伝えられる五輪塔があります。

ほかに 4 代親時は大楽寺跡（三重町久田）、13 代親綱は大聖寺（犬飼町柴北）、14 代親隆は宝生寺（清川町宇田枝）と、それぞれ菩提寺とされる寺院がありました。

中世城館の遺跡

市内には戸次氏、志賀氏、一万田氏など大友氏の有力な家臣のほか多くの武士の領地がありました。こうした領主層の屋敷跡や城館跡の築造が行なわれるとともに、戦乱に備えて山頂や丘陵上に数多くの城や砦が築かれていきます。

一万田館跡（朝地町池田）は、現在残る土塁や発掘で確認できた堀などから 100 m四方ほどの規模であったと考えられています。他にも惣田遺跡(三重町菅生）や上門手遺跡（千歳町下山）などで、有力武士の屋敷跡と考えられる遺跡が見つかっています。



一万田館跡の建物柱跡

城や砦などは、戦いの際の拠点として山頂や丘陵の地形を利用して築かれるもので、兵が駐屯する曲輪（郭）、敵の侵入を阻む堀・土塁など防備の構築跡が現在も残っていることがあります。

鳥屋城（朝地町鳥田）は、一万田氏の詰城として築城され、山頂の広範囲に複数の曲輪を配置し、尾根上に土塁を巡らせています。

高城(大野町酒井寺）も多数の曲輪を造成させ、鎧ヶ岳城（大野町藤北）とともに戸次氏の詰城であったと考えられています。

烏嶽城（緒方町中野）は、尾根上の曲輪と大規模な土塁を配置する城跡で､高尾城（緒方町軸丸）は、広大な主郭の周囲に多数の階段状の帯曲輪を配置する規模の大きな山城です。小牧城（緒方町野尻）は、三方を河川に囲まれた地形を活かした城跡です。

小牟礼城（朝地町市万田）は、一万田氏の城と伝わりますが、築城技術的には中川氏による岡城の支城としての築城と考えられています。このほか高旗城（犬飼町)、栗ヶ畑城（犬飼町）など確認されています。

天正 14(1586)年の薩摩の島津氏の侵攻の際、各地の武士団は山城に立て籠もって抵抗します。しかし島津氏は松尾城（三重町松尾）を侵攻の拠点として各方面で大友氏側を圧倒していきます。

松尾城は通常の山城とは異なる構造で、谷間を囲む山腹から麓の旧広福寺跡まで階段状に曲輪群が数多く設けられています。広福寺跡の広い平坦地を本陣としての中心的な施設とし、谷間の曲輪群は兵士の駐屯場所として、山頂の曲輪は物見として使用されたと考えられます。また 16 世紀後半～末の輸入陶磁器などが出土しており、府内（大分市）から後退した島津軍により持ち込まれたものと考えられます。



松尾城の陶磁器出土状況

中世の埋葬遺跡

中世の民衆は村落など共同体としてのつながりを深め、同じ神仏を信仰し、埋葬地を同じ場所に設けるようになります。千人塚遺跡(緒方町下自在）は、盛土による 170 基の墓地の遺跡で、室町時代から江戸時代の 200 年間にわたって造営された集落墓地であったことがわかりました。盛土内には土葬墓や火葬墓などさまざまな埋葬形態があり、一部には石塔などの墓標を有するものもありました。


千人塚遺跡の墳墓群

また、大友宗麟は南蛮貿易とともにキリスト教信仰を保護する政策を行ない、領国である豊後地域には多くの信者が居たと考えられます。こうした人々によりキリスト教式の墓地が数多く造営されました。大友氏改易後も江戸時代初め頃までは信仰は続きましたが、慶長 17（1612）年以後の江戸幕府の禁教令による弾圧を受けるようになり、これまでのキリシタンの墓地は仏教式の墓地へと改変され姿を消していきます。

その中で岡なまこ墓（大野町後田）は伏碑の下に石組遺構がある構造を持ち、江戸初期のキリスト教式の埋葬形式が垣間見える遺跡です。


干字クルス

また干字クルス（朝地町市万田）は、十字架が浮き彫りされており、礼拝用の施設であった可能性が高いものです。

中世の刀鍛冶

甲斐本（賀井本）鍛冶は三重町久田に居住していた刀工で、大友氏に仕え、武器制作に携わっていたと考えられています。中世の刀工に「行久」が知られており、大友氏の御用鍛冶として作品が残されています。その他に市内では大野町や朝地町でも刀工の活動による作品が知られています。戦国時代が終わり江戸時代以後も臼杵藩の庇護を受けて刀鍛冶は続き、甲斐本鍛冶も「行長」や「行家」などの刀工により、江戸時代中期頃まで刀が生産されていたと考えられています。

現在でも中尾には「鍛冶元」という地名があり、残された作品や当地の墓石群などから、かつての職人たちの活躍が偲ばれます。


甲斐本鍛冶関連の墓地

●近世

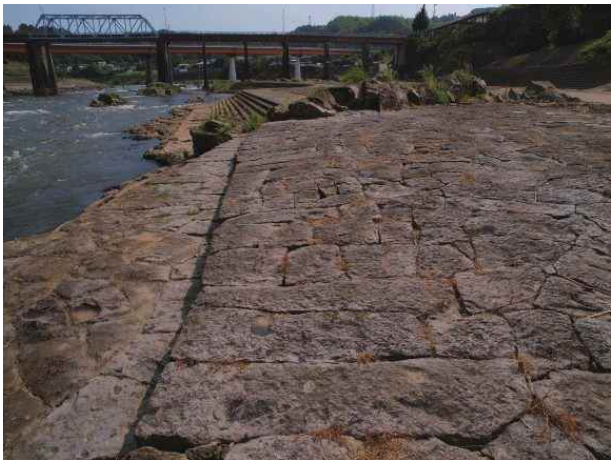
徳川政権による江戸幕府中心の政治が行なわれた時代で、幕府直轄地（天領）以外は、各藩に配置した大名に統制させた幕藩体制による統治が行なわれました。藩では年貢収入を増やすため井路開発や耕地開拓を行ない、窯業など産業の育成や鉱山開発など、社会や経済を発展させる整備を積極的に行なっています。

豊後国は小藩分立と称される８藩７領が入り交じる地域で、豊後大野市域は、主に岡藩と臼杵藩にわかれており、両藩に関連する様々な遺構が各地に残されています。

岡藩の主な遺跡

岡藩は中川氏が文禄３（1594）年に藩主として配置されて以後、13代に渡って続きました。岡城を居城に直入・大野郡の大部分を領し、石高は約７万石でした。

犬飼港跡（犬飼町犬飼）は、岡藩の物資輸送や参勤交代など河川交通の要衝として明暦２（1656）年に整備された川港の跡地です。以後も主要な交通路として発達し、その様子を描いた「犬飼港図」が当時の繁栄を伝えています。今でも川沿いに残る石畳や犬飼役所や御蔵場の痕跡を見ることができるほか、藩主の船着き場といわれる付近には、船の航海の安全を祈願したといわれている「波乗り地蔵」像が線刻で表されています。



犬飼港跡の石畳

二本木茶屋場（大野町大原）は、岡藩主の参勤交代で立ち寄った施設といわれています。土塁で囲まれた空間に建物跡と井戸の跡が見つかっています。他に朝地町にも休憩場所と伝わるお駕籠（かご）石と呼ばれる石があります。

一里塚とは主要な街道沿いに１里（約4km）ごとに設けられる道標として設置されたものです。岡城に近い緒方町では石碑形式ですが、清川町では盛土の塚で造られています。



岩戸一里塚

岡藩８代藩主中川久貞の墓所（緒方町片ヶ瀬国指定史跡）が小富士山にあります。儒式墓と呼ばれる形式の墓石で、寛政２（1790）年に造立されています。

また、藩主に仕えた家臣である中川久豊・久虎・久照の墓所（緒方町寺原　市指定史跡）、井上並古・並増墓所（朝地町朝地　県指定史跡）も儒教式の墓所として知られています。



中川久貞公墓

小宛焼と呼ばれる山水画のある磁器や陶器などの製品が伝えられています。緒方町寺原で工事中に陶磁器と窯道具が見つかったことによりここに窯跡があったことが判明し、江戸時代末期から明治初期にかけて生産されたものと推定されています。



小宛焼磁器碗（左）と窯道具（右）

臼杵藩の主な遺跡

臼杵藩は稲葉氏が慶長 5（1600）年に藩主として配置されて以後、15 代に渡って続きました。臼杵城を居城に海部郡北部から大分・大野郡の一部を領し、石高は約 5 万石です。

三重町市場にはかつて三重市と呼ばれた臼杵藩の在町が置かれており、市場遺跡では発掘調査で多くの陶磁器類が出土しています。人々の生活の痕跡とみられ、当時も商業地域として発展していたことがわかります。また、藩の地方行政施設として天保 10（1839）年に設置された三重代官所とみられる建物跡が三重第一小学校敷地内で見つかっています。



市場遺跡（三重代官所跡）

戸口遺跡（三重町久田）は、臼杵藩が岡藩境の主要街道に沿って設置した番所跡で、通行人の監視などを行っていました。石畳のある街道跡と、建物の石垣などが見つかっています。



戸口遺跡（岩戸口番所跡）

虹澗橋（三重町菅生　国重要文化財）は、文政 7（1824）年に三重川に架けられた石造アーチ橋です。三重郷の年貢米輸送のため架けられたもので、高さ 14 m、径間は 25.2 mの完成当時は国内最大のアーチ橋であったといわれています。現在の舗装された道路地下より当時の石畳の一部が残っています。



虹澗橋

第 21 章
近代の遺産

●近代（近代化遺産）

約 250 年続いた江戸時代も開国を機に明治維新を迎え、日本は近代国家として歩み始めます。幕藩体制は明治新政府による近代的な政治体制へと大きく変わり、欧米諸国と対等な国作りを目指し新しい政策を進められます。地租改正、徴兵令、学制など、次々に新しい制度が始まり、工業など新たな産業や経済の発展、電力や交通網が整備されるなど人々の暮らしに急激な変化をもたらしました。

豊後大野市でも農林業や商工業などの産業が盛んとなり周辺から人が集まるようになります。生活基盤の整備として発電施設や交通・土木・教育等の各施設が造られ近代化に重要な役割を果たしました。

西南戦争と豊後大野

明治 10（1877）年、旧薩摩藩士を中心とする士族が明治新政府に反乱を起こし、西南戦争が勃発します。九州南部一帯が戦場となり、熊本城や田原坂などでの戦いを経て、薩摩軍が延岡方面から竹田へ侵攻し豊後大野市内も戦闘に巻き込まれていきます。

5 月 29 日に竹田から退却した薩摩軍は、三重市場に侵入し、5 月 31 日の三重市の戦闘で政府軍を退けます。薩摩軍は臼杵方面に転戦した後再び市域に侵入し、山岳地域に籠城して攻防を繰り広げました。

その戦場のひとつとなった三国峠（三重町奥畑）付近は近世以前の日向街道に沿う要衝地で、両軍の構築した台場群が広範囲に点在しています。明治 10（1877）年 6 月 17 日の政府軍の総攻撃で薩摩軍は敗走し、このとき戦死した兵士を弔う三国神社や墓碑などが残されています。

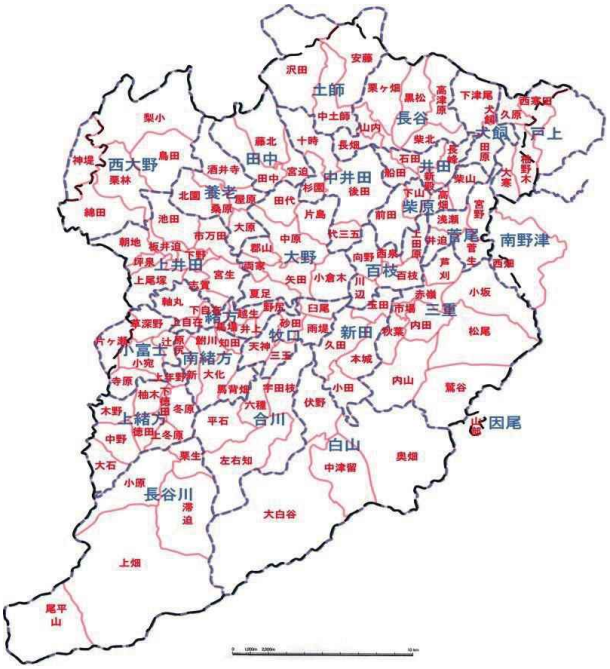

三国峠台場跡

大野郡と町村

明治 4（1871）年の廃藩置県後、大分県は明治 9（1876）年には現在の県域となり、12 か所の郡が設置されます。豊後大野市域の大野郡には郡役所が市場村（三重町市場）に置かれました。当初は元市場組大庄屋であった多田家屋敷を仮庁舎としており、明治 18（1885）年に新庁舎が建設されるまで使用されました。


旧大野郡役所（多田家住宅）

当時の大野郡は宇目（後に南海部郡に編入）や今市（後に大分郡に編入）などを含む 160 村あまりで、その後財政効率化などのため合併を繰り返して明治 22（1889）年の市制町村制施行頃には 30 村となりました。明治 35（1902）年に三重村は町制を施行して三重町となり、翌明治 36（1903）年に犬飼町、昭和 3（1928）年に大野町が続いて施行しています。



明治時代の豊後大野市域の町村（赤は明治 11 年、青は 22 年以降）

旧緒方村役場（国登録有形文化財）は旧緒方村が南緒方村との合併を契機に昭和 7（1932）年に建設された木造庁舎建物で、当時の姿に復元されています。スクラッチタイルの外壁や天井の石膏レリーフなど当時流行した建築様式が残されています。



復元された旧緒方村役場

河川交通の発達

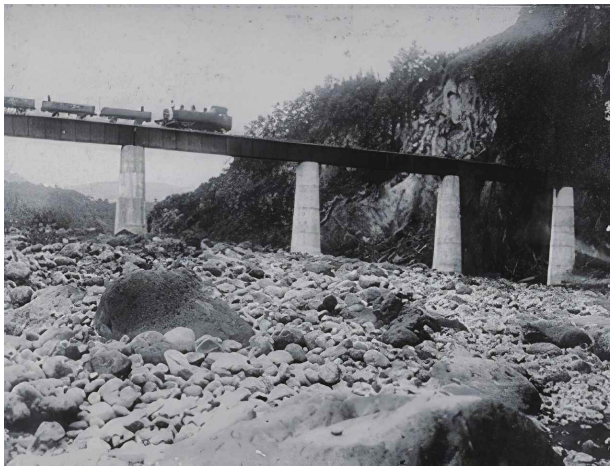
江戸時代に犬飼港まで開通していた大野川の河川交通は明治初期に行われた大野川通船工事により竹田まで舟の運送が始まり、途中の中継の川港が開港しました。細長港跡（三重町宮野）や岩戸港跡（清川町臼尾）にある記念碑により、当時の繁栄が伝えられています。また、蝙蝠滝舟路跡（朝地町上尾塚）は蝙蝠滝を迂回する舟路として設けられました。



細長港跡

鉄道の開通

大分から竹田方面に鉄道の建設が進み大正 6（1917）年に犬飼駅が開通し、さらに延伸されて大正 12（1923）年には朝地駅まで開通します。やがて大分と熊本を結ぶ九州横断路線の豊肥本線が開通し、河川交通に代わって地域経済の発展に寄与しました。



豊肥線岩戸鉄橋

アーチ式石橋の建設

険しい地形の多い市内では江戸時代後期より溶結凝灰岩を利用したアーチ式石橋が架けられてきました。鉄道の開通とともに駅までの物資輸送のための交通路が整備され盛んに架橋されていきました。また灌漑用水路の発達による水路橋として石橋建造が進み、現在でも多くの石橋が残されています。中でもアーチの径間が日本最大の 32.1 mの轟橋や、橋長 78.4 mの長瀬橋、原尻橋などの大型橋は、土木学会選奨土木遺産に認定されています。


轟橋（手前）と出会橋（奥）

井路開削と灌漑の発達

豊後大野では田畑に水を引く用水路は井路とも呼ばれています。井路の開削による水田開発は古くから行なわれていますが、岩盤掘削技術が発達する明治期以降、富士緒井路や若宮井路、明正井路、長谷緒井路などの長距離水路が建設され、農業の発展につながりました。

このような長距離水路の開削により丘陵地にも通水するようになると、軸丸棚田（緒方町軸丸）のような棚田景観が生まれました。

水力発電所の建設

明治 42（1909）年沈堕の滝に水力発電所として沈堕発電所が造られました。ここで発電された電力は、大分～別府間の路面電車の動力源として利用され、大分の近代化を支えました。現在も水力発電所の建物跡が残されています。


沈堕発電所

鉱山の開発

祖母傾山系のふもとでは様々な鉱物資源が産出し、古くから鉱山開発が行われました。

多くの鉱山は短期間での採掘でしたが、江戸時代より採掘が始まっていた尾平鉱山は、錫のほか硫砒鉄鉱など 80 種類もの鉱石を産出していました。昭和初期頃より近代的な施設が整えられると採掘量が大幅に増加し、国内有数の錫鉱山となりました。最盛期の昭和初期には 2 千人もの人々が暮らしていましたが、昭和 34（1959）年に閉山しました。


尾平鉱山選鉱場

太平洋戦争と豊後大野

明治時代以後富国強兵のもとに産業が活発化して西洋化が進む一方、日本は諸外国と武力衝突が起きるようになります。日清戦争に続いて日露戦争に勝利したものの多くの犠牲と多大な戦費を費やします。その後も大陸への進出により戦線が拡大し、日中戦争が始まると多くの若者が出征し、残された家族も物資が不足する中で厳しい生活を送るようになります。

昭和 16（1941）年にアジア・太平洋戦争に突入し東アジア全域まで戦線は拡大しますが日本は次第に劣勢となり、主要都市の多くが空襲を受けるようになります。市内でも昭和 20（1945）年 7 月 30 日に千歳町や朝地町での空襲で死者が発生しています。

本土決戦に備えて三重町大原や千歳町鹿道原に陸軍秘匿飛行場が建設され、多くの人々が建設工事に動員されました。しかし完成まもなく終戦となり、飛行場として利用されることなく元の農地に戻

り、その痕跡は全く残っていません。他にも三重中学校敷地内の防空監視哨（かんししょう）や、大原飛行場近くに造られた通信施設や地下壕なども戦後、埋め戻されました。唯一鹿道原飛行場建設に使われたローラーが千歳小中学校に残されているのみです。

日本全国を戦時体制に巻き込んだ太平洋戦争は昭和 20（1945）年 8 月 15 日の終戦により終結します。戦後のあたらしい政治や制度による平和な社会のもとで国土の復興が始まり経済成長へ向かいます。



飛行場建設のローラー（千歳小中学校）

第 22 章
豊後大野市の民俗芸能

豊後大野市には、人と自然が織りなして生み出された景観と、その景観を生むに至った人々の営みの中に生まれた伝統的な文化が存在します。この伝統文化は、地域の習俗・習慣・信仰と密接な関係を持つ民俗芸能（以下、芸能という）として人々に受け継がれ、豊後大野市を物語るうえで欠かせないものとなっています。

豊後大野市域は、江戸時代は岡藩と臼杵藩とにまたがっており、それぞれの藩に文化的な特徴があって、受け継がれてきた芸能にもその特徴が表れていました。

時代は進み明治維新、廃藩置県、町村制施行、さらには昭和、平成の町村合併を経たことで、芸能はさらに発展、拡散し当該地方を代表とする文化となりました。

当地で見られる芸能には神楽、獅子舞、白熊、棒術、千盆搗（せんぼんづき）、盆踊りなどがあり、国、県、市の文化財指定を受けた団体も多く存在しています。

神楽（かぐら）



御嶽神楽【2024 年撮影】

浅草流、御嶽流、深山（ふかやま）流、三輪（みわ）流と４つの流派に分かれ伝承されています。特に浅草、御嶽、深山の３流派は「大野系岩戸神楽」と総称され、この豊後大野発祥の神楽として県下に最も多く伝播する芸能として人気を博しています。大野系岩戸神楽は、着面し絢爛豪華な衣装をまとい荒々しく舞うのが特徴で県内他地域にも伝播する当地を代表する文化です。

また、三輪流は、臼杵発祥の採り物（とりもの）神楽で、江戸時代、臼杵藩に属していた三重町に多く分布する神楽です。市内には向野地区、上田原地区に伝わっており、上田原地区では湯立（ゆたて）神楽を行うことで知られています。



上田原湯立神楽【2009 年撮影】

獅子舞（ししまい）



泉獅子舞【2009 年撮影】

市内全域で、御嶽流、大行事八幡流（だいぎょうじはちまんりゅう）（今山流・緒方流）、西山古神（にしやまこしん）流、深山流、奥嶽流などの流派に分かれて伝承されています。

当地の獅子舞は、２頭又は４頭の獅子を立て、２人又は３人の舞子が演じ、笛・鉦・太鼓の奏でる調子で荒々しく舞うことで、その場所の魔を払い、清める意味を持っており、神輿巡行の露払いを担う芸能となっています。これも豊後大野発祥の民俗芸能とされ、県内では竹田市などに伝わっています。

白熊（はぐま）



石原（いしばる）白熊【2009 年撮影】

獅子舞と同様、当地方独特の芸能で、毛槍を担いだ練り子と調子を取る歌い手とで構成され、一般的には大名行列を模したことから発祥した芸能といわれています。

その分布範囲は、豊後大野市とその周辺に限定され、神楽・獅子舞より強い地域性を持った芸能ですが、大人数を要す芸能であることから各団体とも継承が立ちゆかなくなっている現状です。

棒術（ぼうじゅつ）



細口棒術【2009 年撮影】

明治維新の混乱期に武士階級より伝授された武術が芸能化したとされ竹内流、鞍馬（くらま）流、岡藩直伝などがあります。いずれも実戦的な所作を強く残す豊後大野特有の芸能とみられ、市内でも特定の地域にしか伝承されていない希少な芸能です。

これらの芸能の他にも、堤普請（つつみぶしん）や井路普請（いろぶしん）の際に仕事の効率を上げるために歌った唄や踊りが芸能化した「千盆揚（せんぼんづき）」や、かつては地域行事として盛んに行われていた「盆踊（ぼんおど）り」といった芸能があります。

現在では、ごく限られた地域に伝わるもので継承活動は厳しい状況ですが盆踊りの唄や千盆揚の様子は音源や映像記録として保存されています。

以上が、豊後大野市に伝えられている芸能の概要です。

これらの芸能は、今も各地の神社で春や秋に行われる祭典、各種イベントで披露されており、里に響き渡るお囃子は当地の風物詩となっています。

また、緒方町の「緒方三社川越（さんしゃかわごし）し祭り」や千歳町の「柴山八幡社ひょうたん祭り」などは、神輿の川渡りや巨大なワラジを履いた「ひょうたん様」の登場といった他では見られない特徴もあって、市内外によく知られ、多くの人が見学に訪れます。

しかし、近年進む少子高齢化は、いずれの芸能、祭りの維持存続に影響し、後世へと受け継いでいくことは年々厳しい状況となりつつあります。

市では、映像化など可能な限りの保存措置を講じてきましたが、継承する「人」の減少に抗うことは難しく、市制施行から 20 年の間に保持できなくなった芸能もあります。

ただし、これらの芸能を継承することを理由として地域に残る若者が存在することもあり、引き続き守り、伝えていくことが必要です。

豊後大野市神楽会館では、これらの芸能を有料で公開することで、継承活動の後押しをしており、今後とも地道で粘り強い支援を継続させていきます。

第 23 章
歴史的な人物

朝倉文夫（あさくらふみお）

明治16（1883）−昭和39（1964）年

彫塑家

旧上井田村（朝地町）に渡辺要蔵の三男として生まれ。10 歳の時、養子として朝倉家を継ぎ、19 歳で上京。東京美術学校彫刻選科を卒業後、卓越した描写力で「自然主義的写実主義」といわれる作風を確立しました。大正 8（1919）年に帝展審査員になったのを皮切りに、同 10（1921）年に東京美術学校教授、同 13（1924）年に帝国美術院会員となり、昭和 23（1948）年には文化勲章を受賞しました。代表作に「墓守」などがあり、肖像作品を多く手がけました。舞台芸術家で画家の朝倉摂（本名･摂子）は長女、彫刻家の朝倉響子は次女。

（大分県歴史人物事典・朝地町史）

麻生豊太郎（あそうとよたろう）

万延元（1860）〜昭和15（1940）年

蚕種技術者

緒方町井上で生まれ、養蚕業の先駆者で、緑肥栽培法や水稲の品種改良で農業経営の安定化に尽力しました。

（大分県歴史人物事典）

安藤喜一郎（あんどうきいちろう）

安政6（1859）−昭和14（1939）年

実業家

大野郡夏足村（大野町）で生まれ、醸造業や銀行経営などを手がけ、実業界の重鎮的存在でした。田中村会議員や郡会議員、県会議員もつとめました。

（大分県歴史人物事典・大野町史）

安東寿郎（あんどうとしろう）

明治12（1879）−昭和32（1957）年

数学者で日本の算数理科教育の先覚者

緒方町木野で生まれ、竹田高等小学校では滝廉太郎と同期。東京高等師範学校の教授を勤め、算数や理科教育の普及に努めました。

（大分県歴史人物事典）

安東誠（あんどうまこと）

明治6（1873）−昭和32（1957）年

蚕種技術者

豊後高田市の生まれで、井田村（現千歳町）の豊国製糸の支配人として移住。養蚕技術の向上に尽くし、井田村長（現千歳町）もつとめました。

（大分県歴史人物事典・千歳村誌）

生島敏士（いくしまびんし）

明治18（1885）−昭和32（1957）年

花火師

大分市の増田現一煙火製造所で修行の後、大正 6（1917）年犬飼町に工場を建築し移住。研究と実験を重ねて独特の花火を考案し、豊後花火の基礎を築くなど名声を博しました。

（大分県歴史人物事典・犬飼町誌）

石野玉儁（いしのぎょくせん）

明治16（1883）−昭和24（1949）年

画家

福岡県戸畑村の生まれ。東京美術学校に入学後、東京などで教員を経て、大野町で金光教の布教活動のかたわら画業に取組み、独自の画風の南画作品を描きました。

（孤高の絵旅人石野玉儁）

一万田鑑実（いちまだあきざね）

生没年不詳

戦国〜安土桃山時代の武将

豊後国守護の大友能直の六男であった時景を祖とする一万田氏は、大野郡大野郷上村（朝地町）の地頭に任じられた有力な大友家臣です。一万田鑑実は大友 21 代義鎮（宗麟）の頃九州各地の遠征に参加して多くの戦功を挙げています。天正 15（1587）年の豊薩戦争において息子の鎮実と共に薩摩の島津氏と戦いましたが、一族の謀反による責任を負って自刃したと伝えられています。朝地町池田に館跡があり、詰城としての鳥屋城や出城としての小牟礼城などを構えていたことと推定されています。

（朝地町史）

市万田虎人（いちまだとらと）

慶応2（1866）−大正13（1924）年

医師

佐草村（清川町三玉）の岡藩医師の家の生まれ。家業を行ないながら、牧口村（現清川町）の村長として村政や農業界・教育界の振興にも努めました。

（大分県歴史人物事典・清川村誌）

伊東東（いとうあずま）

明治19（1886）−昭和34（1959）年

郷土史家

三重町秋葉で酒造業をしながら郷土誌の研究を行ない、柳田国男や小川琢治ら中央の学者と接触し、文献研究と実地調査で歴史研究者としての地位を確立。また終戦時の三重町長も務めています。

（大分県歴史人物事典・三重町誌）

伊東研蔵（いとうけんぞう）

天保11（1840）−大正9（1920）年

井路開削の技術者

緒方町上畑の庄屋に生まれ、生涯で５つの井路開削の実測・設計に従事しています。また林業の振興や上畑小学校の開設にも貢献しています。

（大分県歴史人物事典）

宇野十平（うのじゅうへい）

弘化3（1846）−明治37（1904）年

農事殖産家

竹田市で生まれ、清川町宇田枝に移住し、農事殖産経営にあたりました。養蚕指導や畜産業・製糖業などにも携わっています。

（大分県歴史人物事典・清川村誌）

衛藤官（えとうつかさ）

明治26（1893）−昭和50（1975）年

建築家

牧口村大字天神（現緒方町）の生まれで、大阪の辰野工学博士経営の建築事務所に入社し、多くの建築物の監督または主任として携わっています。帰郷後も設計監督事務所を開設し、当時の県下の代表建築物の設計を行なっています。（大分県歴史人物事典）

衛藤安馬（えとうやすま）

明治6（1873）−昭和18（1943）年

教育・社会実業家

大野郡内尋常高等小学校長を歴任し、信用購買販売組合や農事実行小組合の設立、合川水力電気株式会社の設立に尽力しています。

（大分県歴史人物事典・三重町誌）

大野基尚（おおのもとひさ）

明治17（1884）−昭和45（1970）年

ブラジル移民指導者、大野町長

片島村（大野町）で生まれ、東京外国語学校スペイン語科で学ぶ。卒業後、ブラジルへの第１回移民の監督としてブラジルへ渡り、現地で移民たちの世話をしながら栽培技術指導等を行っています。帰郷後、昭和 23（1948）年大野町長に就任。植林や土壌改良など農林業の発展に尽力しました。

（大分県歴史人物事典）

大野泰基（おおのやすもと）

生没年不詳

平安末〜鎌倉初期の武将

豊後武士団大神一族の大野氏出身。鎌倉幕府に領国を没収された大神一族を率いて対抗しますが、神角寺の合戦で敗れて自害したと伝えられています。

（大分県歴史人物事典・大野町史）

緒方惟栄（おがたこれよし）

生没年不詳

平安末〜鎌倉初期の武将

豊後武士団大神一族の武将で、緒方を拠点としたため緒方氏を名乗りました。源義経に協力して九州における反平家の中心人物として活躍し、一族を率いて平家追討に大きな功績をたてました。その後義経との接近により源頼朝より捕えられ、沼田荘（群馬県）に配流となります。のちに許されたが帰国途中で病死したともいわれています。　（大分県歴史人物事典）

岡本一策（おかもといっさく）

明治22（1889）−昭和21（1946）年

外交官

三重村（三重町）生まれ。三重高等小学校卒業後、上京し私立中学で学びます。英会話は抜群で外務省

に勤務し、中国・アメリカ・シンガポール等の領事となります。昭和 15（1940）年に辞職し、上海工部局に転職。大戦末期に帰国し、外交国策に関与しました。

（大分県歴史人物事典・三重町誌）

小野武夫（おのたけお）

明治16（1883）−昭和24（1949）年

農学者

川辺村（三重町）生まれで、篤農家であった祖父の影響を多大に受けます。県立農学校卒業、上京し、農商務省に勤務。職を転々とする間、農民経済史の研究を続け農学博士を授与されます。帝国農会の委嘱を受け、永年小作慣行の調査を行い「永小作論」を発表。農民経済史の他、百姓一揆の研究も行い、一生を農村研究にささげました。

（大分県歴史人物事典・三重町誌）

葛城一（かつらぎはじめ）

明治13（1880）−昭和50（1975）年

医師

大分市で生まれ、千歳村の葛城家に養子に迎えられます。陸軍軍医部に入り、その後眼科の最新技術を学び、新殿（千歳町）で医業を継ぎます。特に眼科の名医として名高く、約 20 年間学校医を勤めました。また、村会議員などもつとめ、社会福祉活動にも尽力しています。

（大分県歴史人物事典・千歳村誌）

門石長秋（かどいしおさあき）

明治10（1877）−大正15（1926）年

歯科医師

宇田枝村（清川町）で生まれ、上京して歯科医学院卒業後、歯科医術開業試験に合格。長野県上田市で開業していましたが明治 41（1908）年に再び上京し、神田で開業、日本歯科医師会副会長の要職に就きます。大正初期に私財を投じて東京歯科医学講習所を開設。郷土出身の受講者も多く指導し、歯科医師の養成に尽力しました。大正 12（1923）年の関東大震災に被災後、病を得て再起できないまま亡くなりました。

（大分県歴史人物事典・清川村誌）

加藤長古（かとうながふる）

元文4（1739）−文化11（1814）年

江戸時代の御嶽神社（清川町）の神主

15 世紀半ばの神社創建と同じ頃に始まったと伝わる御嶽神楽に、演目などを創始・追加し今日の神楽として完成させたといわれています。

（清川村誌・悠久に舞継ぐ御嶽神楽）

清原無暦（きよはらむれき）

天保元（1830）−明治37（1904）年

書家、勤王家

日出村（日出町）の光蓮寺に生まれ、無暦は号、名は宣道。20 歳のときに田中村（大野町）の法盛寺の第 16 世住職となり、近隣で宗学を教えるなどしています。教部省に勤めるなどいくつかの職を歴任し、官界を退いた後は、書画に専念し、各地を巡遊して画作につとめました。

（大分県歴史人物事典・大野町史）

吉良元夫（きらもとお）

慶応3（1867）−昭和13（1938）年

政治家

上井田村上尾塚（朝地町）に生まれ、家業の酒造に従事しながら村会議員や村長を勤めました。衆院議員に立候補し当選、運輸通信に力を入れ、朝地駅の開通に尽力しています。

（大分県歴史人物事典・朝地町史）

国見岩（くにみいわ）

寛政年間（179?）−弘化3（1846）年

力士

江戸時代の力士。名を衛藤文五郎といい、宇田枝（清川町）の生まれ。岡藩お抱えの力士として随一の強さを誇ったといわれています。宇田枝に古荘梅谷の揮毫といわれる墓碑があります。　（清川村誌）

久保寿獲（くぼじゅかく）

明治12（1879）−昭和28（1953）年

医師

徳田村（緒方町）に生まれ、日露戦争に軍医として出征した後、郷里で開業します。以来村医や学校医として地域医療に尽くす一方、県会議員にも選ばれ、教育や農業の振興に努めました。

（大分県歴史人物事典）

小玉治行（こだまはるゆき）

明治33（1900）－昭和47（1972）年

判事

犬飼町石井に生まれ、大正 13（1924）年に中央大学法学科を首席で卒業後、裁判所判事として各地を転任し、昭和 22（1947）年大審院判事となり勅任官となります。退官後、衆院議員に当選し、自由民主党の法律関係に尽力しました。

（大分県歴史人物事典・犬飼町誌）

後藤郷兵衛（ごとうごうべえ）

宝暦13（1763）－天保11（1840）年

江戸時代後期の石工

柴北（犬飼町）に生まれ。農業のかたわら石工として活躍し、特に石造彫刻の繊細な技巧は藩内に名声を博しました。岡城の改修や道路・橋梁の多くに参画し、架橋技術は肥後（熊本県）より学んだと伝えられています。息子も二代目郷兵衛として活躍しています。

（犬飼町誌・大分の石拱橋）

後藤鹿太郎（ごとうしかたろう）

天保8（1837）－大正5（1916）年

富士緒井路の企画立案者

軸丸村（緒方町）生まれ、農民の強訴運動や干ばつを見て、井路開削の決意を固め、考案した独特の測量法で水源地の探査を始めます。数年かけて水源を発見し、小富士村に井路開削計画を提出。23 年後の 77 歳のとき大正 3（1914）年に井路通水しました。

（大分県歴史人物事典）

後藤静香（ごとうせいこう）

明治17（1884）－昭和44（1969）年

社会教育家・社会運動家

中井田村（大野町）で生まれ、師範学校卒業後、長崎県の女学校に勤務のかたわら、修養教化運動に参加。女子育英事業、難民救済、アイヌ救済、ハンセン病患者救済、盲人教育などの活動をし、修養団体「心の家」を設立し、生涯を社会教育に捧げました。雑誌『希望』を発刊、著書に『権威』などがあります。

（大分県歴史人物事典・大野町史）

後藤基範（ごとうもとのり）

天保13（1842）－大正5（1916）年

養蚕普及の先駆者

夏足村（大野町）に生まれ、養蚕先進地の長野県などで養蚕を学び、研究結果を基にして、養蚕教師として各地を巡回指導など養蚕の普及に努めました。

（大分県歴史人物事典・大野町史）

佐藤徳馬（さとうとくま）

慶応3(1867)－昭和19(1944)年

豊後製糸創設者、明正井路理事長

城原村（竹田市）に生まれ、南緒方村（緒方町）に養子となり、緒方郷の養蚕業の普及にあたりました。牧口村（清川町）に豊後製糸会社を設立し取締役となります。明正耕地整理組合の組合長として技師の矢島義一とともに井路建設に着手し、大正 13（1924）年に完成させました。

（大分県歴史人物事典）

志賀親善（しがちかよし）

永禄11（1568）－没年不詳

戦国時代の武将

豊後国守護の大友能直の八男であった能郷を祖とする志賀氏は、大野郡大野郷志賀村（朝地町）の地頭に任じられた有力な大友家臣です。その子孫の志賀親善は天正 14 年（1586）の島津義弘との合戦で岡城で抗戦して守り抜き、翌 15（1587）年には激戦の末一万田・柏野・小牧などの大野・緒方地域の諸城を奪還し、退却する島津軍を追撃するなどの活躍で豊臣秀吉より功をたたえられました。

（大分県歴史人物事典・大分歴史事典）

重光葵（しげみつまもる）

明治20（1887）－昭和32（1957）年

外交官 政治家

父直愿が大野郡長として赴任していた三重町市場で生まれます。東京大学卒業後、外務省に勤務し、昭和 18（1943）年東条内閣で外務大臣。昭和 20（1945）年ポツダム宣言受諾後の終戦処理内閣の外務大臣となり、降伏文書に調印しました。A 級戦犯となり、刑期を終えた後、政界入りし改進党総裁となります。昭和 29（1954）年結成の民主党で副総裁となり、鳩山一郎内閣で副総理兼外相を務めました。

（大分県歴史人物事典・三重町誌）

柴山兎一（しばやまういち）

安政3（1856）年−没年不詳

養蚕家、犬飼町長

田原村（犬飼町）に生まれ、青年時代から養蚕を学び養蚕所を建てて、大野郡内屈指の飼育者となります。近郷に養蚕を普及宣伝して、養蚕発展に尽くしました。明治32（1899）年より犬飼村長や郡会議員に当選し自治にも貢献しました。

（大分県歴史人物事典・犬飼町誌）

神宮林吾（しんぐうりんご）

明治3（1870）−昭和10（1935）年

医師

百枝（三重町）の医師の家に生まれ、大阪医学校や長崎医学校で医学を学び、東京の病院で実技を習得し外科医師として帰郷して家を継いでいます。明治43（1910）年に犬飼医院を開業し、施療と衛生思想の普及に努力する一方、県郡医師会の幹部として、大野水力電気株式会社、犬飼魚市場株式会社の社長としても活躍しました。

（大分県歴史人物事典・三重町誌）

仙波梧楼（せんばごろう）

明治11（1878）−昭和36（1961）年

医師

小倉木村（大野町）に生まれ、日露戦争に軍医として出征後、牧口村岩戸（清川町）で開業します。以来村医や学校医で医療行政の基礎造りに努め、大野郡医師会長に推挙されて郡医療の振興に尽力しました。また村会議員や県会議員も勤めています。

（大分県歴史人物事典・清川村誌）

田口母山（たぐちぼざん）

文政12（1829）−明治17（1884）年

僧

臼杵町で生まれ、若くして仏門に帰依し、井上村（緒方町）の大福寺住職となります。勤皇の志に厚く、明治3（1870）年に旧長州藩の政府に抗した大楽源太郎をかくまい、百日の禁獄に処せられました。後に教職に就き、大阪に出て大阪日報を経営しました。

（大分県歴史人物事典）

田原至誠（たはらしせい）

明治43（1910）−昭和47（1972）年

教育者、俳人

長峰（千歳町）に生まれ、兵役に就いて負傷した後に教職に就き、戦後は三重高校千歳分校や犬飼分校に勤めました。退職後は広報紙「窓」を編集するかたわら俳句の指導をしています。

（大分県歴史人物事典・千歳村誌）

田原平蔵（たはらへいぞう）

安政5（1858）−明治40（1907）年

養蚕家

犬飼町の生まれで酒造業のかたわら、飼育から蚕種製造・製糸まで一貫した養蚕伝習所を作り近郷農家に教授しています。また、犬飼郵便局長となり、犬飼酒造合資会社設立にも参画しました。

（大分県歴史人物事典・犬飼町誌）

田吹繁子（たぶきしげこ）

明治35（1902）年−昭和63（1988）年

歌人

朝地町に生まれ、関東女学校に勤めますが、夫に死別し歌道に入ります。戦後別府市に移住し、県下の短歌教室で指導、読者文芸の選者となります。仏国詩人ジャンヌ・グランジャン氏と交流し国際親善にも尽くしました。西南役の激戦地となった三国峠に「兵あまたいのち捨てたるこの丘は今秋草の花にうもるる」の歌碑があります。（大分県歴史人物事典）

筑波玄仲（つくばげんちゅう）

文政2（1819）−明治24（1891）年

岡藩の医師

志土知村（竹田市）で医業を開いていましたが、岡藩の御番医であった筑波家の養子になり、郡山村（大野町）に移り住みました。以後地区民に慕われ、藩主から何度も賞されました。

（大分県歴史人物事典・大野町史）

徳田白楊（とくだはくよう）

明治44（1911）−昭和8（1933）年

歌人

上緒方村（緒方町）生まれ。本名森下文夫。旧竹田中学校在学中から短歌をつくり、大分歌壇に投稿、しばしば入選しています。土屋文明と出会い、本格

的に作歌生活に入り、「アララギ」に入会しましたが、病気のため享年 21 歳で他界しました。

（大分県歴史人物事典）

仲村長秋（なかむらちょうしゅう）

天保3（1832）－明治37（1904）年

書家

田中村（大野町）の生まれで、幼い頃から和漢の書を読み、田中郵便局長を 20 年勤めました。書は無欲恬淡、こだわりのない風格が感じられ、大幅が多く、絵も好んで画いています。

（大分県歴史人物事典・大野町史）

成田碩内（なりたせきない）

元治元（1864）－昭和5（1930）年

漢詩人、書家

号は魯石。肥後領鶴崎（大分市）で生まれ、明治 2（1869）年三重村大字市場の成田家に入る。大分・大野郡の教員を勤めるかたわら漢詩を学び、43 歳で漢詩の大成を志し上京。その後京城（朝鮮）に渡り、亡くなるまでの 20 年程を過ごします。漢詩のほか書道も得意とし、多くの筆跡を残しています。

（大分県歴史人物事典・三重町誌）

難波三江（なんばさんこう）

天保11（1840）－明治26（1893）年

南画家

小坂村（三重町）に生まれ、三江は雅号で、名は千尋といい、13 歳で宮尾組大庄屋の難波家の養子となります。幼い頃から画を好み、帆足杏雨に師事し、師範学校の画家教師なども務めます。40 歳で一切の公職から離れ、花鳥画を得意として、画道に励みました。柴山八幡社に絵馬が残されています。

（大分県歴史人物事典・三重町誌）

野田金三郎（のだきんざぶろう）

安政2（1855）－大正8（1919）年

実業家

大分市鶴崎で生まれ、犬飼野田家（現犬飼町）に養子となりました。家業の酒造や雑貨商のほか肥料や農具の販売とともに農家に生産指導を行なうなど地方の指導的存在であり、家業は発展しました。また犬飼村会議員や大野川浚渫の世話役もしています。

（大分県歴史人物事典・犬飼町誌）

羽田野次郎（はだのじろう）

明治36（1903）－昭和63（1988）年

農業指導者、衆院議員

緒方村（現緒方町）で生まれ、東京市役所に勤務後帰郷し、緒方村農協組合長・県農協連絡協議会長時代に農協五連結成発起人会総代表として各連合会の創立を指導し、信用農協連合会長に就任。昭和 24（1949）年に衆院選に当選し協同党・農民協同党書記長となり、政界引退後も農協各連会長を歴任しました。

（大分県歴史人物事典）

羽田野長蔵（はだのちょうぞう）

嘉永3（1850）－昭和9（1934）年

著述家

原尻村（現緒方町）に生まれ、明治 22（1889）年に南緒方村会議員、同年村長となり、原尻学校の創設、道路井路の開削、新農業法の計画・指導などに尽力しました。郡会議員を勤めた後、青年時代に見聞した藩政の一端、明治維新の影響、西南戦争の体験など庶民の側から見た歴史を叙述し、後に「岡藩時代之雑事」として刊行され地方史研究に貢献しています。

（大分県歴史人物事典）

羽田野鳥太郎（はだのとりたろう）

明治元（1868）－昭和4（1929）年

林業家

明治村植木（現竹田市）に生まれ、西大野村鳥屋（現朝地町）の羽田野家の養子となります。道路の改良、造林事業、開田などに意を注ぎ、地域開発の旗手となります。村会議員や郡会議員を勤めながら神角寺国有林造林事業を完遂しました。

（大分県歴史人物事典・朝地町史）

土生米作（はぶよねさく）

明治24（1891）－昭和45（1970）年

教育家

市場村（現三重町）に生まれ、小学校教職に携わった後渡鮮し、24 年間実地の教育により、終戦後在駐米軍当局より教職適格の推薦を受けました。帰郷後は教職や社会福祉施設創設のかたわら、社会教育委員など公民教育にも貢献しました。書画・俳句・短歌・随筆・童謡などの作品を創作し、郷土史の研究にも取組んでいます。

（大分県歴史人物事典・三重町誌）

原尻奥之丞（はらじりおくのじょう）

正徳元（1711）−宝暦9（1759）年

井上村（緒方町）の農民

宝暦３（1753）年に凶作により強訴を起こした首謀者の罪で、岡藩より処刑されました。その後虫送りの行事である小松明に、虫送りの守護神として原尻奥之丞の供養も行なわれるようになったと伝えられています。（大分県歴史人物事典）

伏野義雄（ふせのよしお）

明治25（1892）−昭和40（1965）年

四重電信の発明者

三重村（現三重町）で生まれ、電信の研究により四重電信を発明し、海底電線工事を指導するなど日本通信界に多大な貢献をしました。

（大分県歴史人物事典・三重町誌）

古荘梅谷（ふるしょうばいこく）

寛政10（1798）−慶応元（1865）年

江戸時代の医師

宇田枝（清川町）生まれ。代々家業としていた医業に精進し、藩校由学館の医官として活躍しています。その傍ら、詩文や書画にも熟達し、文人としても優れた作品が知られています。

（清川村誌）

古田兵作（ふるたひょうさく）

天保4（1833）−明治37（1904）年

農事改良家

小原村（清川町）の生まれで、木南切の古田家の養子となりました。家業の酒造業を長男に譲った後、農事改良の研究や実践指導と普及に努め、農業の発展に貢献しました。

（大分県歴史人物事典・清川村誌）

戸次道雪（べっきどうせつ）

永正10（1513）?永正13（1516）?−天正13（1585）年

戦国時代の武将

名は鑑連。鎧ヶ嶽城（大野町）で生まれ、出家した後に道雪と名乗りました。戸次氏は初代より大野郡大野郷中村（大野町）の地頭に任じられた有力な大友家の家臣です。鑑連は大友21代義鎮（宗麟）の頃加判衆（家老）として大友氏を支え、後に筑前（福岡県）の立花城主となります。島津氏との戦いでは大友家臣団に動揺が広がると、檄文を出すなど結束を呼びかけますが、陣中で病のため亡くなりました。養子とした立花宗茂は後に筑後柳川藩（福岡県）の大名となりました。

（大分県歴史人物事典・大野町史）

宮成吉郎右衛門（みやなりきちろうえもん）

生年不詳−文化9（1812）年

新殿村（千歳町）の農民

文化９（1812）年の百姓一揆の指導者として藩により捕えられ、新殿の市右衛門や、栗ヶ畑村（犬飼町）の半右衛門らとともに死罪となりました。

（千歳村誌）

幸貞左衛門（ゆきていざえもん）

文化4（1807）−明治3（1870）年

教育者

臼杵藩士の家に生まれ、犬飼の豪商「関屋」に養子として迎えられました。岡藩内でも数少ない漢学(中国の学問）を教える関屋塾を開き、子女の教育に力を注ぎ、多くの人材育成に貢献しました。

（犬飼町誌）

幸寿（ゆきひさし）

明治44（1911）−平成15（2003）年

画家

千歳村生まれ。早稲田大学中退後、独学で絵画を学びます。ピカソの影響を受けますが、次第にシュルレアリズム風画風に変わり、昭和18（1943）年に美術文化協会展で受賞し会員となります。戦後２年間大分の精神科病院に起居し、「狂女シリーズ」を描いて独自の画風を確立しました。

（大分県立美術館ＨＰより）

渡辺長男（わたなべおさお）

明治7（1874）−昭和27（1952）年

彫塑家

上井田村（朝地町）生まれ。朝倉文夫の実兄。東京美術学校在学中は日本画・木彫・彫塑を学びます。卒業後は彫塑に一生をかけ、特に銅像では草創期の第一人者です。

（大分県歴史人物事典・朝地町史）

【豊後大野市にゆかりのある人物】

井上並古（いのうえなみふる）

享保18（1733）−寛政10（1798）年

岡藩の藩政改革者

号は有淵、通称は主水左衛門。一代家老として岡藩主中川久貞に仕え、藩政の改革を進めました。農民救済の政策は農民に歓迎され、藩財政再建に多大な功績がありました。息子並増によって造られた墓所が朝地町近地に所在し、同じく一代家老となった並増とともに葬られています。

（大分県歴史人物事典・朝地町史）

大友能直（おおともよしなお）

承安2（1172）−貞応2（1223）年

鎌倉時代初期の幕府御家人で大友氏の始祖

源頼朝の側近中原親能の養子となり、頼朝に仕えました。建久 5（1194）年に豊後国守護を拝命され、自身は鎌倉や京都にいて、弟の古庄重吉を遣わせて領国の政務をとらせています。京都で死去しますが、大野町の勝光寺を菩提寺に、常忠寺に墓碑が伝えられています。

（大分県歴史人物事典・大野町史）

雪舟（せっしゅう）

応永27（1420）−永正3（1506）年

室町時代の画僧で、わが国で水墨画の完成者

出家して京都で絵を学び、中国でも修行を行なっています。文明 8（1476）年に府内（大分市）で創作活動を行い、「鎮田瀑図（ちんだばくず）」（大野町・沈堕の滝）を描いたことで知られています。

（大分県歴史人物事典）

種田山頭火（たねださんとうか）

明治15（1882）−昭和15（1940）年

放浪の俳人

山口県の生まれで、酒と旅を愛し、九州・四国・中国を托鉢遍歴し、漂泊の旅を続けて、暮らしを自由律で句にしています。昭和 5（1930）年に三国峠から三重町を訪ね、清川・緒方町を通過して竹田へ向かう間にいくつかの作品を残しています。

（大分県歴史人物事典）

中川久清（なかがわひさきよ）

慶長20（1615）−天和元（1681）年

岡藩三代藩主

儒学者の熊沢蕃山を招いて藩政改革を行い、緒方井路（上井路）の水利工事や犬飼港の整備を手がけるなど、数々の岡藩の藩体制を確立させる政策を行なっています。

（大分県歴史人物事典）

中川久貞（なかがわひさただ）

享保9（1724）−寛政2（1790）年

岡藩八代藩主

在任中、岡城の火災や暴風雨や凶作の被害などで財政状況が悪化したため、井上並古を登用するなどの藩政の改革を行なっています。死去後小富士山に埋葬され、尊崇する儒教に則った墓所が造営されています。

（大分県歴史人物事典）

野上弥生子（のがみやえこ）

明治18（1885）−昭和60（1985）年

作家

臼杵市生まれで本名ヤエ。文化勲章を受章し、文化功労者にも選ばれた作家。母マサは三重町市場出身で処女作『縁（えにし）』は「三重町のおばば様は…」から始まっています。

（大分県歴史人物事典）

参考文献

『大分県歴史人物事典』　1969 年大分合同新聞社
『大分歴史事典』　平成 2 年 株式会社大分放送
『三重町誌沿革編』　昭和 62 年 三重町役場企画商工観光課
『清川村誌』　昭和 54 年 清川村誌刊行会
『朝地町史』　昭和 42 年 朝地町史編集委員会
『緒方町誌総論編』　平成 13 年　緒方町
『大野町史』　昭和 55 年 大野町史刊行会
『千歳村誌』　昭和 49 年 千歳村誌刊行会
『犬飼町誌』　昭和 53 年 犬飼町誌刊行会
『悠久に舞継ぐ御嶽神楽』　平成 15 年 清川村役場総務企画課
『孤高の絵旅人　石野玉儕』　平成 6 年 株式会社エフエム大分
『大分の石拱橋』　昭和 52 年　赤嶺英一

第 24 章
豊後大野市名誉市民

豊後大野市では、「豊後大野市名誉市民条例」を制定しています。公共の福祉を増進し、又は学術若しくは技芸の進展に寄与し、その他社会文化の興隆に貢献した功績が卓絶で、市の誇りとして市民の尊敬を受ける方に、豊後大野市名誉市民の称号を贈り、長くその栄誉を称えます。



＜豊後大野市名誉市民　朝倉文夫＞

氏　　名　**朝倉（あさくら）　文夫（ふみお）**

生年月日　**明治 16（1883）年 3 月 1 日**

出 生 地　**上井田村（現豊後大野市朝地町）**

【略　歴】

明治16(1883)年

大野郡上井田村(現 豊後大野市朝地町)に生まれる

明治36(1903)年 20歳

東京美術学校(現 東京芸術大学)彫刻選科に入学

明治40(1907)年 24歳

同校彫刻選科卒業、卒業制作「進化」下谷区（現台東区）谷中天王寺にアトリエ新築

明治41(1908)年 25歳

第 2 回文展「闇」2 等賞（初出品最高賞）

明治42(1909)年 26歳

東京美術学校研究科修了

第 3 回文展「山から来た男」3 等賞（文部省買上）

明治43(1910)年 27歳

第 4 回文展「墓守」2 等賞（文部省買上）

明治44(1911)年 28歳

第 5 回文展「土人の顔(其二)」3 等賞(文部省買上)

大正1(1912)年 29歳

第 6 回文展「若き日の影」3 等賞（文部省買上）

大正2(1913)年 30歳

第 7 回文展「含羞」2 等賞

大正3(1914)年 31歳

第 8 回文展「いづみ」2 等賞

大正5(1916)年 33歳

文展審査員となる

大正8(1919)年 36歳

帝展審査員となる

大正10(1921)年 38歳

東京美術学校教授に就任

昭和1(1926)年 43歳

朝倉塾としての活動を開始する

昭和9(1934)年 51歳

アトリエを改築、朝倉彫塑塾とする

昭和19(1944)年 61歳

帝室技芸員となる

昭和22(1947)年 64歳

日本芸術院会員となる

昭和23(1948)年 65歳

文化勲章受章

昭和24(1949)年 66歳

日展常任理事となる

昭和33(1958)年 75歳

日展顧問となる

昭和36(1961)年 78歳

台東区名誉区民推戴

昭和39(1964)年 81歳

急性骨髄性白血症にて没する

第 25 章
豊後大野市ふるさと大使

本市の魅力を全国に広く紹介することにより、本市の知名度の向上と文化、産業、観光等の振興を図るため、豊後大野市ふるさと大使を設置しています。

現在、10 名の方にふるさと大使として活動いただいています。



氏　　名	森（もり）　祐作（ゆうさく）
生年月日	昭和59(1984)年11月28日
出身地	豊後大野市朝地町
委嘱年度	令和2(2020)年度
現　　職	ローカルタレント

氏　　名	森迫（もりさこ）　麻衣（まい）
生年月日	平成 4 (1992) 年 12 月 8 日
出身地	豊後大野市三重町
委嘱年度	令和 2 (2020) 年度
現　　職	フリーアナウンサー





氏　　名	藤村（ふじむら）　晃輝（こうき）
生年月日	平成元(1989)年1月26日
出身地	豊後大野市大野町
委嘱年度	令和2(2020)年度
現　　職	TOSテレビ大分アナウンサー

氏　　名	中華（ちゅうか）　首藤（しゅとう）
生年月日	昭和48(1973)年6月29日
出身地	豊後大野市大野町
委嘱年度	令和2(2020)年度
現　　職	タレント・リポーター





氏　　名	矢澤（やざわ）　亜季（あき）
生年月日	平成3(1991)年11月5日
出身地	長野県飯田市
委嘱年度	令和2(2020)年度
現　　職	パリ2024 東京2020 リオデジャネイロ2016 カヌー日本代表

氏　　名	乙野（おとの）　四方字（よもじ）
生年月日	昭和 56（1981）年 1 月 11 日
出身地	豊後大野市緒方町
委嘱年度	令和 4（2022）年度
現　　職	小説家





氏　　名	麻生（あそう）　八咫（やた）
生年月日	昭和 27（1952）年 1 月 3 日
出身地	豊後大野市三重町
委嘱年度	令和 6（2024）年度
現　　職	活弁士

氏　　名	麻生（あそう）　子八咫（こやた）
生年月日	昭和 60（1985）年 10 月 4 日
出身地	埼玉県鴻巣市
委嘱年度	令和 6（2024）年度
現　　職	活弁士





氏　　名	柳亭（りゅうてい）　市馬（いちば）
生 年 月 日	昭和 36（1961）年 12 月 6 日
出　身　地	豊後大野市緒方町
委 嘱 年 度	令和 6（2024）年度
現　　職	落語家

氏　　名	春風亭（しゅんぷうてい）　三朝（さんちょう）
生 年 月 日	昭和 54（1979）年 3 月 16 日
出　身　地	豊後大野市三重町
委 嘱 年 度	令和 6（2024）年度
現　　職	落語家



第 26 章
資 料

（1）人口等の推移

●町別人口・世帯数の推移

（各年 3 月 31 日現在）

	三重町	清川町	緒方町	朝地町	大野町	千歳町	犬飼町	合計
平成17年	18,141	2,611	6,587	3,460	5,513	2,533	4,433	43,278
世帯数	7,221	976	2,497	1,255	1,998	812	1,503	16,262
平成26年	17,307	2,224	5,574	2,929	4,683	2,273	3,967	38,957
世帯数	7,496	961	2,457	1,220	1,967	828	1,524	16,453
平成31年	16,610	1,937	4,865	2,541	4,157	2,076	3,532	35,718
世帯数	7,567	885	2,314	1,137	1,882	814	1,491	16,090
令和2年	16,399	1,908	4,723	2,491	4,085	2,013	3,472	35,091
世帯数	7,531	882	2,272	1,128	1,877	804	1,486	15,980
令和3年	16,204	1,858	4,574	2,397	4,035	1,980	3,447	34,495
世帯数	7,555	871	2,230	1,104	1,892	807	1,485	15,944
令和4年	16,065	1,794	4,407	2,337	3,908	1,946	3,364	33,821
世帯数	7,534	855	2,185	1,078	1,862	812	1,469	15,795
令和5年	15,871	1,743	4,296	2,262	3,796	1,902	3,286	33,156
世帯数	7,556	855	2,143	1,072	1,834	815	1,459	15,734
令和6年	15,658	1,687	4,161	2,168	3,727	1,851	3,200	32,452
世帯数	7,505	844	2,103	1,044	1,832	801	1,459	15,588
令和7年	15,426	1,619	4,057	2,041	3,640	1,778	3,147	31,708
世帯数	7,483	829	2,066	1,004	1,804	786	1,461	15,433
人口増減率 (H17-R7)	△15.0%	△38.0%	△38.4%	△41.0%	△34.0%	△29.8%	△29.0%	△26.7%

資料：市民生活課 住民基本台帳人口による

区分	自然動態						自然増加数
	出生			死亡			
	総数	男	女	総数	男	女	
平成17年	261	128	133	574	291	283	△ 313
令和元年	161	87	74	648	289	359	△ 487
令和2年	163	85	78	667	315	352	△ 504
令和3年	151	79	72	618	299	319	△ 467
令和4年	111	60	51	650	304	346	△ 539
令和5年	111	66	45	757	328	429	△ 646
令和6年	103	58	45	741	344	397	△ 638
令和7年	97	59	38	767	354	413	△ 670

※前年 10 月から当年 9 月までの計。

資料：大分県毎月流動人口調査

区分	社会動態								社会増加数	人口増減
	転入				転出					
	総数	県内	県外	不明	総数	県内	県外	不明		
平成17年	1353	880	473	0	1421	965	455	1	△ 68	△ 381
令和元年	913	551	359	3	1131	719	387	25	△ 218	△ 705
令和2年	977	561	402	14	1144	702	422	20	△ 167	△ 671
令和3年	1020	570	444	6	1147	703	421	23	△ 127	△ 594
令和4年	1079	592	474	13	1156	679	456	21	△ 77	△ 616
令和5年	1101	536	559	6	1160	608	532	20	△ 59	△ 705
令和6年	1082	509	564	9	1178	650	508	20	△ 96	△ 734
令和7年	1075	510	546	19	1200	689	490	21	△ 125	△ 795

※前年 10 月から当年 9 月までの計。
※県外転出取消者は、県外転入・転入者数に含まない

資料：大分県毎月流動人口調査

●国勢調査による年齢別人口（5歳階級）

各年 10 月 1 日現在

年齢	平成 17 年		平成 22 年		平成 27 年		令和 2 年	
	人口（人）	構成比（%）	人口（人）	構成比（%）	人口（人）	構成比（%）	人口（人）	構成比（%）
合計	41,485	100	39,444	100	36,505	100	33,529	100
0 ～ 4	1,435	3.5	1,299	3.3	1,096	3.0	888	2.6
5 ～ 9	1,593	3.8	1,439	3.6	1,316	3.6	1,139	3.4
10 ～ 14	1,751	4.2	1,595	4.0	1,414	3.9	1,337	4.0
15 ～ 19	1,778	4.3	1,581	4.0	1,445	4.0	1,287	3.8
20 ～ 24	1,484	3.6	1,194	3.0	1,043	2.9	912	2.7
25 ～ 29	1,836	4.4	1,511	3.8	1,203	3.3	949	2.8
30 ～ 34	1,934	4.7	1,786	4.5	1,469	4.0	1,126	3.4
35 ～ 39	1,699	4.1	1,912	4.8	1,749	4.8	1,452	4.3
40 ～ 44	1,912	4.6	1,661	4.2	1,868	5.1	1,690	5.0
45 ～ 49	2,407	5.8	1,892	4.8	1,642	4.5	1,858	5.5
50 ～ 54	2,914	7.0	2,441	6.2	1,878	5.1	1,599	4.8
55 ～ 59	3,378	8.1	2,981	7.6	2,461	6.7	1,911	5.7
60 ～ 64	2,747	6.6	3,432	8.7	3,025	8.3	2,486	7.4
65 ～ 69	3,167	7.6	2,736	6.9	3,432	9.4	3,035	9.1
70 ～ 74	3,656	8.8	3,035	7.7	2,595	7.1	3,294	9.8
75 ～ 79	3,542	8.5	3,346	8.5	2,734	7.5	2,377	7.1
80 ～ 84	2,297	5.5	2,953	7.5	2,771	7.6	2,394	7.1
85 ～ 89	1,278	3.1	1,696	4.3	2,156	5.9	2,125	6.3
90 ～ 94	521	1.3	744	1.9	900	2.5	1,272	3.8
95 ～ 99	134	0.3	177	0.4	271	0.7	337	1.0
100 歳以上	22	0.1	33	0.1	37	0.1	61	0.2
年齢不詳	63	0.2	8	0.0	79	0.2	166	0.5

※年齢既知人口の合計。合計と構成比に年齢不詳は除く

資料：国勢調査

●年齢別人口（年齢3区分）

（単位　世帯、人、%）　　各年 3 月 31 日現在

区分	世帯数	年齢3区分別人口				年齢別割合		
		総数	0～14歳（年少人口）	15歳～64歳（生産年齢人口）	65歳以上（老年人口）	0～14歳	15歳～64歳	65歳以上
平成17年	16,262	41,485	4,779	22,089	14,617	11.6	53.2	35.2
令和元年	16,090	35,718	3,567	16,858	15,293	10.0	47.2	42.8
令和2年	15,980	35,091	3,459	16,401	15,231	9.9	46.7	43.4
令和3年	15,944	34,495	3,358	16,009	15,128	9.7	46.4	43.9
令和4年	15,795	33,821	3,207	15,549	15,065	9.5	46.0	44.5
令和5年	15,734	33,156	3,035	15,269	14,852	9.2	46.1	44.8
令和6年	15,588	32,452	2,911	14,802	14,739	9.0	45.6	45.4
令和7年	15,433	31,708	2,765	14,453	14,490	8.7	45.6	45.7

※平成 17 年の年齢 3 区分別人口及び年齢別割合は、国勢調査数値（10 月 1 日現在）　　資料：まちづくり推進課

●昼夜間人口

（単位　人、%）

区分	昼間人口	夜間（常住）人口	夜間（常住）人口に対する昼間人口の割合
平成17年	39,840	41,485	96.0%
平成22年	38,041	39,452	96.4%
平成27年	35,566	36,584	97.2%
令和2年	33,075	33,695	98.2%

資料：国勢調査

●労働力状態・男女別15歳以上人口

（単位：人）

区分		総数	労働力人口							非労働力人口
			総数	就業者					完全失業者	
				総数	主に仕事	家事のほか仕事	通学のかたわら仕事	休業者		
平成17年	男	16,760	11,780	11,088	10,473	387	37	191	692	4,980
	女	19,899	9,557	9,229	6,523	2,577	46	83	328	10,342
	計	36,659	21,337	20,317	16,996	2,964	83	274	1,020	15,322
平成22年	男	16,009	10,643	9,716	9,235	315	40	126	927	5,366
	女	19,052	8,564	8,234	6,096	2,019	29	90	330	10,488
	計	35,061	19,207	17,950	15,331	2,334	69	216	1,257	15,854
平成27年	男	14,931	9,813	9,347	8,847	326	44	130	466	5,118
	女	17,748	8,273	8,043	5,964	1,948	34	97	230	9,475
	計	32,679	18,086	17,390	14,811	2,274	78	227	696	14,593
令和2年	男	13,881	9,033	8,507	8,016	321	39	131	526	4,848
	女	16,284	7,721	7,475	5,719	1,587	35	134	246	8,563
	計	30,165	16,754	15,982	13,735	1,908	74	265	772	13,411

資料：国勢調査

参考

（単位：人、%）

区分		総数	労働力人口							非労働力人口
			総数	就業者					完全失業者	
				総数	主に仕事	家事のほか仕事	通学のかたわら仕事	休業者		
平成17年	男	16,760	70.3	66.2	62.5	2.3	0.2	1.1	4.1	29.7
	女	19,899	48.0	46.4	32.8	13.0	0.2	0.4	1.6	52.0
	計	36,659	58.2	55.4	46.4	8.1	0.2	0.7	2.8	41.8
平成22年	男	16,009	66.5	60.7	57.7	2.0	0.2	0.8	5.8	33.5
	女	19,052	45.0	43.2	32.0	10.6	0.2	0.5	1.7	55.0
	計	35,061	54.8	51.2	43.7	6.7	0.2	0.6	3.6	45.2
平成27年	男	14,931	65.7	62.6	59.3	2.2	0.3	0.9	3.1	34.3
	女	17,748	46.6	45.3	33.6	11.0	0.2	0.5	1.3	53.4
	計	32,679	55.3	53.2	45.3	7.0	0.2	0.7	2.1	44.7
令和2年	男	13,881	65.1	61.3	57.7	2.3	0.3	0.9	3.8	34.9
	女	16,284	47.4	45.9	35.1	9.7	0.2	0.8	1.5	52.6
	計	30,165	55.5	53.0	45.5	6.3	0.2	0.9	2.6	44.5

資料：国勢調査

●人口推移

基準日　各年 3 月 31 日

区分	男性	女性	計	前年比増減（人口）	世帯数	前年比増減（世帯数）	面積
平成17年	20,177	23,101	43,278		16,262		603.36
平成18年	19,918	22,865	42,783	△ 495	16,333	71	603.36
平成19年	19,690	22,620	42,310	△ 473	16,379	46	603.36
平成20年	19,344	22,393	41,737	△ 573	16,389	10	603.36
平成21年	19,155	22,126	41,281	△ 456	16,351	△ 38	603.36
平成22年	18,928	21,875	40,803	△ 478	16,356	5	603.36
平成23年	18,720	21,615	40,335	△ 468	16,403	47	603.36
平成24年	18,488	21,371	39,859	△ 476	16,410	7	603.36
平成25年	18,300	21,226	39,526	△ 333	16,475	65	603.36
平成26年	18,059	20,898	38,957	△ 569	16,453	△ 22	603.14
平成27年	17,774	20,538	38,312	△ 645	16,411	△ 42	603.14
平成28年	17,559	20,273	37,832	△ 480	16,389	△ 22	603.14
平成29年	17,220	19,995	37,215	△ 617	16,346	△ 43	603.14
平成30年	16,846	19,607	36,453	△ 762	16,234	△ 112	603.14
令和元年	16,587	19,131	35,718	△ 735	16,090	△ 144	603.14
令和2年	16,377	18,714	35,091	△ 627	15,980	△ 110	603.14
令和3年	16,102	18,393	34,495	△ 596	15,944	△ 36	603.14
令和4年	15,839	17,982	33,821	△ 674	15,795	△ 149	603.14
令和5年	15,533	17,623	33,156	△ 665	15,734	△ 61	603.14
令和6年	15,223	17,229	32,452	△ 704	15,588	△ 146	603.14
令和7年	14,921	16,787	31,708	△ 744	15,433	△ 155	603.14

資料：住民基本台帳

●小中学校の推移

5月1日現在（単位：校・学級・人）

区分	小学校					中学校				
	学校数	学級数			児童数	学校数	学級数			生徒数
		単式	複式	特支			単式	複式	特支	
平成17年	19	90	5	10	2,061	7	34	0	3	1,004
平成18年	16	87	6	10	1,978	7	35	0	3	1,035
平成19年	16	87	5	8	1,928	7	35	0	4	1,067
平成20年	16	97	5	9	1,890	7	40	0	4	1,069
平成21年	14	87	5	10	1,832	7	37	0	5	1,039
平成22年	11	79	1	11	1,810	7	34	0	4	984
平成23年	11	77	1	10	1,770	7	35	0	4	972
平成24年	11	74	2	11	1,699	7	36	0	6	914
平成25年	11	76	2	13	1,674	7	35	0	6	918
平成26年	11	78	2	14	1,701	7	36	0	7	872
平成27年	11	80	1	16	1,635	7	36	0	7	867
平成28年	11	75	3	16	1,606	7	34	0	9	820
平成29年	11	77	2	16	1,584	7	32	0	8	831
平成30年	11	76	1	15	1,575	7	30	0	8	774
令和元年	11	71	3	16	1,531	7	30	0	5	785
令和2年	11	75	1	16	1,476	7	30	0	6	794
令和3年	11	74	0	16	1,451	7	30	0	9	778
令和4年	11	70	3	16	1,394	7	30	0	9	753
令和5年	11	67	4	16	1,341	7	30	0	13	734
令和6年	11	63	5	17	1,278	7	30	0	14	730
令和7年	11	61	6	19	1,198	7	29	0	12	703

資料：学校基本調査

●幼稚園の推移

5月1日現在（単位：校・学級・人）

区分	園数		3歳児		4歳児		5歳児		合計	
	公	私	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数	園児数	学級数
平成17年	11	2	27	ー	58	ー	137	ー	222	24
平成18年	9	2	37	5	56	6	159	12	252	23
平成19年	6	2	31	4	61	6	125	10	217	20
平成20年	6	2	28	4	47	5	144	10	219	19
平成21年	7	2	25	3	52	6	128	11	205	17
平成22年	6	2	20	2	49	4	127	11	196	15
平成23年	5	2	22	3	53	4	119	9	194	15
平成24年	6	2	24	3	54	4	123	10	201	16
平成25年	6	2	22	2	53	4	125	10	200	16
平成26年	6	2	23	2	58	4	108	8	189	14
平成27年	6	9	138	11	169	12	201	15	508	38
平成28年	7	9	142	12	166	12	218	16	526	40
平成29年	7	9	155	12	169	12	206	15	530	39
平成30年	6	9	159	11	172	12	201	15	532	38
令和元年	6	9	155	12	171	11	203	15	529	38
令和2年	5	9	154	13	168	11	191	14	513	38
令和3年	5	9	140	12	159	11	198	14	497	37
令和4年	5	9	127	11	144	11	176	14	447	36
令和5年	4	9	121	10	131	9	155	12	407	31
令和6年	2	8	136	12	126	20	144	10	406	42
令和7年	2	8	75	7	86	6	104	7	265	20

※平成27年度から、認定こども園も集計対象になりました。

資料：学校基本調査

●小学校の状況

令和 7（2025）年 5 月 1 日現在（単位：人）

学校名	学級数	児童数	教員数	1学級当たり児童数
菅尾	7	66	11	9.4
百枝	7	72	14	10.3
第一	16	309	30	20.6
東	12	218	25	18.2
新田	5	39	10	7.8
清川	4	45	10	9.0
緒方	7	105	13	15.0
朝地	6	44	11	8.8
大野	8	133	14	16.6
千歳	8	69	13	8.6
犬飼	7	98	14	14.0

資料：教育委員会

●中学校の状況

令和 7（2025）年 5 月 1 日現在（単位：人）

学校名	学級数	生徒数	教員数	1学級当たり生徒数
三重	17	412	36	25.8
清川	4	34	10	8.5
緒方	5	53	14	10.6
朝地	4	31	13	7.8
大野	4	69	11	17.3
千歳	4	44	13	11.0
犬飼	4	60	13	15.0

資料：教育委員会

(2)行政・議会

市長・副市長（助役）・収入役・教育長

市長

氏名	就任年月日	退任年月日
芦刈　幸雄	平成17年4月24日	平成21年4月23日
橋本　祐輔	平成21年4月24日	平成25年4月23日
橋本　祐輔	平成25年4月24日	平成29年4月23日
川野　文敏	平成29年4月24日	令和3年4月23日
川野　文敏	令和3年4月24日	令和7年4月23日
川野　文敏	令和7年4月24日	

副市長(助役)

氏名	就任年月日	退任年月日
喜田　正憲	平成17年7月22日	平成19年4月30日
衛藤　孝典	平成19年5月1日	平成21年4月23日
田代　勝義	平成21年8月1日	平成25年7月31日
赤嶺　謙二	平成26年4月1日	平成29年4月21日
石掛　忠男	平成29年7月1日	平成31年4月25日
石井　聖治	令和元年5月22日	令和3年3月31日
清水　豊	令和3年5月7日	令和5年5月14日
藤田　敬	令和5年5月16日	令和7年3月31日
白井　将明	令和7年5月8日	

収入役

氏名	就任年月日	退任年月日
安東　忠司	平成17年7月22日	平成21年3月31日

教育長

氏名	就任年月日	退任年月日
首藤　正史	平成17年5月31日	平成21年5月30日
久保田正治	平成21年5月31日	平成25年5月30日
久保田正治	平成25年5月31日	平成29年4月30日
下田　博	平成29年6月13日	令和2年6月12日
下田　博	令和2年6月13日	令和5年6月12日
下田　博	令和5年6月13日	令和8年6月12日
下田　博	令和8年6月13日	

議長・副議長・議員

議長

氏名	就任年月日	退任年月日
若松　成次	平成17年5月17日	平成21年4月23日
生野　照雄	平成21年5月1日	平成23年5月11日
小野　栄利	平成23年5月11日	平成25年4月23日
小野　泰秀	平成25年5月1日	平成27年5月1日
小野　順一	平成27年5月1日	平成29年4月23日
佐藤　辰己	平成29年5月1日	令和元年5月21日
衛藤　竜哉	令和元年5月21日	令和3年4月23日
衛藤　竜哉	令和3年5月6日	令和5年5月15日
田嶋　栄一	令和5年5月15日	令和7年4月23日
沓掛　義範	令和7年5月7日	

副議長

氏名	就任年月日	退任年月日
小野　泰秀	平成17年5月17日	平成19年5月11日
生野　照雄	平成19年5月11日	平成21年4月23日
首藤　正光	平成21年5月1日	平成23年5月11日
伊藤　憲義	平成23年5月11日	平成25年4月23日
小野　順一	平成25年5月1日	平成27年5月1日
佐藤　辰己	平成27年5月1日	平成29年4月23日
衛藤　竜哉	平成29年5月1日	令和元年5月21日
宮成　昭義	令和元年5月21日	令和2年10月26日
沓掛　義範	令和2年11月13日	令和3年4月23日
田嶋　栄一	令和3年5月6日	令和5年5月15日
沓掛　義範	令和5年5月15日	令和7年4月23日
後藤　雅克	令和7年5月7日	

議員

任期 平成17年4月24日～平成21年4月23日
議員定数31人

渡辺　一文	神志那宗作	深田　正和
宇薄　克哲	後藤　章子	三浦　正吉
深田　征三	首藤　正光	宮成　昭義
伊藤　憲義	生野　照雄	衛藤　正宏
宮成　寿男	清田　満作	髙山　豊吉
赤嶺　謙二	小野　栄利	安藤　豊作
若松　成次	佐藤　徳宣	小野　泰秀
津高　栄治	長野　健児	佐藤　生稔
恵藤千代子	小野　順一	佐藤　辰己
橋本　祐輔	浅野　益美	羽田野昭三
衛藤　竜哉		

任期 平成21年4月24日～平成25年4月23日
議員定数24人

渡辺　一文	宇薄　克哲	深田　征三
首藤　正光	宮成　昭義	伊藤　憲義
生野　照雄	衛藤　正宏	宮成　寿男
髙山　豊吉	赤嶺　謙二	小野　栄利
安藤　豊作	佐藤　徳宣	小野　泰秀
長野　健児	恵藤千代子	小野　順一
佐藤　辰己	浅野　益美	衛藤　竜哉
和田　哲治	沓掛　義範	神志那文寛

任期 平成25年4月24日～平成29年4月23日
議員定数22人

渡辺　一文	首藤　正光	宮成　昭義
生野　照雄	衛藤　正宏	宮成　寿男
髙山　豊吉	佐藤　徳宣	小野　泰秀
長野　健児	恵藤千代子	小野　順一
佐藤　辰己	衛藤　竜哉	沓掛　義範
神志那文寛	朝倉　秀康	内田　俊和
小野　勇治	赤峰　映洋	川野　優治
工藤　友生		

任期 平成29年4月24日～令和3年4月23日
議員定数18人

首藤　正光	宮成　昭義	生野　照雄
衛藤　正宏	小野　泰秀	小野　順一
佐藤　辰己	衛藤　竜哉	沓掛　義範
神志那文寛	内田　俊和	赤峰　映洋
川野　優治	田嶋　栄一	穴見　眞児
吉藤　里美	嶺　　英治	後藤　雅克

任期 令和3年4月24日～令和7年4月23日
議員定数18人

首藤　正光	小野　順一	佐藤　辰己
衛藤　竜哉	沓掛　義範	赤峰　映洋
川野　優治	田嶋　栄一	穴見　眞児
吉藤　里美	嶺　　英治	後藤　雅克
原田　健蔵	春野　慶司	佐藤　昭生
高野　辰代	工藤　秀典	川野　辰徳

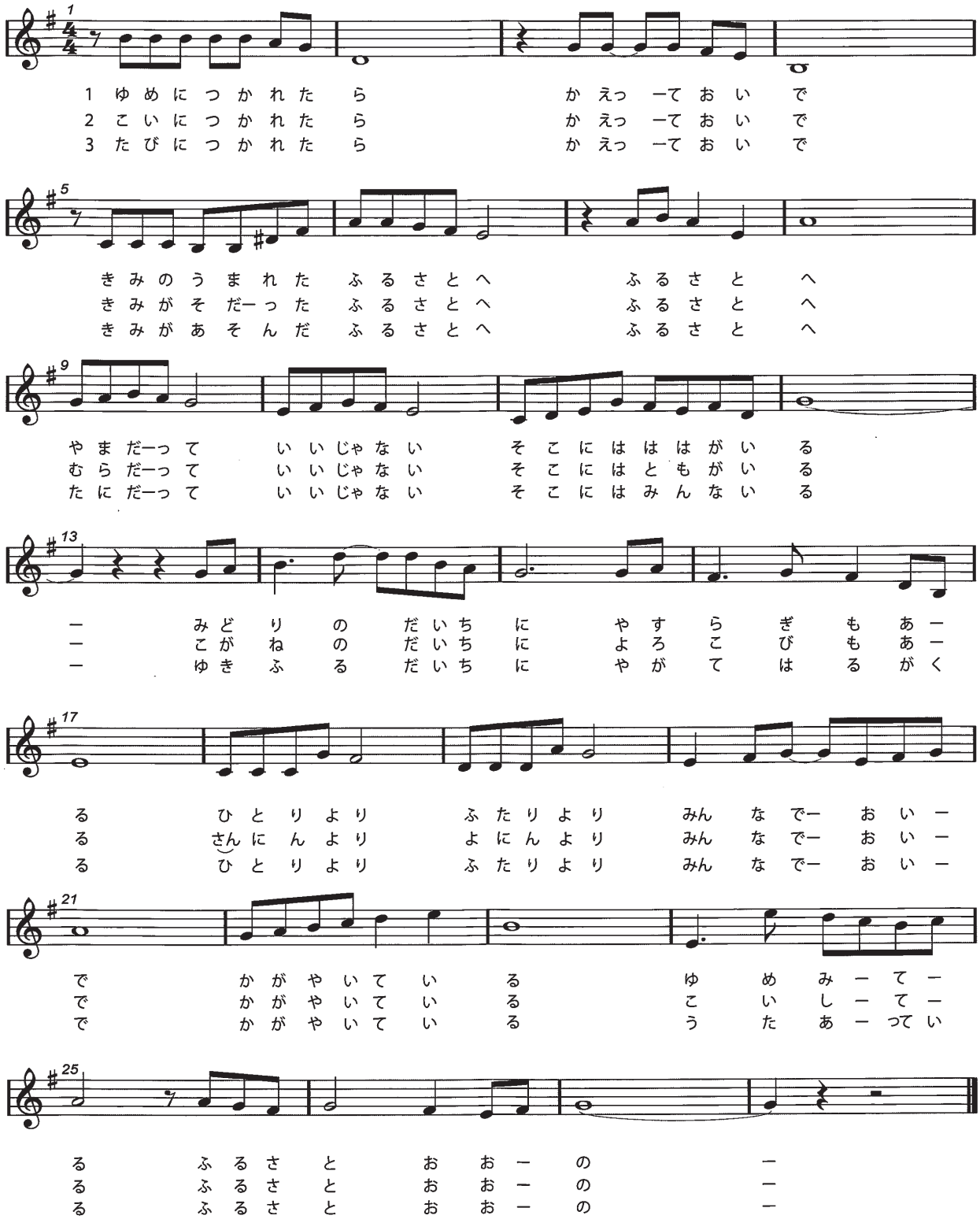
任期 令和7年4月24日～令和11年4月23日
議員定数16人

小野　順一	佐藤　辰己	衛藤　竜哉
沓掛　義範	赤峰　映洋	田嶋　栄一
穴見　眞児	吉藤　里美	嶺　　英治
後藤　雅克	原田　健蔵	佐藤　昭生
高野　辰代	工藤　秀典	赤嶺　信武
三代　政彦		

第 27 章
豊後大野市イメージソング

ふるさとおおの

作詞：工藤笑子
作曲：平尾昌晃
編曲：谷道夫・九州交響楽団



<執筆分担一覧>

第 1 章	市民憲章・市の概要	総務課市長室
第 2 章	合併後のあゆみ	総務課市長室
第 3 章	主な施設	財政課・施設所管課
第 4 章	インフラ整備	建設課・上下水道課
第 5 章	おおいた豊後大野ジオパーク	商工観光課
第 6 章	祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク	商工観光課
第 7 章	サウナのまち	商工観光課
第 8 章	スポーツツーリズムの取り組み	商工観光課
第 9 章	大分の野菜畑　豊後大野	農業振興課
第 10 章	公立学校・こども園の変遷	学校教育課
第 11 章	教育の変遷	学校教育課
第 12 章	公共交通の変遷	まちづくり推進課
第 13 章	商工会のあゆみ	商工観光課
第 14 章	豊後大野市の農業	農業振興課
第 15 章	豊後大野市の林業	農林整備課
第 16 章	グルメと観光	商工観光課
第 17 章	国内外の都市との交流	まちづくり推進課
第 18 章	主な災害	総務課防災危機管理室
第 19 章	指定文化財	社会教育課
第 20 章	市内の遺跡	社会教育課
第 21 章	近代の遺産	社会教育課
第 22 章	豊後大野市の民俗芸能	社会教育課・まちづくり推進課
第 23 章	歴史的な人物	社会教育課
第 24 章	豊後大野市名誉市民	総務課市長室
第 25 章	豊後大野市ふるさと大使	総務課市長室
第 26 章	資料	市民生活課・まちづくり推進課・学校教育課
第 27 章	豊後大野市イメージソング「ふるさとおおの」	まちづくり推進課

<豊後大野市郷土誌編さん専門委員会>

委 員 長：安藤　恒美　氏

副委員長：川原　久芳　氏

委　　員：阿南　邦文　氏

専門委員会監修項目：第 19 章　指定文化財

第 20 章　市内の遺跡

第 21 章　近代の遺産

第 22 章　豊後大野市の民俗芸能

第 23 章　歴史的な人物

豊後大野市20年のあゆみ

令和8年11月発行

発行　大分県豊後大野市
〒879-7198
大分県豊後大野市三重町市場1200
TEL:0974-22-1001

編集　豊後大野市郷土誌編さん委員会

監修　豊後大野市郷土誌編さん専門委員会

印刷　ワークプリント合同会社

